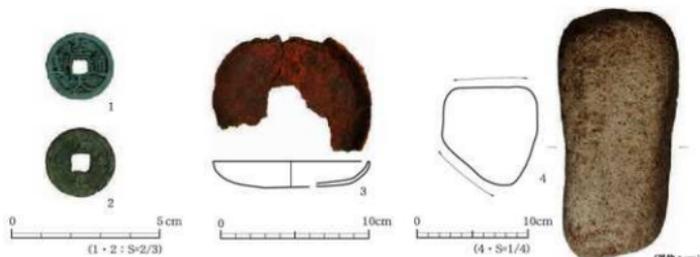


图版104 SB2063~2066建物跡



No.	出土遺構・層位	種別	材質	特徴	備	図録
1	SR2035S1・W2	銅貨品	銭貨	「聖元通寶」(初鑄1310年)		03195
2	SR2046N1・E3	銅貨品	銭貨	「聖元通寶」(初鑄1310年)		03204
3	SR2032N1・W2	銅貨品	銭	口径10.6 断面1.80 残存1/2		03168
4	SR2037N2・W1	石製品	砥石	長23.0 幅10.0 厚9.0		03152

图版105 5区建物跡出土遺物

調査区	建物番号	建物名称	階	方位	平面形状			建物の方向	柱間隔	柱位置	柱位置	備考	図面				
					縦形(長さ(m)/固定列/柱間寸法(m))	横形(長さ(m)/固定列/柱間寸法(m))	高さ/軒高(m)										
SEK	00001	1	東面	9.0	北	4.0×4.0	3.1	西	3.1	E-9-N	北	8-13	20-43	西側、横内面	後面に東西2階、後面1階の留出しあり	平:103, 敷:104	
SEK	00002	2	東面	4.9	北	3.0×3.1	3.1	西	3.1	E-4.9-N	北	12-11	20-43	横内面	後面に東西2階、後面1階の留出しあり	平:103, 敷:104	
SEK	00003	2	東面	6.5	南	3.7×2.8	3.7	西	3.7	E-6.5-S	南	13-18	20-23	西側、横内面	後面に東西2階、後面1階の留出しあり	平:103, 敷:104	
SEK	00004	4	南面	9.3	西	2.8×2.8×2.8	6.7	南	2.8×2.8	N-9.3-W	西	8-10	20-23	横内面	内部柱あり	平:103, 敷:104	
SEK	00005	5	東面	11.5	北	2.5×2.4×1.8×2.0×2.9	5.5	南	3.6×7.7	E-11.5-N	北	9-14	20-20	西側、横内面	【壁2】窓火通管(約100cm)	平:103, 敷:104	
SEK	00006	2	南面	3.8	西	3.7×2.2	3.7	北	2.6×2.6	N-3.8-W	西	10-11	20-23	横内面	内部柱あり	平:103, 敷:104	
SEK	00007	3	南面	11.0	北	3.5×1.4×1.1	7.1	西	2.0×1.2×2.2	E-11.0-S	北	11-11	20-43	横内面	内部柱あり	平:103, 敷:107	
SEK	00008	3	南面	7.3	東	3.1×2.2×2.0	4.6	北	4.0	N-7.3-W	東	10-15	30-40	横内面		平:103, 敷:107	
SEK	00009	2	西面	7.6	南	3.4×2.0	7.6	東	3.4×2.0×2.0	E-7.6-W	南	10-17	20-20	横内面	後面に南北2階は確認せず	平:103, 敷:107	
SEK	00040	2	東面	5.0	南	2.0×3.1	6.3	東	6.3	E-5.0-S	南	11-21	20-46	西側		平:103, 敷:107	
SEK	00041	3	東面	10.3	南	3.4×1.7×4.3	6.1	西	4.0×4.0	E-10.3-S	南	10	20-40	横内面		平:103, 敷:107	
SEK	00042	4	南面	10.8	東	2.0×3.1×2.0×2.4	7.6	南	3.3×4.3	N-10.8-W	東	10-16	33-43	横内面	後面に東西1階、南面2階の留出しあり	柱数 【壁2】窓火通管	平:103, 敷:109
SEK	00043	4	南面	7.8	南	3.9×3.8	6.6	南	2.4×4.2	N-7.8-W	南	13-17	30-41	横内面、横内面	内部柱あり	平:103, 敷:109	
SEK	00044	3	南面	6.1	南	3.0×2.0×2.4	7.3	南	2.0×4.5	N-6.1-W	南	9-15	19-23	横内面、横内面	内部柱あり	平:103, 敷:109	
SEK	00046	4	東面	10.3	南	1.0×2.4×3.1×2.9	3.8	東	3.8	E-10.3-S	南	6-10	20-23	西側、横内面	後面に東西1階、北面に東西4階、南面1階の留出しあり	柱数 【壁2】窓火通管	平:103, 敷:109
SEK	00047	4	東面	6.3	北	3.4×1.0×1.0×1.6	3.7	西	1.8×2.0	E-6.3-N	北	7-18	19-30	西側	後面に東西1階、南面1階の留出しあり	平:103, 敷:109	
SEK	00048	3	東面	6.4	東	1.7×2.2×2.8	3.6	東	1.8×1.9	N-6.4-W	東	9	19-23	西側、横内面	後面に東西1階、西面に東西1階、南面1階の留出しあり	平:103, 敷:109	
SEK	00050	2	東面	7.4	北	1.4×2.0×2.1×1.9	3.9	南	1.0×2.0	E-7.4-N	北	9	19-20	西側		平:100	
SEK	00052	2	東面	3.9	北	1.0×2.0	3.4	南	3.1	E-3.9-N	北	9-18	30	西側		平:100	
SEK	00054	4	東面	7.9	南	11.0×1.1×1.7×2.1	3.8	東	2.0×2.4	N-7.9-W	東	10-16	20-23	西側	内部柱あり	平:101	
SEK	00055	4	西面	7.7	東	1.0×2.0×2.0×2.1	4.5	東	3.0×3.7	N-7.7-W	東	11-09	20-23	西側	後面に東西1階、南面1階の留出しあり	平:101	
SEK	00066	4	南面	6.2	南	1.7×3.2×3.0×2.3	5.2	南	2.6×2.6	N-6.2-W	南	10-12	10-30	横内面	後面に東西1階、西面に東西1階、南面1階の留出しあり	平:101	
SEK	00071	2	南面	6.3	東	2.0×1.8	3.0	南	3.0	N-6.3-W	東	10-12	10	西側		平:101	
SEK	00098	3	西面	6.2	南	2.0×1.0×2.3	3.9	南	2.0×1.8	N-6.2-W	南	9-18	20-30	横内面、横内面	内部柱あり	平:101	
SEK	00100	2	東面	4.9	南	2.0×2.0	3.7	南	1.0×2.0	N-4.9-W	南	10-16	20-23	西側	後面に東西1階、南面1階の留出しあり	平:101	
SEK	00200	2	南面	6.1	東	3.0×4.5	4.5	東	2.0×2.3	E-6.1-S	東	10-17	20-23	西側	内部柱あり	平:101	
SEK	00261	2	東面	6.8	南	3.4×3.3	4.1	南	2.0×1.9	N-6.8-W	南	10-13	20-30	横内面	内部柱あり	平:101, 敷:100	
SEK	00262	2	南面	6.1	東	2.7×2.4	6.5	南	4.5	N-6.1-W	東	10-16	20-23	西側、横内面		平:101, 敷:100	
SEK	00263	(A)	東面	6.9	南	4.0×2.0×2.0×2.1	3.8	東	3.8	E-6.9-S	南	9-20	30-41	横内面、横内面	内部柱あり	平:103, 敷:104	
SEK	00064	1	東面	3.1	北	3.1	2.8	東	2.8	E-3.1-N	北	8-14	20-20	横内面		平:103, 敷:104	
SEK	00065	3	西面	7.1	南	2.2×1.0×2.9	3.5	東	4.4×1.1	E-7.1-W	南	7-16	20-23	横内面	後面に南北2階は確認せず	【壁2】窓火通管	平:103, 敷:104
SEK	00066	(B)	南面	6.5	東	3.1×2.3×1.1	6.3	北	4.0×2.0×2.0×2.0	N-6.5-W	東	10-18	20-30	横内面、横内面		平:103	

※ () 内の数字は測定値

※ 建物の面積で2階以上あるのは、「非倉庫型、南(北)は2階」であることを示す。

※ 柱間寸法は、東面方向のものは柱間寸法、南(北)方向のものは柱間寸法を示す。

※ 柱間寸法以外のシフトや傾斜等は必ず図面に記載(図面参照)。

第3表 5区建物跡属性表

b. 井戸跡

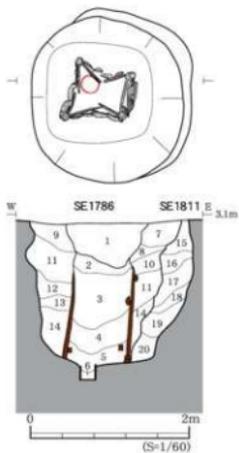
井戸跡は64基確認した。分布をみると、S D1829区画溝跡周辺からS D1494区画溝跡北側の中央部(48基)に集中しており、他は北端南西に6基、南部(S D1494南側)に7基認められるのが目立つ程度である。64基のうち、枠を有するのは7基(S E1775・1786 B・1793・1796・1866・1881・2602)のみで、他は素掘りである。また、前者のうち4基は枠がすべて抜き取られていたため、その詳細は不明である。したがって、枠が残っていたS E1786 B・1881・2602井戸跡については個別に、他は一括して概要を述べることにし、個別のデータは、第4表にまとめた。

(i) 井戸側を有するもの

【S E1786井戸跡】(図版106)

5区南部中央で確認した板材を縦に組んで側板とした井戸跡である。S E1811井戸跡より新しい。掘方の平面形は確認面で2.1×1.9mの円形、底面では一辺1.0~1.1mの方形で、深さは1.8mある。また、底面北西部は径25cm、深さ20cmほど掘込まれており、底に水溜用の曲物が据えられていたと考えられる。掘方の断面形は箱形である。

枠の内法は一辺60cmで、皮をむいた丸太の周縁材の平らな面を内側に向けて各辺4枚ずつ立て並べ、それを隅柱に組み込んだ横棧で保持している。横棧は2段確認でき、両者の間隔は0.6~0.7mである。



井戸側検出状況（南から）



南西隅柱



北西隅柱

No.	土色・土性	埋入物など	備考	No.	土色・土性	埋入物など	備考
1	黒褐色 (DPYR2) シルト		砂配穴	11	黒褐色 (LSYU) シルト	地山大ブロックを含む	
2	黒褐色 (DPYR3) シルト			12	黒褐色 (LSYU) シルト	地山大ブロックを含む	掘方層土
3	オレンジ褐色 (SYA) 砂質粘土	グライセ、礫物遺体を多数を含む	内外層土	13	黒褐色 (LSYU) シルト	地山大ブロックを含む	SE1786層土
4	オレンジ褐色 (SYA) 砂質粘土	グライセ、地山碎小ブロックを多数を含む		14	オレンジ褐色 (SYA) シルト	グライセ、地山碎小ブロックを多数を含む	
5	暗緑褐色 (LSYU) 粘り質砂	グライセ、地山碎玉、礫物遺体を多数含む	SE1786層土	15	黒褐色 (LSYU) シルト	地山大ブロックを含む	
6	黄褐色 (DPYR2) シルト	グライセ		16	黒褐色 (LSYU) シルト	地山大ブロックを含む	
7	黒褐色 (DPYR2) シルト	地山大ブロックを多数を含む		17	黒褐色 (LSYU) シルト	地山大ブロックを多数を含む	掘方層土
8	黒褐色 (DPYR2) シルト			18	暗緑褐色 (LSYU) 粘り質土		
9	暗緑褐色 (LSYU) シルト	黒色土層・地山大ブロックを含む	掘方層土	19	暗緑褐色 (SYA) 粘り質土		
10	黒褐色 (DPYR4) シルト			20	暗緑褐色 (SYA) 粘り質土	地山大ブロックを多数を含む	



井戸側（南から）



井戸側（南辺側板除去後）



横棧の仕口（縮尺任意）



横 (S=1/3)

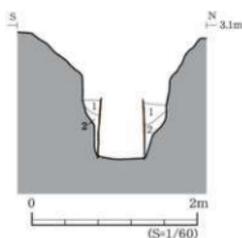
図版 106 SE1786・1811井戸跡

横棧と隅柱とはほぞで組まれるが、必要に応じて楔が使用された。側板は幅が15~20cm、厚さは3~5cmある。隅柱は径10~13cmの心持材を使用しており、残りの良いものは高さが160cmある。ほぞ穴は一辺3~4cmの方形である。横棧は径5~8cmの材を方形に加工し、仕口は相欠きほぞに仕上げている。

堆積土は枠内堆積土(2~6)、枠抜取穴堆積土(1)、掘方埋土(7~20)に分けられる。遺物は枠内堆積土の4層からクリ、2層から陶器碗・片口鉢、抜取穴から陶器皿が出土している。

【SE1881井戸跡】(図版107)

5区中央部東側で確認した葦を簾状に組んだ枠をもつ井戸跡である。SK1880土壌より新しい。掘方の平面形は確認面で2.0×1.7mの楕円形、底面では一辺1.5mの方形で、深さは1.5mある。断面形は漏斗形である。調査中に堆積土が崩落したため、横棧や枠内堆積土の詳細は不明である。枠の内法は一辺50cmほどで、隅柱や横棧は確認できなかった。したがって、井戸の構造は葦を縦方向に簾状に立て、その内部に横棧を組んで側を保持したものとみられる。葦簾組の井戸は、本遺跡で7基確認しており、構造的には隅柱を伴うもの(SE1647・2480・2602)と本例のように隅柱のないもの(SE1534・1539・1881・2199)に大別できる。遺物は出土していない。



No.	土色・土性	混入物など	備	考
1	黄褐色(SRG2)粘土質シルト	黒山ブロックを含む	グライ化	葦土堆土
2	黄褐色(O2)砂質粘土	黒山ブロックを含む		



井戸側検出状況(東から)

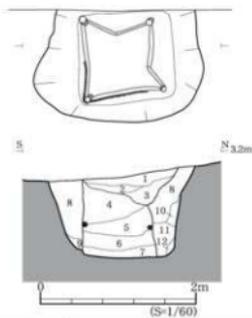


断面写真(南東から)



井戸側(東から)

図版107 SE1881井戸跡



井戸側内部完掘写真（東から）

No.	土色・土質	掘入物など	備考	No.	土色・土質	掘入物など	備考
1	黒灰色(PYR4)粘土			7	褐色灰色(SBG4)粘土層下層		井戸側内層粘土
2	黒灰色(PYR4)粘土層下層		井戸側内層粘土の境	8	黒灰色(PYR4)粘土層下層	地山粘土を多量に含む	
3	黒灰色(PYR4)粘土層下層			9	こぶし遺物層(PYR2)粘土		
4	黒灰色(PYR4)粘土層下層	地山ブロックを多量に含む		10	こぶし遺物層(PYR2)粘土		掘方粘土
5	褐色灰色(SBG4)粘土層下層	地山ブロックをやや多く含む	井戸側内層粘土	11	褐色灰色(SBG5)粘土		
6	褐色灰色(SBG4)粘土層下層	地山ブロックを多量に含む		12	褐色灰色(SBG5)粘土		



東辺側板と横柱（東から）



完掘写真（上から）



南東隅柱と横柱・側板



北東隅柱と東辺の側板・横柱



南西隅柱（縮尺任意）

図版108 SE2602井戸跡

【SE2602井戸跡】 (図版108)

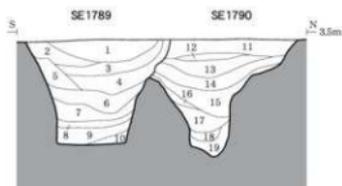
5区中央部東側で確認した葦を簾状に組んだ枠をもつ井戸跡である。SE2601井戸跡より新しい。掘方の平面形は確認面で1.9×1.5m以上の隅丸方形、底面では一辺1.6mの方形とみられ、深さは1.2mある。断面形は箱形である。枠の内法は一辺100cmで、葦を縦方向に簾状に立て、それを隅柱に組み込んだ横棧で保持している。横棧は1段確認できた。隅柱は径10cmほどの心持材を使用しており、残りの良いものは高さが80cmある。ほぞ穴は一辺3～4cmの方形である。横棧は径6～8cmの心持材の両端を加工しており、なかには樹皮が付いたままのものもあった。

堆積土は枠内堆積土(1～7)、掘方埋土(8～12)に分けられ、自然堆積ののち埋戻されている(1～5)。遺物は掘方埋土から曲物底板が出土している。

(ii) 素掘りのもの (図版109～112)

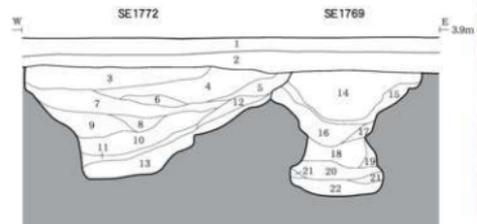
57基検出した。平面形は確認面で楕円形が9基、隅丸方形とみられるものが2基のほかは、円形もしくは円形とみられるが、下部の平面形は2基(SE1769・1885)を除いて円形もしくは円形とみられる。断面形は漏斗形が33基と主体を占め、他に箱形が10基、逆台形が14基認められる。規模は確認面の径が0.6～3.3m、下部径0.4～1.6m、深さは0.4～1.7mあるが、下部径、深さとも0.6～1.3mのものが多い(35基)。堆積土は、下部が壁の崩落土を含む自然堆積土で、上部は人為堆積のものとして自然堆積のものが認められる。前者は人為的に埋め戻されたものであり、後者は開口したまま埋まったことを示す。後者の場合、上部が埋没する過程で、遺物や炭化物、焼土、灰からなる廃棄層が認められる場合がある(SE1890・1893・1897・1898)。

遺物は底面からのものはなく、堆積土から出土している(図版113～115)。なかでもSE1890は、7層からロクロかわらけ皿、5層からモモ核、4層から鉄滓(図版115-16・17)、3層からロクロかわらけ、刀子(図版115-9)、砥石(図版115-13)や壁土(図版115-18)、2層から小刀(図版115-10)や壁土、1層からロクロかわらけ小皿(図版115-1)や常滑産甕など、一定量の遺物が出土しており注目される。そのほか、SE1453の堆積土から常滑甕(図版113-2)・砥石、SE1455の5層から柄杓底板(図版113-6)、4層から柄杓(図版114-6)、3層から竪杵(図版114-9)、SE1456の6層上面から漆椀(図版113-3)、SE1462の堆積土から瀬戸美濃産陶器香炉(図版113-1)、SE1479・1498の堆積土から転用砥(図版113-5)、SE1499の堆積土からロクロかわらけ、SE1767の1層から砥石(図版114-6)、SE1769の1層から鉄滓(図版114-5)、SE1772の10層から在地産片口鉢(図版114-2)、9層から同安窯系青磁碗(図版114-1)、3層から転用砥(図版114-3)、堆積土からモモ核、SE1787の2層から切石(図版114-8)、1層からロクロかわらけ小皿(図版113-4)、SE1789の4層から常滑産片口鉢(図版115-5)、青磁碗(図版115-7)、銭貨「熙寧元寶」(初鋳1068年)(図版115-15)、1層から白磁碗(図版115-6)、SE1791の2層から白磁碗(図版114-4)、SE1863の7層から手づくねかわらけ小皿(図版115-2)、SE1872の4層から不明木製品、3層から常滑産片口鉢、2層よりかわらけ、SE1873の2層よりかわらけ、1層から手づくねかわらけ皿(図版115-3)、SE1874の10層から常滑産片口鉢・砥石(図版115-12)、SE1875の6層から自在鉤(図版115-14)・曲物、1層から砥石(図版1



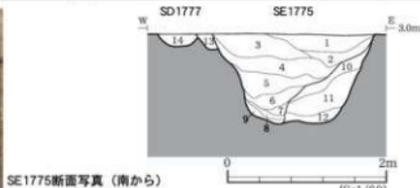
SE1789断面写真（東から）

No.	土色・土性	掘入物など	備考	No.	土色・土性	掘入物など	備考
1	黒褐色(OYR3)シルト	掘込ブロックを多数含む		11	におい濃褐色(OYR4)シルト	掘込ブロックを多数含む	
2	におい濃褐色(OYR4)シルト	掘込ブロックを多数含む		12	灰黒褐色(OYR5)シルト	掘込ブロックを多数含む	人土埋積
3	褐色(OYR2)粘土層シルト	掘込ブロックを少量含む	人土埋積	13	におい濃褐色(OYR4)粘砂質シルト	掘込ブロックを多数含む	
4	黒褐色(OYR3)シルト	掘込ブロックを多数含む		14	におい濃褐色(OYR4)粘砂質シルト	掘込ブロックを多数含む	
5	におい濃褐色(OYR4)粘砂質シルト	掘込ブロックを多数含む		15	黒褐色(OYR3)粘土層シルト		SE1790埋積土
6	灰黒褐色(OYR5)粘砂質シルト		SE1790埋積土	16	におい濃褐色(OYR4)粘砂質シルト		
7	黒褐色(OYR3)粘砂質シルト	掘込ブロックを多数含む		17	におい濃褐色(OYR4)粘砂質シルト		
8	灰黒褐色(OYR5)粘砂質シルト			18	黒褐色(OYR3)粘砂質シルト		
9	黒褐色(OYR3)粘土			19	灰黒褐色(OYR5)粘砂質シルト		
10	におい濃褐色(OYR4)粘砂質シルト	粘土を土中に散らした					



SE1772断面写真（南から）

No.	土色・土性	掘入物など	備考	No.	土色・土性	掘入物など	備考
1			遺土	12	におい濃褐色(OYR4)粘砂質シルト	掘込ブロックを含む	
2			第1層	13	灰黒褐色(OYR5)粘砂質シルト	掘込ブロックを含む	SE1772埋積土
3				14	灰黒褐色(OYR5)粘砂質シルト	掘込ブロックを含む	
4	褐色(OYR2)粘土シルト			15	黒褐色(OYR3)粘土シルト	掘込ブロックを多数含む	
5	黒褐色(OYR3)粘土シルト	掘込ブロックを多数含む		16	黒褐色(OYR3)粘土シルト	掘込大ブロックを多数含む	人土埋積
6	におい濃褐色(OYR4)粘土シルト			17	黒褐色(OYR3)粘土シルト	掘込大ブロックを多数含む	
7	黒褐色(OYR3)粘土シルト	掘込ブロックを多数含む	人土埋積	18	褐色(OYR2)粘土シルト	中絶後所見。掘込大ブロックを多数含む	SE1769埋積土
8	灰黒褐色(OYR5)粘土シルト	掘込ブロックを多数含む		19	におい濃褐色(OYR4)粘砂質シルト		
9	灰黒褐色(OYR5)粘土シルト	掘込ブロックを多数含む		20	黒褐色(OYR3)粘土層シルト	掘込大ブロックを多数含む	
10	におい濃褐色(OYR4)粘土シルト	掘込ブロックを多数含む		21	灰黒褐色(OYR5)粘砂質シルト	掘込大ブロックを多数含む	
11	黒褐色(OYR3)粘土シルト	掘込ブロックを多数含む		22	灰黒褐色(OYR5)粘砂質シルト	掘込ブロックを含む	



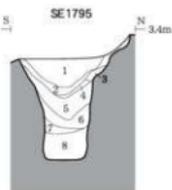
SE1775断面写真（南から）

No.	土色・土性	掘入物など	備考	No.	土色・土性	掘入物など	備考
1	におい濃褐色(OYR4)粘土シルト	掘込ブロックを多数含む	人土埋積	8	灰黒褐色(OYR5)粘砂質シルト		
2	黒褐色(OYR3)粘土シルト	掘込ブロックを多数含む		9	黒褐色(OYR3)粘土層シルト	粘土を土中に散らした	
3	褐色(OYR2)粘土シルト	掘込ブロックを少量含む		10	灰黒褐色(OYR5)粘土シルト	掘込ブロックを多数含む	SE1775埋積土
4	褐色(OYR2)粘土シルト	掘込ブロックを少量含む	SE1776埋積土	11	におい濃褐色(OYR4)粘砂質シルト	掘込大ブロックを多数含む	
5	黒褐色(OYR3)粘土層シルト			12	灰黒褐色(OYR5)粘砂質シルト	掘込ブロックを含む	
6	黒褐色(OYR3)粘土層シルト			13	黒褐色(OYR3)粘土シルト		SD1776埋積土
7	黒褐色(OYR3)粘砂質シルト	掘込ブロックを多数含む		14	黒褐色(OYR3)粘土シルト		SD1777埋積土

図版109 5区井戸跡(1)



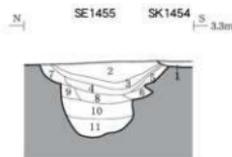
No.	土色・土性	埋人物など	備考
1	黒褐色(10YR2/2)シルト		
2	黒褐色(10YR2/2)シルト		
3	黒褐色(10YR2/2)シルト	黒褐色粘土をうす2枚に含む	自然堆積
4	黒褐色(10YR2/2)シルト		
5	黒褐色(10YR2/2)シルト	黒褐色粘土をうす2枚に含む	
6	黒褐色(10YR2/2)シルト		
7	黒褐色(10YR2/2)シルト	黒褐色粘土をうす2枚に含む	埋戻土



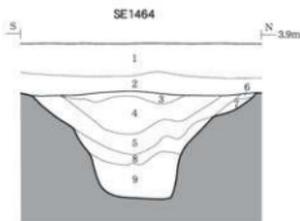
No.	土色・土性	埋人物など	備考
1	黒色(10YR1/1)シルト		
2	黒褐色(10YR2/2)シルト	黒山ブロックを多数に含む	
3	黒褐色(10YR2/2)シルト		
4	におい濃褐色(10YR2/2)シルト	黒山ブロックを多数に含む	人為堆積
5	黒山ブロックを多数に含む		
6	黒褐色(10YR2/2)シルト	黒山ブロックを多数に含む	
7	におい濃褐色(10YR2/2)シルト	黒山ブロックを多数に含む	
8	黒褐色(10YR2/2)シルト		自然堆積



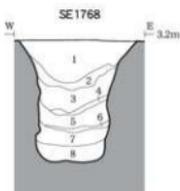
SE1791断面写真(東から)



No.	土色・土性	埋人物など	備考
1	におい濃褐色(10YR2/2)シルト	じまじり強い	SK1454埋戻土
2	灰黒褐色(10YR4/2)シルト	黒山ブロック、褐色物を含む	
3	灰黒土層	粘土中灰を含む	
4	黒褐色(10YR4/2)粘土		
5	におい濃褐色(10YR4/2)シルト	黒山ブロックを含む	埋戻土
6	灰黒褐色(10YR4/2)シルト	黒山ブロックを含む	埋戻土
7	におい濃褐色(10YR4/2)シルト	黒山ブロックを含む	埋戻土
8	黒褐色(10YR4/2)粘土		
9	灰黒褐色(10YR4/2)シルト	黒山ブロックを含む	埋戻土
10	黒褐色(10YR4/2)シルト	黒山ブロックを含む	埋戻土
11	黒褐色(10YR4/2)シルト	黒山ブロックを含む	埋戻時の堆積

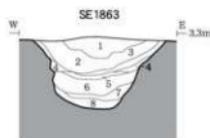


No.	土色・土性	埋人物など	備考
1	埋戻褐色(10YR4/2)シルト		粘土
2	埋戻褐色(10YR4/2)シルト		
3	におい濃褐色(10YR4/2)シルト		
4	におい濃褐色(10YR4/2)シルト	細砂、灰黒褐色シルトブロックを含む	人為堆積
5	埋戻褐色(10YR4/2)シルト	黒山ブロックを多数含む	SE1464埋戻土
6	におい濃褐色(10YR4/2)シルト		
7	におい濃褐色(10YR4/2)シルト	黒山ブロックを含む	
8	埋戻褐色(10YR4/2)シルト		
9	埋戻褐色(10YR4/2)シルト		埋戻時の堆積



No.	土色・土性	埋人物など	備考
1	灰色(10YR2/1)シルト		
2	灰色(10YR2/1)シルト	黒山ブロックを多数に含む	
3	埋戻褐色(10YR2/2)シルト	黒山ブロックを多数に含む	人為堆積
4	埋戻褐色(10YR2/2)シルト		
5	埋戻褐色(10YR2/2)シルト	黒山ブロックを多数に含む	
6	埋戻褐色(10YR2/2)シルト		
7	埋戻褐色(10YR2/2)シルト	黒山ブロックを多数に含む	埋戻土
8	埋戻褐色(10YR2/2)シルト	黒山ブロックを多数に含む	

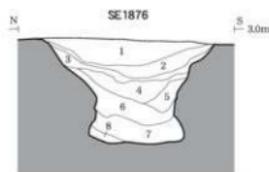
図版110 5区井戸跡(2)



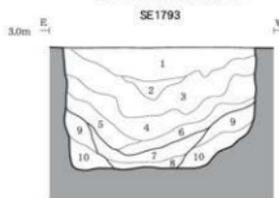
No.	土色・土性	掘入物など	備	考
1	暗褐色(OYR3)シルト	褐色シト層/ブロックを多数に含む		
2	褐色(OYR1)シルト	暗褐色土を少量含む		
3	暗褐色(OYR3)シルト	塊状ブロックを多数に含む		
4	にぶ・黄褐色(OYR5)砂	塊山ブロックを多数に含む		
5	灰褐色(OYR6)砂	褐色土を少量含む	自然降	
6	褐色(OYR4)砂	塊山ブロックを多数に含む		
7	褐色(OYR4)砂	塊山ブロックを多数に含む		
8	褐色(OYR4)砂	塊山ブロックを多数に含む		



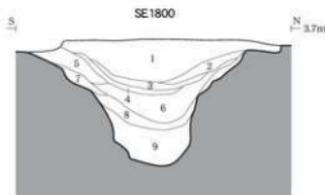
SE1863断面写真(南から)



No.	土色・土性	掘入物など	備	考
1	暗褐色(OYR3)シルト	塊山ブロックを多数に含む		
2	褐色(OYR1)シルト	塊山ブロックを多数に含む		
3	にぶ・黄褐色(OYR5)砂	暗褐色土を少量含む		
4	灰褐色(OYR6)砂	塊山ブロックを含む		
5	にぶ・黄褐色(OYR5)砂	暗褐色土を少量含む		
6	褐色(OYR4)砂	灰褐色土を少量含む	自然降	
7	褐色(OYR4)砂	灰褐色土を少量含む		
8	暗褐色(OYR3)シルト			



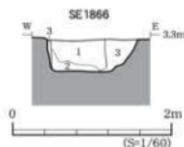
No.	土色・土性	掘入物など	備	考
1	暗褐色(OYR3)シルト	塊山ブロックを多数に含む		
2	にぶ・黄褐色(OYR5)砂			
3	暗褐色(OYR3)シルト	塊山ブロックを多数に含む	人海層	神後期I
4	にぶ・黄褐色(OYR5)砂			
5	オレンジ色(OY4)砂	円筒、グライ化		
6	灰褐色(OYR6)砂	塊山ブロックを含む	人海層	神後期I
7	オレンジ色(OY4)砂			
8	オレンジ色(OY4)砂	グライ化		赤内層土
9	灰褐色(OYR6)砂	塊山ブロックを多数に含む		
10	灰褐色(OYR4)砂			層下土



No.	土色・土性	掘入物など	備	考
1	暗褐色(OYR3)シルト	塊山ブロックを多数に含む	人海層	
2	にぶ・黄褐色(OYR5)砂	塊山ブロックを多数に含む		
3	褐色(OYR1)シルト			
4	褐色(OYR1)シルト			
5	灰褐色(OYR6)砂	塊山ブロックを多数に含む	壁層土	
6	褐色(OYR4)砂	部分的に砂の層を含む		
7	にぶ・黄褐色(OYR5)砂	塊山ブロックを多数に含む		
8	灰褐色(OYR6)砂	塊山ブロックを多数に含む	壁層土	
9	灰褐色(OYR6)砂	塊山ブロックを多数に含む		

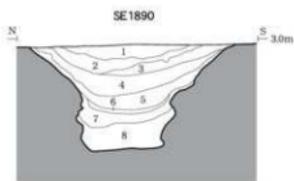


SE1866断面写真(南から)

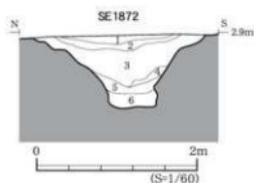


No.	土色・土性	掘入物など	備	考
1	暗褐色(OYR3)シルト			自然降
2	暗褐色(OYR3)シルト			
3	にぶ・黄褐色(OYR5)砂			層下土

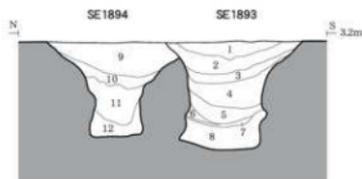
図版111 5区井戸跡(3)



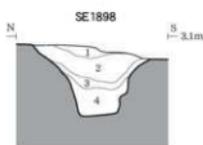
No.	土色・土性	埋入物など	備	考
1	黒褐色(O)YR2/2シルト	埋山ブロックを含む	人工埋積	
2	黒色(O)YR2/2シルト	埋山ブロックを含む		
3	黒色(O)L/2/炭化物質		埋積層	
4	黒色(O)L/2/炭化物質	灰をうみかけを含む		
5	黒色(O)L/5/炭化物質	黒炭粘土大ブロックを含む		自然埋積
6	黒褐色(O)YR3/2粘土			
7	黒褐色(O)YR3/2粘土	黒炭色シルト・黒褐色粘土との互層		
8	黒色(O)SY2/2粘土	砂・細炭褐色シルトを含む	グライ化	



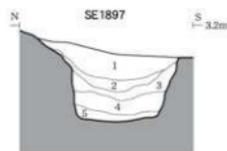
No.	土色・土性	埋入物など	備	考
1	黒褐色(O)YR2/2シルト			
2	黒褐色(O)YR2/2シルト			
3	黒褐色(O)YR2/2シルト	埋山ブロックを多数を含む	人工埋積	
4	こげ-黒褐色(O)YR3/4砂質シルト			
5	黒炭色(O)YR4/4砂質シルト	埋山大ブロックを多く含む	自然埋積	
6	黒褐色(O)YR3/2粘土			



No.	土色・土性	埋入物など	備	考
1	黒色(O)YR2/2シルト	埋山ブロックを多数、炭化物を含む	人工埋積	SE1893 埋積土
2	黒褐色(O)YR3/2シルト	埋山ブロックを多数、炭化物を含む		
3	黒褐色(O)SY3/2粘土	埋山粘土をうみかけを含む		
4	黒褐色(O)SY3/2砂質粘土	埋山粘土をうみかけを含む		
5	黒色(O)Y2/2シルト質粘土		自然埋積	
6	黒色(O)SY2/2粘土			
7	埋積灰色(O)G/10砂			
8	埋積灰色(O)G/10砂質粘土	埋山(砂)を多数含む		
9	黒色(O)YR2/2シルト	埋山ブロックを多数を含む	人工埋積	SE1894 埋積土
10	黒色(O)SY2/2砂質粘土			
11	黒褐色(O)YR3/2粘土	埋山大ブロックを含む	自然埋積	
12	埋積灰色(O)Y/6砂質シルト	埋山シルトをうみかけを含む		



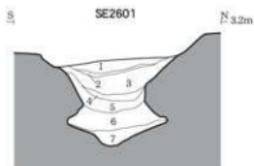
No.	土色・土性	埋入物など	備	考
1	黒色(O)YR2/2シルト	炭化物を多数含む、埋山ブロックを含む	人工埋積	
2	黒褐色(O)YR3/2シルト	埋山ブロック、炭色粘土大ブロックを含む		
3	黒炭色(O)YR4/4砂質粘土	炭色粘土をうみかけを含む	自然埋積	
4	黒褐色(O)YR3/2粘土	埋山ブロックを多数含む		



No.	土色・土性	埋入物など	備	考
1	黒褐色(O)YR3/2シルト	埋山ブロック、炭化物を含む		人工埋積
2	黒褐色(O)YR3/2シルト	埋山ブロック・炭化物質を含む		
3	こげ-黒褐色(O)YR3/4砂質シルト	埋山粘土をうみかけを含む		
4	埋積灰色(O)G/4砂質シルト	埋山粘土をうみかけを含む	グライ化	自然埋積
5	埋積灰色(O)G/10砂質シルト	埋山粘土をうみかけを含む		



SE2601断面写真(東から)



No.	土色・土性	埋入物など	備	考
1	黒褐色(O)YR3/1粘土			
2	埋積灰色(O)YR4/1粘土			
3	こげ-埋積灰色(O)YR3/4砂質シルト	埋山ブロックを含む		
4	こげ-埋積灰色(O)YR3/4砂質シルト			
5	こげ-埋積灰色(O)YR3/4砂質シルト			
6	埋積灰色(O)G/10粘土	埋山ブロックをやや多く含む		
7	埋積灰色(O)G/10粘土			



(2の押印アップ)

No.	出土遺構・層位	種別	器種	産地	特徴	備	登録
1	SE1462 雑土	陶器	香炉	瀬戸美濃	口径10.8 高台径6.1 器高5.5 残存: 2/5 底部: 回転ヘラケズリ		02096
2	SE1453 雑土	陶器	甕	常陸	PP印(燕子+群輪) SK1454と接合		02097
3	SE1456 6層上	漆器	椀		口径14.9 高台径8.0 器高5.7 残存: ほぼ完全 内底: 黒色漆 底面にロクロ式痕跡【ブナ属製木取り】		02248
4	SE1787 1層	ロクロかわらけ	小皿		口径8.8 底径5.5 器高1.7 残存: ほぼ完全 底面にロクロナデ 底部: 回転糸切		03099
5	SE1248 雑土	粘土板			在耶麻堂の板片を磁石に転写		02107
6	SE1455 5層	木製品	網杓(底板)		径13.8 厚1.0 【シミ風 板目】		02219

図版113 5区井戸跡出土遺物(1)



No.	出土遺構・層位	種別	副種	産地	特 徴	登録
1	SE1772-9層	青磁	柄	陸奥盛点	外：履位層様一筋輪 内：磨損花文?	03134
2	SE1772-10層	陶器	片口鉢	在地		03135
3	SE1772-3層	転写磁	片口鉢		茶褐色裏の緑片を嵌石に転写	03136
4	SE1791-2層	白磁	柄			03103
5	SE1769-1層	鉄伴				03174
6	SE1455-4層	木製品	銅付		径15.5、高10.8、鉄輪厚0.9、木釘径0.5、残存：柄尻部、内面、腰管【断：木土器、横釘、蓋：木土器、輪付】	02218
7	SE1767-1層	石製品	砥石		長19.6、幅7.2、厚3.9	03132
8	SE1787-2層	石製品	磨石		長15.3、幅9.4、厚7.6	03137
9	SE1455-3層	木製品	管状		高47.2、幅8.3、厚6.6【クヌギ節 芯抜】	02251

図版114 5区井戸跡出土遺物(2)



(単位: cm)

No.	出土遺構・層位	種別	器種	所産	特	備	登録
1	SE1890 1層	ロクロかわらけ	小皿		口径0.90 底径0.70 高さ(1.7) 残存: ほぼ完整	ロクロナデ+オサエ 底部: 跡止り高切+ナデ	03125
2	SE1863 7層	手づくねかわらけ	小皿		口径0.40 残存: 一部 一段ナデ		03104
3	SE1873 1層	手づくねかわらけ	皿		口径(12.0) 残存: 一部 一段ナデ		03106
4	SE1897 2層	ロクロかわらけ	柱状高台皿		底径6.0 残存: 1/3	ロクロナデ 底部: 回転糸切	03129
5	SE1789 4層	胸部	片口鏃	常陸	【常陸5~6型式間】	山形崎高	03139
6	SE1789 1層	白磁	腕		【大寺前分銅式類<5>】		03162
7	SE1789 4層	青磁	腕				03158
8	SE1898 2層	ロクロかわらけ	碗		口径13.8 底径5.5 器高(4.0) 残存: 2/3	底部: 柱状高台区(厚<1>)	03131
9	SE1890 3層	銅製品	刀子		刀身: 長14.0 幅2.0 厚0.5 茎: 長6.7 幅1.3 厚0.4	残存: ほぼ完整	03171
10	SE1890 2層	鉄製品	小刀		刀身: 長22.7 幅2.4 厚0.7 茎: 長9.2 幅1.2 厚0.4	残存: ほぼ完整	03172
11	SE1875 1層	石製品	砥石		長(10.7) 幅7.1 厚7.5		03145
12	SE1874 10層	石製品	砥石		長(11.6) 幅4.7 厚4.2		03141
13	SE1890 3層	石製品	砥石		長9.5 幅3.3 厚3.6		03123
14	SE1875 6層	木製品	自在鉤		長16.9 幅1.2 厚1.2	残存: 完整	03155
15	SE1789 4層	銅製品	鏡背				03205
16	SE1890 4層	鉄滓				照幸元寶 (初鑄1068年)	03121
17	SE1890 4層	鉄滓					03122
18	SE1890 3層	埴土					03124

図版115 5区井戸跡出土遺物(3)

遺積No.	構造	平面形	断面形	基 礎 (m)		埋積土の状況	出 土 遺 物	備 考	埋 入	
				掘進深	下層深				年代	断面
S E 1453	遺積	円形	礎台形	径1.9	径1.1	0.9	埋1 瓦片、磁石			86
S E 1455	遺積	楕円形	礎台形	2.4X1.5	径0.8	0.9	自然一人為	4層) 橋かけ 3層) 瓦片	車輪の溝は埋積時 S E 1456→S K 1454	86 110
S E 1456	遺積	円形	礎台形	2.0X1.8	径0.7	0.7	自然一人為	6層上層) 漆器		86
S E 1457	遺積	円形	礎形	径1.3	径0.6	0.6	自然一人為			86
S E 1459	遺積	円形	礎台形	1.4X1.2	径0.8	0.6	一人為			86
S E 1461	遺積	円形	礎形	径1.9	径0.7	0.6	自然一人為			86
S E 1462	遺積	円形	礎台形	2.0X1.8	径1.3	1.3	埋1	埋) 瀬戸瓦葺・瓦葺土葺	遺積層	86
S E 1464	遺積	楕円方型?	礎台形	一辺1.9? 径1.0?	0.9	0.8	自然一人為			86 110
S E 1472	遺積	円形?	礎形	径0.6?	—	0.6	自然			86
S E 1479	遺積	円形	礎台形	径1.9	径0.6	0.8	自然	埋) 転用瓦	S X 1200→S E 1479	
S E 1486	遺積	円形	礎台形	1.3X1.2	0.6	1.2	自然			
S E 1488	遺積	円形?	礎台形	1.3X1.2X1.3	径0.8	1.4	自然	埋) 転用瓦	S E 1488→S D 1486	39
S E 1499	遺積	円形	礎台形	径2.0	0.5	0.8	自然	埋) ロクロ		
S E 1765	遺積	円形	礎台形	径1.5	径0.8	1.2	自然一人為			90
S E 1766	遺積	円形	礎台形	径2.0	径0.6	1.6	自然一人為			90
S E 1767	遺積	円形	礎台形	1.6X1.5	径0.7	1.3	自然	1層) 磁石		88
S E 1768	遺積	円形	礎台形	径1.3	径0.8	1.5	自然			88 110
S E 1769	遺積	円形	礎台形	2.2X1.9	1.2X1.0	1.6	自然一人為	1層) 漆器	S E 1769→S K 1810→S E 1772 遺積層	88 110
S E 1772	遺積	楕円形	礎台形	3.3X2.8	径1.3	1.4	自然	10層) 在地柿 9層) 同安赤瓦葺磁石 3層) 転用瓦 埋) モモ枝	S E 1769→S E 1772 遺積層	88 109
S E 1774	遺積	円形	礎形	径1.4	—	1.2	自然			90 122
S E 1775	木組	方型	礎形	2.9X2.0	—	1.1	自然一人為	2層) ロクロ	S E 1774→S K 1762 遺積層	90 109
S E 1786	木組	円形	礎形	2.1X1.9	—	1.5 (溝物径は2.0)	自然一人為	4層) クワ 2層) 陶器類・糸 神鏡取穴) 陶器類	木葺形の曲物 屋根は土太の埋積層を利用 神土層は抜取 S E 1811→S E 1786 遺積層	90 106
S E 1787	遺積	円形	礎台形	1.7X1.5	径0.7	0.7	自然	3層) 切石 2層) 切石、置石 1層) ロクロ小瓦		90
S E 1789	遺積	円形	礎台形	1.9X1.6	径0.9	1.3	自然一人為	4層) 白磁焼 煮物片口鉢、瓦 (飯茶元瓦) (御膳0668) 1層) 白磁焼(口先)、煮物器	S E 1790→S E 1789 遺積・円形	88 109
S E 1790	遺積	円形?	礎台形	1.8X1.7以上	径0.5	1.5	自然一人為	3層) ロクロ	S E 1790→S E 1789 遺積・円形	88 109
S E 1791	遺積	円形	礎台形	2.6X2.0以上	径0.8	1.7	自然	2層) 白磁焼、ロクロ		88 110
S E 1792	遺積	円形	礎台形	径1.7	径0.5	0.9	自然一人為			88 110
S E 1793	木組	円形?	礎形	2.4X1.9以上	—	1.5	自然一人為			88 111
S E 1794	遺積	円形	礎台形	1.4X1.2	径0.8	1.3	自然一人為	3層) ロクロ 1層) 煮物片口鉢、ロクロ		88
S E 1795	遺積	円形?	礎台形	1.3X1.2以上	径0.5	1.5	自然	1層) ロクロ		88 110
S E 1796	木組	円形	礎形	径1.3	—	0.6	自然一人為			88
S E 1800	遺積	楕円形	礎台形	3.2X2.3	径1.0	1.6	自然一人為	3層) 煮物器、ロクロ、モモ枝	跡を築土(一辺0.8m?) S E 1796→S E 1802	88 111
S E 1804	遺積	円形	礎台形	1.2X1.1	径0.5	0.8	自然一人為			88
S E 1805	遺積	円形	礎台形	径1.7?	径0.7	0.8	自然			88
S E 1806	遺積	円形	礎台形	2.4X2.1	径0.7	0.8	自然一人為			88
S E 1811	木組	円形?	礎形?	径0.7?	—	1.8	一人為?			88 106
S E 1825	遺積	円形	礎台形	1.7X1.5	径0.7	0.8	自然一人為			32・96
S E 1863	遺積	円形	礎台形	径1.7	径1.0	0.9	自然	7層) 手づくね瓦		87 111
S E 1865	遺積	円形	礎台形	径1.2	径0.6	0.9	自然			87
S E 1866	木組	楕円形	礎形	1.4X1.1	—	0.4	自然			88
S E 1867	遺積	円形	礎台形	1.2X1.1	径0.7	0.8	自然			88
S E 1868	遺積	円形	礎台形	径1.8	径0.6	1.0	自然一人為			88
S E 1871	遺積	円形	礎台形	1.3X1.2	径0.7	0.7	自然一人為			88 109
S E 1872	遺積	円形	礎台形	2.2X2.0	径0.6	0.9	自然一人為・自然	4層) 木物品 3層) 煮物片口鉢 2層) かわらけ	3層) 陶器(S E 1784) 下層同一層	88 112
S E 1873	遺積	円形	礎形	1.3X1.2	径0.9	0.6	自然	2層) かわらけ 1層) 手づくね瓦		89
S E 1874	遺積	楕円形	礎台形	2.6X1.8	径1.0	1.3	自然	10層) 煮物片口鉢、磁石		89
S E 1875	遺積	円形	礎台形	1.5X1.3	径0.5	1.2	自然	6層) 白磁焼、曲物 1層) 磁石		89
S E 1876	遺積	円形	礎台形	2.3X2.1	径1.0	1.3	自然	1層) かわらけ		89 111
S E 1877	遺積	楕円形	礎台形	2.2X2.0	径0.7	1.2	自然	3～5層) かわらけ		89
S E 1879	遺積	楕円方型?	礎台形	1.7X2.0	径1.3	1.1	自然一人為	2層) 煮物?		89
S E 1881	木組	楕円形	礎台形	2.0X1.7	—	1.5	自然?			89
S E 1884	遺積	円形	礎台形	1.4X1.4	径0.8	1.5	自然			89
S E 1885	遺積	楕円形	礎形	1.4X1.1	1.0X0.8	0.8	自然	2層) 煮物片口鉢、ロクロ 1層) 煮物片口鉢、ロクロ		89
S E 1886	遺積	円形?	礎形	1.8X1.1以上	径1.6	1.2	自然一人為			89
S E 1887	遺積	楕円形	礎台形	2.8X2.1	径0.8?	1.2	自然			89
S E 1890	遺積	円形	礎台形	径2.5	径1.0	1.3	自然一人為	7層) ロクロ瓦 5層) モモ枝 4層) 煮物器、漆器 3層) ロクロ 3～5層) 瓦片、磁石、埋土 2層) 刀、礎土 1層) ロクロ小瓦、煮物器	遺積・円形	88 112
S E 1891	遺積	円形	礎台形	径1.7	径0.9	1.4	自然一人為	4層) 在地片口鉢 1層) ロクロ小瓦	S E 1890→S E 1889	88 112
S E 1894	遺積	円形?	礎台形	2.0X1.7以上	径0.6	1.2	自然一人為			88 112
S E 1897	遺積	円形	礎台形	径1.8	径1.2	1.1	自然一人為			87 112
S E 1898	遺積	楕円形	礎台形	1.7X1.4	径0.6	0.9	自然一人為	2層) ロクロ		87 112
S E 2001	遺積	円形?	礎台形	2.8X1.5以上	径0.7	1.4	自然	3層) マゾロ瓦葺、イヌノ懸合		89 112
S E 2002	木組	楕円方型	礎台形	1.9X1.5以上	—	1.2	自然一人為	埋) 曲物		89 108
S E 2011	遺積	円形	礎形	径1.4	径1.0	1.3	自然			89

※ 5区北端のS E 1453～1472は、削平のため地山より30cm低レベルで確認した。

※ 出土遺物のロクロはロクロかわらけ、手づくねは手づくねかわらけ、在地は宮城域内の在地産で生産された中世陶器を指す。

※ 出土遺物の陶器は近世陶器を指す。

第4表 5区井戸跡属性表

15-11)、SE1876の1層よりかわらけ、SE1877の3～5層よりかわらけ、SE1879の2層から折敷?、SE1885の2層や1層から常滑産片口鉢・ロクロかわらけ、SE1893の4層から在地産片口鉢、1層からロクロかわらけ小皿、SE1897の4層から杓子・砥石、2層からロクロかわらけ椀・曲物・不明木製品、SE1898の2層からロクロかわらけ椀(図版115-8)、SE2602の3層からマグロ腹椎・イヌ下顎骨が出土している。

c. 土壌

64基確認した。これらは規模や平面形から3類に分けられる。このうち1類のSK1454・1458・1761・1762・1834・1878・1880・1883については個別の記述を行うが、他の土壌の概要は分類にしたがって述べることとし、個々のデータは第5表にまとめた。

1類：径もしくは最大径が3.0mを超える大型土壌

18基(SK1454・1458・1471・1492・1761・1762・1773・1834・1835・1839・1844・1846・1878・1880・1883・1895・2600・2609)検出した。調査区の中央部から北部の東側に点在しており、西側のSX1397遺物包含層よりには認められない。

【SK1454土壌】(図版86・116)

5区北東端で確認した。SE1455井戸跡、SK1458土壌より新しい。平面形は6.6×6.5mの不整形で、深さは0.9mある。底面は平坦で壁は緩やかに立ち上がり、断面形は皿形である。堆積土は17層に分けられたが、3層に大別できる。下層(9～17層)や上層(1～5層)は自然堆積層、中層は植物遺体や炭化物を含み、木製品が多く出土しており、廃棄層と考えられる。

遺物は上・中・下の各層から出土している(図版117～119)。下層から在地産片口鉢、常滑産甕、砥石(3～6)、石臼(8)、ウマ上顎歯、ドブガイ殻、モモ核が出土した。中層からは漆椀(9)、漆大皿(15)、横櫛(19)、柄杓(14)、横槌(13)、木錘(10～12・16・17)、不明木製品(18)、モモ核が出土した。9の漆椀は外面に赤色漆の文様をもち、内面が赤色漆で仕上げられている。15の漆大皿は外面に赤色漆の文様がある。口縁部が切り取られ、内面に多くの刃物傷がみられることから、器から皿板もしくは作業台に転用されたと考えられる。また、10・11・15は炭化した面が認められることから、中層出土遺物は火災にあつて棄てられた道具類とみられる。上層からは常滑産片口鉢(1)、常滑産甕、ロクロかわらけ、転用砥(2・7)、ウマ距骨、モモ核が出土している。1は破損部を漆で補修した痕跡が認められる。

【SK1458土壌】(図版86・116)

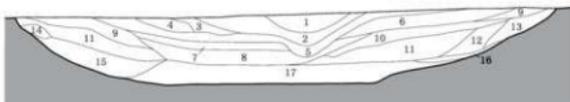
5区北東端で確認した。SK1454土壌より古い。平面形は径5.2mの円形とみられ、深さは0.9mある。底面は平坦で壁は緩やかに立ち上がり、断面形は皿形である。堆積土は8層に分けられたが、3層に大別できる。下層(7・8層)や中層(3～6層)は自然堆積層、上層(1・2層)は人為的な埋戻しと考えられる。

遺物は中層や上層から多く出土した(図版120・121)。中層から在地産片口鉢(2・3)や甕、常滑産甕、ロクロかわらけ、砥石(7)、木錘(9)、容器蓋(10)、エブリ(11)、ウマ節骨、ウ

W

SK1454

E 3.3m

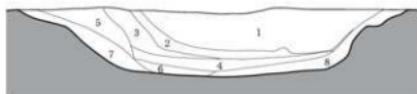


No.	土色・土性	埋入物など	備考	No.	土色・土性	埋入物など	備考
1	黒灰色(OYR5)の砂質シルト			10	黒灰色(OYR6)の粘土		
2	黒灰色(OYR5)の粘土			11	黒灰色(OYR6)の砂質シルト		
3	灰黄色(OYR8)の砂質シルト		上層	12	灰黄色(OYR8)の砂質シルト		
4	黒灰色(OYR5)の砂質シルト			13	黒灰色(OYR6)の砂質シルト	雲母層ブロックを含む	
5	黒灰色(OYR5)の粘土			14	黒灰色(OYR6)の砂質シルト	雲母層ブロックを含む	埋戻土
6	黒灰色(OYR5)の粘土			15	黒灰色(OYR5)の粘土	雲母層ブロックを含む	
7	黒灰色(OYR5)の粘土	埋戻土を多量に含む	中層	16	黒灰色(OYR5)の粘土	雲母層ブロックを含む	
8	黒色(OYR3)の粘土	炭化物を含む		17	黒灰色(OYR5)の粘土	雲母層ブロックを多量に含む	
9	黒灰色(OYR5)の粘土		下層				

W

SK1458

E 3.3m



0 2m
(S=1/60)

No.	土色・土性	埋入物など	備考	No.	土色・土性	埋入物など	備考
1	灰黄色(OYR8)の砂質シルト	焼山ブロックを多量に含む	上層	5	灰黄色(OYR8)の粘土		中層
2	黒灰色(OYR5)のシルト	炭化物や灰を多量に含む	A型山等多量出土	6	黒灰色(OYR5)の粘土		
3	黒灰色(OYR5)の砂質シルト		中層	7	黒灰色(OYR5)の砂質シルト	焼山ブロックを含む	
4	黒灰色(OYR5)の粘土			8	黒灰色(OYR5)の砂質シルト	焼山ブロックを含む	埋戻土 下層



SK1454断面写真(東から)



SK1458断面写真(南から)



SK1454中層漆大鉢出土状況



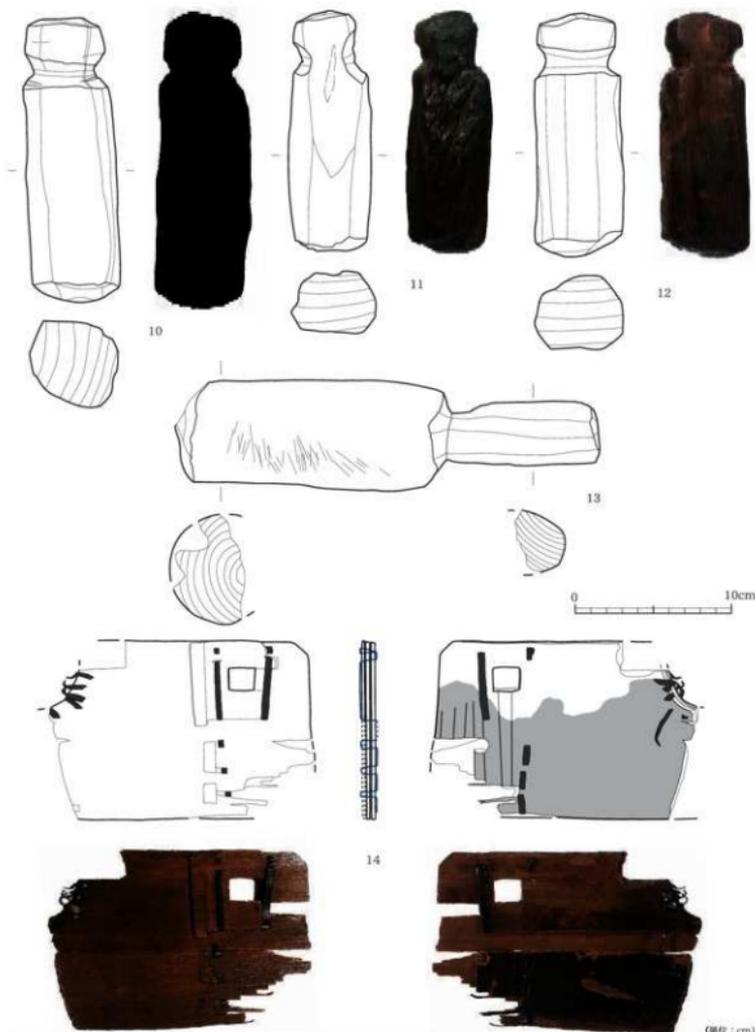
SK1458上層漆小皿出土状況

図版116 SK1454・1458土城



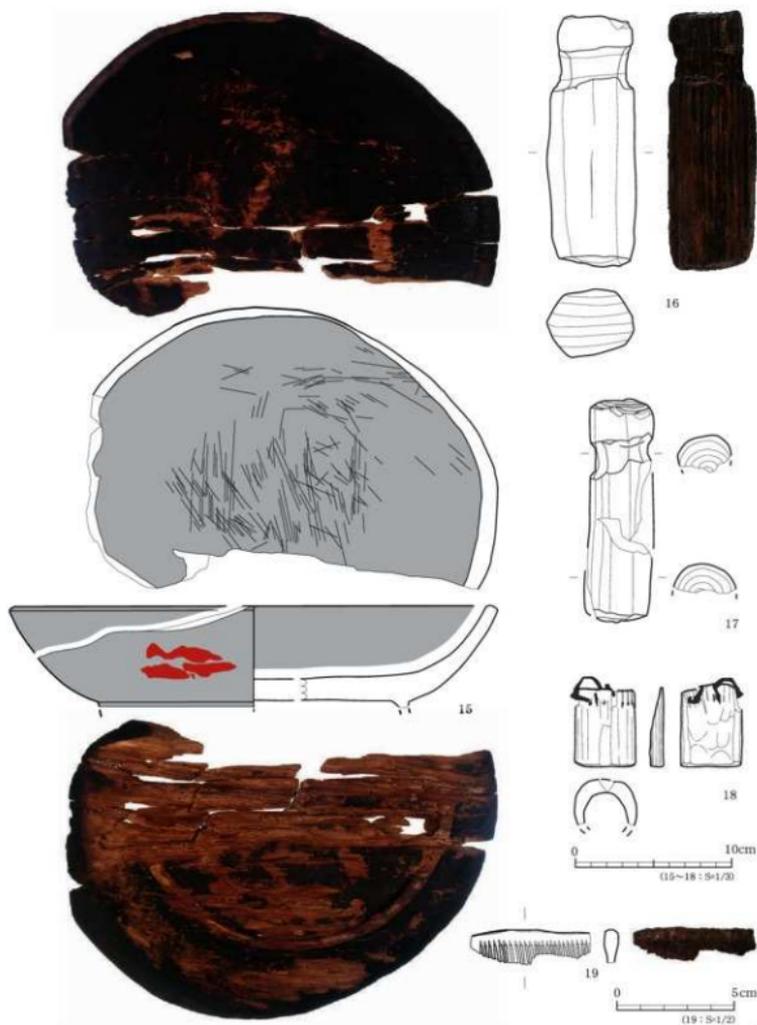
No.	出土層位	種別	器種	産地	物	数量
1	上層	陶器	片臼鉢	常陸	【10型式期a】 漆黒色	02098
2	上層	灰皿皿			常陸産の破片を焼石に転用	02099
3	下層	石製品	焼石		長(6.0) 幅(5.6) 厚(3.5)	02339
4	下層	石製品	焼石		長(5.9) 幅(4.6) 厚(3.9)	02341
5	下層	石製品	焼石		長(7.6) 幅(4.0) 厚(4.2)	02340
6	下層	石製品	焼石		長(7.4) 幅(5.0) 厚(3.0)	02338
7	上層	灰皿皿			平瓦の破片を焼石に転用 【多賀城分館B-C期】	02100
8	下層	石製品	石臼(上印)			02337
9	中層	漆器	椀		高台脚2.5 残存:3/4 内面:赤色塗盛り 外面・底面:黒色塗盛り(漆絵赤色塗)	02245

図版117 SK1454土坑出土遺物(1)



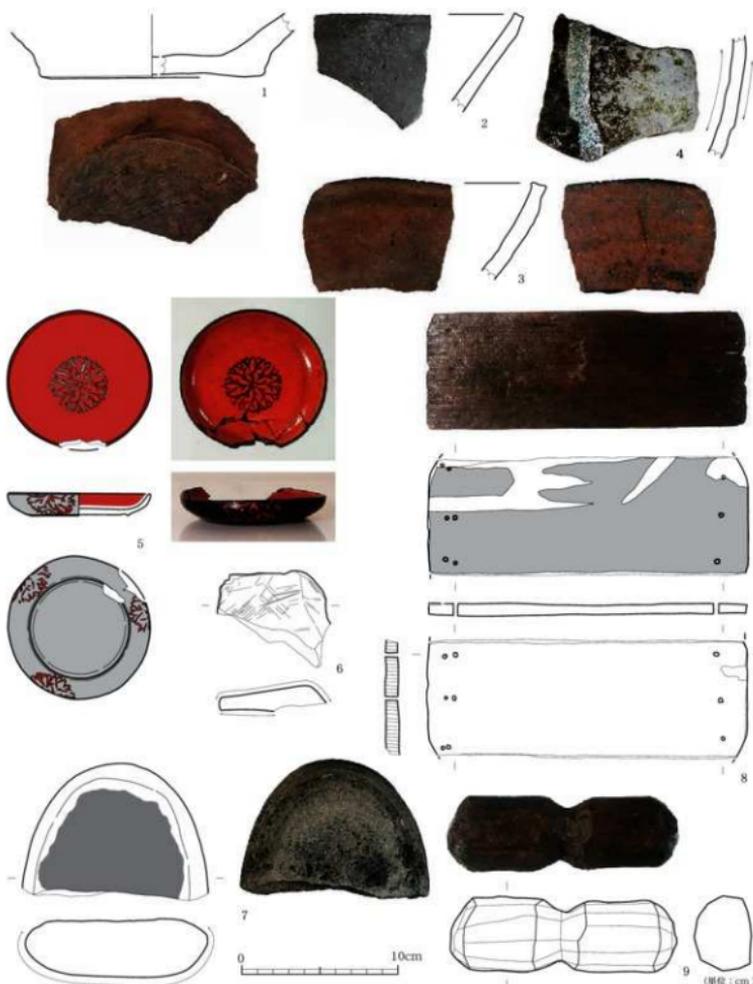
No.	出土層位	種別	図種	特	備	登録
10	中層	木製品	箱	高18.3 幅5.7 厚5.3 一部炭化【クワ 芯材】		02220
11	中層	木製品	鏝	高15.5 幅5.3 厚3.7 一部炭化【クワ 芯材】		02223
12	中層	木製品	箱	高15.5 幅5.5 厚4.6 一部炭化【クワ 芯材】		02222
13	中層	木製品	鏝	高27.2 径7.0 表面厚14.0【アサノ 芯材】		02214
14	中層	木製品	板内(板組)	高11.5 厚0.2 内面：漆塗【アサノ 板目】		02213

図版118 SK1454土坑出土遺物(2)



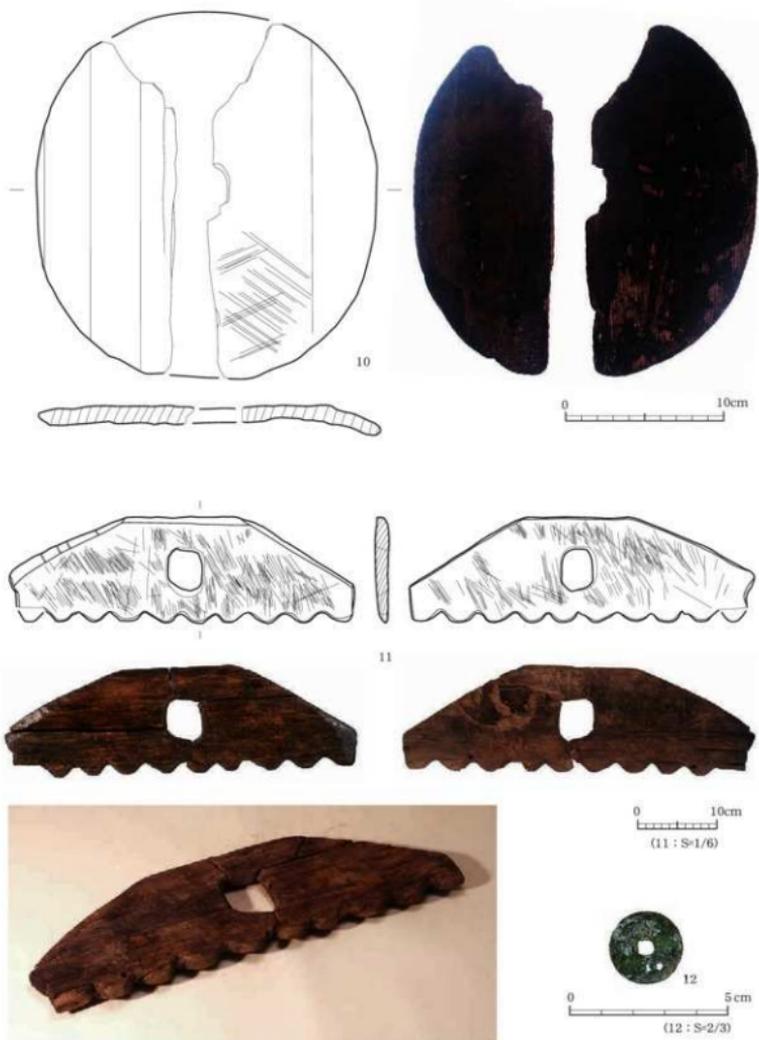
No.	出土層位	種別	図名	寸法	備	登録
15	中層	漆器	大皿	口径31.2 底径19.8 残存高6.6 残存：2/5 内底：黒色漆→濃紅褐色漆 内蓋：黒色漆→灰褐色漆	【トナリ木 榎木製】	02247
16	中層	木製品	棒	高16.1 幅5.6 厚4.2 【クリ 芯抜き】		02221
17	中層	木製品	棒	長14.4 幅4.1 残存：1/2 芯抜き 【クリ 芯抜き】		02224
18	中層	木製品	不明木製品	筒状 長5.3 径3.9 厚0.4~0.9 【アスナロ 板目】		02212
19	中層	木製品	棒	幅5.1 高11.5 厚0.6 【クロベ 板目】		02225

図版119 SK1454土壌出土遺物(3)



No.	出土層位	種別	器種	原産地	特徴	数量
1	溝段上	陶器	片口鉢	存遺(白石分)	高径(14.2) 内面に磨目	02092
2	中層	陶器	片口鉢	存遺(白石分)		02094
3	中層	陶器	片口鉢	存遺(白石分)	内面に磨目(7本一組)	02095
4	溝段上	転用磁			常滑産雙巻磁石に転用	02092
5	上層	漆器	小皿		口径9.2 高台径6.2 器高1.5 残存:田辺完忠 習文(内面3単位,見込) 【ニレ科 榎木取り】	02246
6	溝段上	石製品	砥石		長(6.2) 幅(7.2) 厚(1.6)	02346
7	中層	石製品	砥石		長(5.9) 幅(1.7 厚3.8 磨き紙 灰化物付着	02371
8	上層	木製品	容器(底板)		長(7.5) 幅(20.5) 厚(0.8) 木釘孔 内面:黒色漆塗り 【クドベ 板目】	02217
9	中層	木製品	鏝		高(4.2) 幅(4.8) 厚(3.6) 【ナシ漆料 北材】	02210

図版120 SK1458土城出土遺物(1)



(縮尺：任意)

(単位：cm)

No.	出土層位	種別	部種	物	書
10	中層	木製品	竹器遺	径(22.2) 厚1.1 【ケヤキ 杖目】	02211
11	中層	木製品	エブリ	高13.5 幅43.8 厚1.8 【モクレン属 板目】	02250
12	溝底層	銅製品	銅貨	「元禄通寶」(初鋳1686年)	02271

図版121 SK1458土壌出土遺物 (2)

シ中手／中足骨、モモ核、上層から在地産片口鉢や甕、砥石、漆小皿（５）、容器底板（８）、堆積土から在地産片口鉢・甕、常滑産甕、転用砥（４）、砥石（６）、確認面から銭貨「元祐通寶」（初鑄1086年）（12）が出土している。

【SK1761土壌】（図版90・122）

5区南部で確認した。SK1773土壌、SD1483溝跡より新しい。平面形は径3.4mの円形で、深さは1.3mある。底面は平坦で、断面形は逆台形である。堆積土は10層に分けられたが、3層に大別できる。下層（8～10層）は自然堆積層、中層（2～7層）は人為的な埋め戻しである。

遺物は堆積土から出土した（図版123）。下層からロクロかわらけ小皿（1）や常滑産片口鉢、曲物底板や不明木製品、中層からロクロかわらけ、手づくねかわらけや常滑産甕、上層からロクロかわらけ小皿（2）、在地産片口鉢（3）や鉄滓（4）が出土している。

【SK1762土壌】（図版90・122）

5区南部で確認した。SE1774井戸跡、SD1483溝跡より新しい。平面形は4.6×2.7mの逆台形で、深さは1.0mある。底面はほぼ平坦で、断面形は逆台形である。堆積土は9層に分けられたが、3層に大別できる。下層（7～9層）は自然堆積層、中層（2～6層）は人為的な埋め戻しである。

遺物は中層からロクロかわらけ、常滑産片口鉢（2）・甕、連歯下駄（1）、手火、不明木製品、砥石（3）やクルミが出土している（図版124）。

【SK1834土壌】（図版87・122）

5区中央部で確認した。平面形は3.3×3.1mの円形で、深さは1.1mある。底面は平坦で、断面形は逆台形である。堆積土は4層に分けられ、下部が自然堆積（2～4層）したのち、埋め戻される（1層）。

遺物は3層から折敷（1）、2層から常滑産片口鉢（2）、1層からロクロかわらけ、銭貨「熙寧元寶」（初鑄1068年）（4）や不明鉄製品（3）が、堆積土から曲物や不明木製品が出土している（図版125）。

【SK1878土壌】（図版89・126）

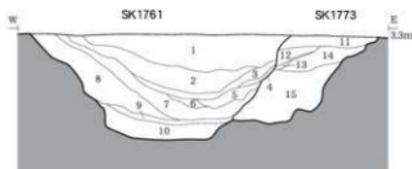
5区中央部東側で確認した。SE1879井戸跡より新しい。平面形は4.3×3.9mの隅丸方形で、深さは1.1mある。底面は平坦で、断面形は逆台形である。堆積土は7層に分けられるが、3層に大別できる。下層（3～7層）は自然堆積で、中層（2層）は人為的な埋め戻しである。

遺物は下層から漆椀、曲物、連歯下駄（6）、木錘（5）、作業台、砥石（4）、ウマ／ウシ頭椎やシジミ殻、中層から陶器播鉢（1）や在地産片口鉢（2）が出土している（図版127）。

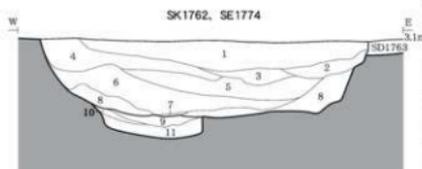
【SK1880土壌】（図版89・126）

5区中央部で確認した。SK1883土壌より新しく、SE1881井戸跡より古い。平面形は3.8×3.5mの楕円形で、深さは1.2mある。底面は中央に向けて傾斜しており、断面形は播鉢形である。堆積土は5層に分けられ、自然堆積（2～5層）ののち、埋め戻される（1層）。

遺物は5層から砥石や壁土（9）、4層からロクロかわらけ小皿（1）、3層からロクロかわらけ、常滑産甕（7）、龍泉窯系青磁椀（4）、漆椀（5）、曲物（8）、2層からロクロかわらけ小皿（2）



No.	土色・土性	層人物など	備	考	
1	黒褐色(10YR2/1)シルト		人込塚跡	SK1761 塚礎土	
2	黒褐色(10YR2/1)シルト	焼山(砂) 大ブロックを多数に含む			
3	褐色(10YR2/1)粘土質シルト				
4	黒褐色(10YR2/1)粘土質シルト	焼山ブロックを多数に含む			
5	褐色(10YR2/1)粘土質シルト	焼山ブロックを多数に含む			
6	黒褐色(10YR2/1)粘土質シルト	焼山ブロックを多数に含む			
7	褐色(10Y2/1)粘土	焼山砂礫ブロックを多数に含む			
8	褐色(10Y2/1)砂質粘土				
9	オリーブ褐色(10Y2/1)粘土				
10	オリーブ褐色(10Y2/1)粘土				
11	黒褐色(10YR2/1)シルト				
12	黒褐色(10YR2/1)シルト				
13	黒褐色(10YR2/1)砂				自然塚礎土
14	黒褐色(10YR2/1)シルト				
15	褐色(10YR2/1)粘土質シルト				



No.	土色・土性	層人物など	備	考	
1	黒褐色(10YR2/1)シルト		人込塚跡	SK1762 塚礎土	
2	黒褐色(10YR2/1)シルト	焼山大ブロックを多数に含む			
3	褐色(10YR2/1)シルト				
4	黒褐色(10YR2/1)砂質シルト	焼山大ブロックを多数に含む			
5	黒褐色(10YR2/1)砂質シルト	焼山大ブロックを多数に含む			
6	褐色(10YR2/1)粘土質シルト	焼山ブロックを多く含む			
7	灰褐色(10YR2/1)砂質シルト	判別			
8	灰色(10YR2/1)砂	判別			礎土
9	黒褐色(10YR2/1)粘土質シルト	焼山ブロックを含む			
10	黒褐色(10YR2/1)粘土質シルト	判別			SE1774 塚礎土
11	灰色(10YR2/1)砂	焼山ブロックを多数に含む			



SK1762, SE1774断面写真 (南から)



SK1834断面写真 (南から)



No.	土色・土性	層人物など	備	考
1	黒褐色(10YR2/1)シルト	焼山大ブロックを多数に含む	人込塚跡	
2	焼山ブロック表層		礎土	
3	灰褐色(10YR2/1)粘土			
4	黒褐色(10YR2/1)シルト			



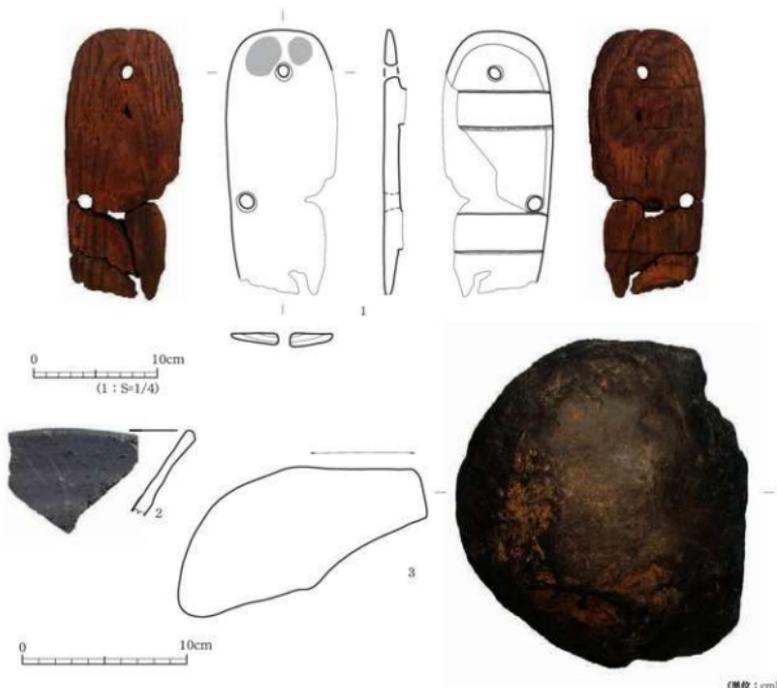
SK1834遺物出土状況

図版122 SK1761・1762・1834土壌



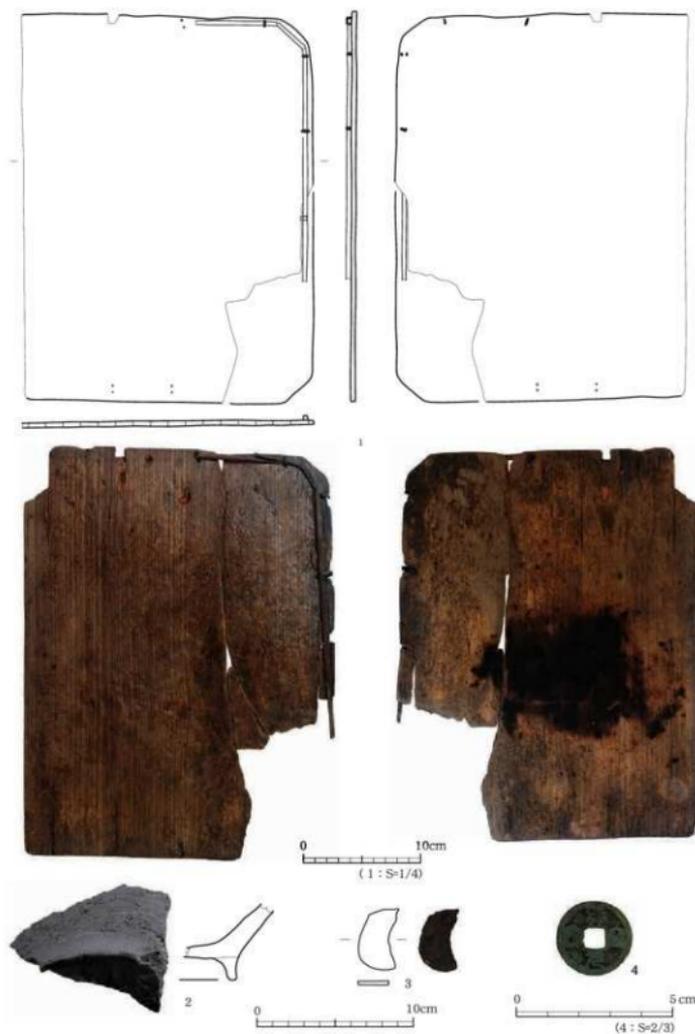
No.	大別層位	種別	器種	産地	物	量	登録
1	下層	ロクロかわらけ	小皿		口径(8.0) 底径(6.0) 器高(2.9) 残存:1/3	ロクロナデ 内:ロクロナデ・ナデ 底面:回転糸切	03094
2	上層	ロクロかわらけ	小皿		口径(8.4) 底径(6.0) 器高(2.3) 残存:1/4	内外:ロクロナデ 底面:回転糸切	03091
3	上層	陶器	片口鉢	在産(白石系)			03092
4	上層	鉄滓					03093

図版123 SK1761土壌出土遺物



No.	大別層位	種別	器種	産地	物	量	登録
1	中層	木製品	透徹下駄		長(21.5) 幅(9.0) 高(1.8) 残存4/5		03158
2	中層	陶器	片口鉢	常滑	【常滑5型式類】 山形筋系		03098
3	中層	石製品	砥石		長(16.4) 幅(19.5) 厚(7.7)		03097

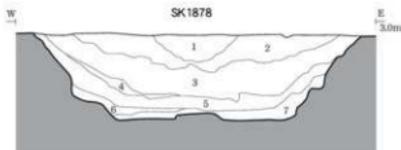
図版124 SK1762土壌出土遺物



No.	大別層位	種別	品類	産地	寸法	備	登録
1	3層	木製品	板敷		長33.4 残存幅24.9 厚0.43 縁高0.7	表面中央部に他層 糠皮留め	03167
2	2層	陶器	片口鉢	常滑		山茶碗系	03142
3	1層	鉄製品	不明鉄製品		径(3.0) 幅1.9 厚0.3		03209
4	1層	銅貨	銭貨			「開元元寶」(初鋳1066年)	03206

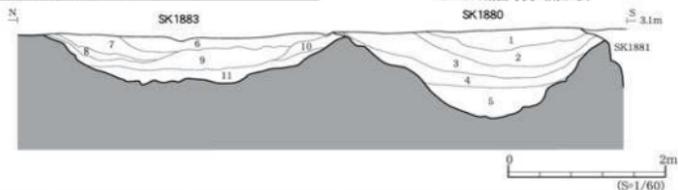
(単位: cm)

図版125 SK1834土壙出土遺物



SK1878断面写真(南から)

No.	土色・土性	層入物など	備考
1	黒褐色(OFFW3)シルト		
2	黒褐色(OFFW3)シルト	焼山ブロックを大量に含む	人工堆積
3	黒褐色(OFFW4)粘土質シルト	焼山ブロックや動物遺体を多数含む	
4	黒色(OFFW2)粘土質シルト		
5	黒色(OFFW2)シルト	瓦片や土をうすに含む	自然堆積
6	黒褐色(OFFW3)砂質粘土	焼山ブロックを数個含む	
7	黒褐色(OFFW4)砂質粘土	焼山ブロックを中々多く含む	



0 2m
(S=1/60)

No.	土色・土性	層入物など	備考	No.	土色・土性	層入物など	備考
1	黒褐色(OFFW3)シルト	焼山ブロックを多数含む	人工堆積	7	黒褐色(OFFW4)シルト	焼山ブロックを多数含む	人工堆積
2	黒褐色(OFFW2)シルト			8	黒褐色(OFFW3)シルト		
3	黒色(OFFW2)粘土質シルト	焼山大ブロックを含む	自然堆積	9	黒褐色(OFFW4)粘土質シルト	焼山ブロックを大量に含む	自然堆積
4	黒褐色(OFFW3)シルト	褐色砂質シルトをうすに含む		10	黒褐色(OFFW4)シルト		
5	黒褐色(OFFW3)砂	褐色色粘土をうすに含む		11	黒褐色(OFFW4)砂		
6	黒褐色(OFFW2)粘土質シルト	焼山ブロックを多数含む	人工堆積				SK1883埋積土



SK1883断面写真(西から)



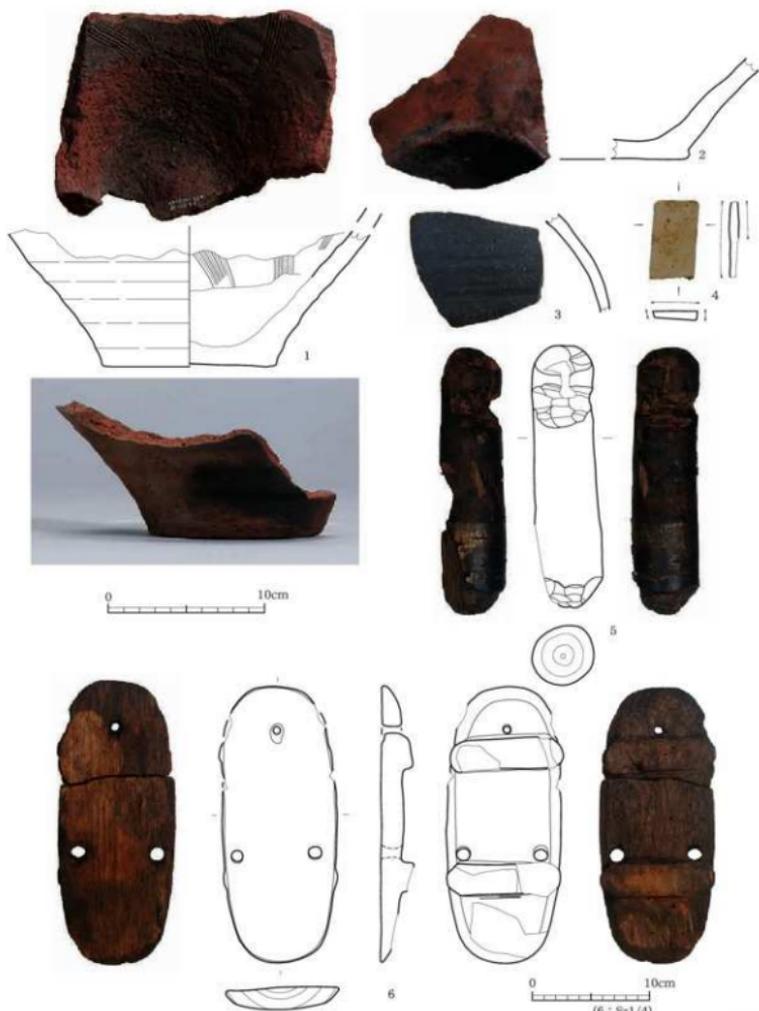
SK1880断面写真(西から)



SK1880遺物出土状況1



SK1880遺物出土状況アップ



No.	大別層位	種別	副題	産地	特徴	量	登録
1	中層	陶器	器鉢		底径11.2 残の高8.8 残存：1/3 外：ロクロナデ 内面は磨滅激しい		03107
2	中層	陶器	片口鉢	倉原(白石市)			03108
3	遺跡面	土製品	土管	大戸	平行タタキ→ロクロナデ		03109
4	下層	石製品	砥石		残存長4.9 幅2.9 高さ0.6		03106
5	下層	木製品	櫛		長16.9 幅3.9 残存：ほぼ完整		03105
6	下層	木製品	漆塗り靴		残存長23.6 幅9.7 高さ2.9 残存：ほぼ完整		03104

図版127 SK1878土壌出土遺物



No.	出土層様・層位	種別	器種	産地	特徴	備	登録
1	SK1880 4層	ロクロかわらけ	小皿		口径8.4 高径4.8 器高1.9 残存：2/5 ロクロナズ 底面：回転糸切 口縁部：縁帯状		03111
2	SK1880 2層	ロクロかわらけ	小皿		口径9.7 高径6.2 器高2.0 残存：1/2 ロクロナズ 底面：回転糸切		03114
3	SK1880 2層	ロクロかわらけ	皿		口径14.7 残存：一帯 ロクロナズ 底面：回転糸切		03116
4	SK1880 3層	青磁	碗	備前焼系	内面に化粧線、總刀による花文？ 【大卒府分盤1類a】		03113
5	SK1880 3層	漆器	碗		口径16.2 残存高4.7 残存：1/2 内内：黒色漆塗り		03156
6	SK1880 2層	転用磁			平瓦の破片を磁石に転用		03115
7	SK1880 3層	陶器	葉	宮原	押印刷線		03112
8	SK1880 3層	木製品	曲物		口径51.0 底径54.0 器高7.2 残存：1/4 縁皮留め		03160
9	SK1880 5層	埴土					03110
10	SK1883 6層	埴土					03117
11	SK1883 1層	埴土					03118

図版128 SK1880・1883土墳出土遺物

・皿（3）や転用砥（6）、1層から常滑産甕、堆積土からロクロかわらけ小皿、常滑産甕や壁土が出土している（図版128）。

【SK1883土壌】（図版89・126）

5区中央部で確認した。SK1880土壌より古い。平面形は4.0×3.8mの円形で、深さは0.6mある。底面はほぼ平坦で、断面形は皿形である。堆積土は6層に分けられ、自然堆積の過程で廃棄層（4層）が認められ、その後、埋め戻される（1層）。

遺物は6層から常滑産甕や壁土（10）、4層から常滑産甕、2・3層からモモ核、2層から常滑産片口鉢・甕、1層から常滑産甕、ロクロかわらけや壁土（11）が出土している（図版128）。

その他の1類土壌の出土遺物としては、SK1471の堆積土から柄杓底板（図版133-6）、SK1492の堆積土から釘（図版133-10）、SK1835の2層からロクロかわらけ小皿（図版133-2）、SK1844の6層から転用砥（図版133-4）、2層から鎌柄（図版133-7）、SK1846の2層から砥石（図版134-2）、SK1895の6層から切石（図版134-3）、3層から羽口（図版133-8）、SK2600の6層から砥石（図版134-4）、1層から常滑産甕（図版134-1）などがあげられる。

2類：径もしくは長軸の長さが1.2m以上～3m未満の中型土壌（図版129～132）

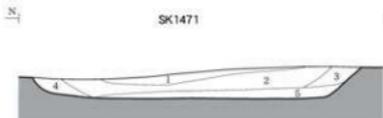
29基確認した。調査区全体に分布するが、中央部のSD1829区画溝跡に囲まれた区画J周辺に半数の15基が認められる。平面形は隅丸方形の2基（SK1460・1808）を除くと、円形もしくは楕円形である。深さは0.2～1.3mあるが、1.0mを超えるのは5基（SK1773・1823・1827・1841・1848）のみで、多くは0.8m未満である。断面形は逆台形10基、楕円形と箱形8基ずつで皿形は4基である。堆積土は自然堆積が多いが、ほかに自然堆積ののち人為的に埋め戻されるもの（SK1797・1822・1826・1827・1841・1870・1891・1896）、自然に埋まる過程で廃棄層が認められるもの（SK1480・1855・1892）、人為的に埋め戻されるもの（SK1497・1848～1850）がある。

遺物は堆積土から出土した（図版133・134）。SK1460の堆積土からは陶器楕鉢や在地産甕、SK1480の2層からロクロかわらけ皿（図版133-1）、堆積土から鉄鍬（図版133-9）、SK1782の1層から陶器小碗（図版133-3）、SK1784の1層から瀬戸美濃産陶器変形皿（図版133-5）、SK1797の3層から鎌（図版133-11）、2層から陶器皿、1層から染付皿、SK1822の1層からロクロかわらけ、SK1841の1層から常滑産片口鉢やかかわらけ、SK1849の3層から常滑産甕、1層からロクロかわらけ皿、SK1852の1層から常滑産片口鉢、SK1855の1層よりかわらけ、SK1892の1層からロクロかわらけ小皿や壁土（図版134-5）が出土している。

3類：径や長軸の長さが1.0m前後より小さな小型土壌

16基検出した。調査区全体に点在する^(註1)。平面形は隅丸方形とみられる1基（SK1900）を除くと円形もしくは楕円形である。深さは0.1～0.5mある。断面形は皿形が10基と多く、ほかは箱形が4基、逆台形と楕円形が1基ずつである。堆積土は自然堆積が多いが、ほかに自然堆積ののち人為的に埋め戻されるもの（SK1463・1798・1799・1869）がある。

遺物はSK1785の1層からロクロかわらけ、SK1869の2層から人の歯が出土している。



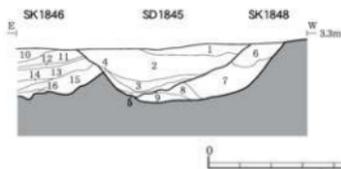
No.	土色・土性	埋入物など	備考
1	比色濃褐色(10YR5/4)砂質シルト	焼山ブロックを含む	
2	褐色(10YR5/1)粘土質シルト	焼山ブロックを含む	
3	比色濃褐色(10YR5/4)砂質シルト		埋戻土
4	比色濃褐色(10YR5/4)砂質シルト		
5	黒褐色(10YR5/1)粘土質シルト		埋戻時の自然堆積層



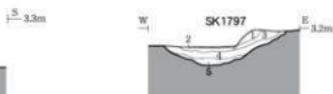
SK1764断面写真(東から)



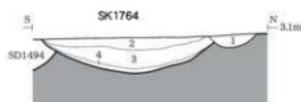
SK1764断面写真(南から)



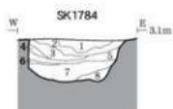
No.	土色・土性	埋入物など	備考
1	黒褐色(10YR3/1)シルト	焼山ブロックを含む	
2	黒色(10YR2/1)シルト	焼山ブロックを多数を含む	人海葬層
3	褐色(10YR2/1)粘土	砂をミナセを含む	SD1845埋戻土
4	黒褐色(10YR3/1)砂	粘土をミナセを含む	
5	黒褐色(10YR3/1)砂	焼山ブロックを含む	
6	黒褐色(10YR3/1)シルト	焼山ブロックを含む	
7	焼山ブロック堆積層		人海葬層 SK1846埋戻土
8	埋戻褐色(10YR3/1)シルト		



No.	土色・土性	埋入物など	備考
1	黒褐色(10YR3/1)シルト	焼山ブロックを含む	人海葬層
2	比色濃褐色(10YR5/4)シルト	焼山ブロックを含む	
3	褐色(10YR4/1)粘土質シルト	均質	自然堆積
4	比色濃褐色(10YR5/4)砂質シルト	焼山ブロックを中々多く含む	
5	灰褐色(10YR4/1)砂質シルト	焼山ブロックを多数を含む	



No.	土色・土性	埋入物など	備考
1	比色濃褐色(10YR5/4)シルト		カクラン
2	比色濃褐色(10YR5/4)シルト		
3	比色濃褐色(10YR5/4)シルト	灰褐色(10YR4/1)砂質シルトを含む	SK1764埋戻土
4	比色濃褐色(10YR5/4)砂質シルト		



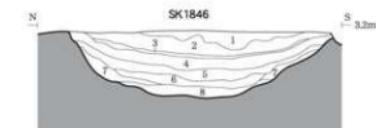
No.	土色・土性	埋入物など	備考
1	褐色(10YR4/1)シルト		
2	比色濃褐色(10YR5/4)シルト		
3	褐色(10YR4/1)シルト		自然堆積
4	比色濃褐色(10YR5/4)シルト	均質	
5	灰褐色(10YR4/1)シルト	均質	
6	褐色(10YR4/1)砂	灰褐色(10YR4/1)粘土をミナセを含む	
7	褐色(10YR4/1)シルト	焼山ブロックを多数を含む	
8	灰褐色(10YR4/1)砂質シルト	焼山ブロックを中々多く含む	人海葬層



SK1846、SD1845断面写真(北から)

No.	土色・土性	埋入物など	備考
9	黒褐色(10YR3/1)粘土質シルト	焼山ブロックを含む	SK1846埋戻土
10	黒褐色(10YR3/1)シルト	焼山ブロックを含む	
11	黒褐色(10YR3/1)シルト	焼山ブロックを多数を含む	
12	灰褐色	焼山ブロックを多数を含む	人海葬層
13	褐色(10YR4/1)粘土	砂を含む	SK1846埋戻土
14	黒褐色(10YR3/1)粘土		
15	黒褐色(10YR3/1)粘土質シルト	焼山ブロックを含む	自然堆積
16	灰褐色(10YR4/1)砂	焼山ブロックを多数含む	

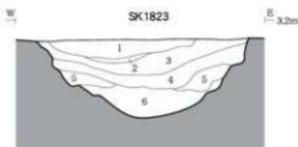
図版129 5区土壌(1)



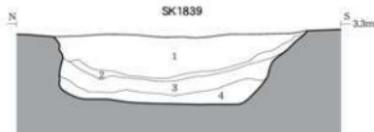
No.	土色・土性	埋入物など	備考
1	黒褐色(OYR3)シルト	炭化物や焼山ブロックを含む	
2	黒褐色(OYR3)シルト	炭化物や焼山ブロックを多数含む	人遺物層
3	炭化物層	動物遺物や炭化材を含む	
4	黒色(OY2)粘土	砂を含む	
5	黒褐色(OYR3)シルト		自然堆積
6	黒褐色(OYR3)シルト	焼山ブロックを含む	
7	黒褐色(OYR3)シルト	焼山ブロックを含む	
8	黒褐色(OY4)砂	焼山粘土ブロックや焼山ブロックを含む	



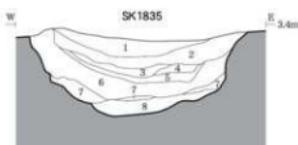
SK1846断面写真(西から)



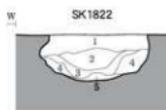
No.	土色・土性	埋入物など	備考
1	黒褐色(OYR3)シルト	焼山ブロックを多く含む	
2	黒褐色(OY4)砂		
3	黒褐色(OYR4)シルト	炭化物を多数含む	
4	黒褐色(OYR3)粘土	焼山ブロックや炭化物を多数含む	人遺物層
5	黒褐色(OYR3)粘土	焼山粘土や焼山ブロックを含む	
6	黒褐色(OY4)砂	焼山粘土や炭化物を含む	



No.	土色・土性	埋入物など	備考
1	黒褐色(OYR2)シルト	焼山ブロックを多く含む	人遺物層
2	黒褐色(OY4)シルト		埋積層上
3	黒褐色(OYR3)シルト	炭化物や焼山を含む	
4	黒褐色(OY4)砂	粘土やミナガキを含む	



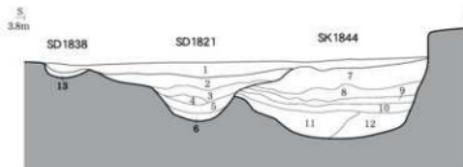
No.	土色・土性	埋入物など	備考
1	黒褐色(OYR3)シルト		
2	黒褐色(OYR2)シルト	焼山ブロックを少量含む	
3	黒褐色(OYR3)粘土		自然堆積
4	黒褐色(OYR2)砂質シルト	焼山粘土やミナガキを含む	
5	黒色(OY2)粘土	砂やミナガキを含む	
6	黒褐色(OYR3)シルト	焼山ブロックを含む	人遺物層
7	黒褐色(OY4)粘土	焼山粘土やミナガキを含む	
8	オレンジ色(OY3)砂	焼山や埋積層シルトのブロックを含む	



No.	土色・土性	埋入物など	備考
1	黒褐色(OYR3)シルト	焼山ブロックを多数含む	人遺物層
2	黒褐色(OYR3)シルト	焼山ブロックを多数含む	
3	焼山ブロック土層		
4	埋積層(OY4)粘土		
5	埋積層(OYR3)粘土		



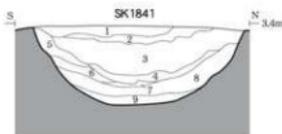
SK1844断面写真(東から)



No.	土色・土性	埋入物など	備考
1	黒褐色(OYR2)シルト		第1土層
2	黒褐色(OYR2)シルト		
3	黒色(OYR2)シルト	焼山粘土を多数含む	人遺物層
4	黒褐色(OY4)粘土	焼山粘土やミナガキを含む	埋積層上
5	埋積層(OY3)粘土	焼山粘土やミナガキを含む	
6	埋積層(OY4)砂	焼山粘土やミナガキを含む	

No.	土色・土性	埋入物など	備考
7	黒褐色(OYR3)シルト	焼山ブロックを多数含む	人遺物層
8	黒色(OYR2)シルト		
9	埋積層(OY3)シルト		
10	オレンジ色(OY3)粘土	焼山粘土やミナガキを含む	自然堆積
11	黒色(OY2)シルト	焼山粘土やミナガキを含む	SK1844埋積層上
12	埋積層(OY3)砂質粘土	砂やミナガキを含む	

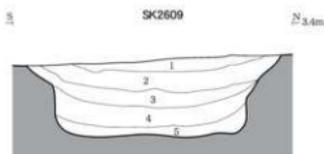
図版130 5区土壌(2)



No.	土色・土性	掘入物など	備考
1	黒褐色(10YR2/2)シルト	炭化物を多数含む。炭化ブロックを含む	自然堆積
2	黒色(10YR2/1)シルト	褐色土ブロックを含む	
3	黒褐色(10YR2/2)シルト	炭化ブロックや炭化物を多数含む	人為堆積
4	オレンジ色の(10YR4/1)粘土	褐色土を多く含む	自然堆積
5	黒褐色(10YR2/2)シルト	褐色土を含む	
6	暗褐色(10YR2/1)シルト		埋蔵土
7	オレンジ色の(10YR4/1)粘土		
8	炭化物		人為堆積
9	黒褐色(10YR2/2) 粘土層	褐色土を多く含む	自然堆積
10	暗褐色(10YR2/1) 粘土層	褐色土を含む	



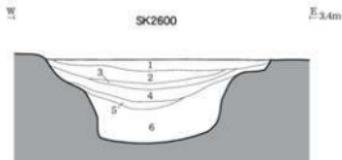
SK1841断面写真(東から)



No.	土色・土性	掘入物など	備考
1	黒褐色(10YR2/2)シルト	炭化物や炭化ブロックを多く含む	
2	黒褐色(10YR2/1)シルト	炭化ブロックを多く含む	人為堆積
3	黒褐色(10YR2/2)粘土	炭化物や炭化ブロックを多く含む	
4	黒褐色(10YR2/1)粘土		自然堆積
5	黒褐色(10YR2/1)粘土	炭化物を多く含む	



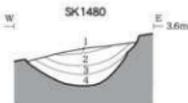
SK2609断面写真(東から)



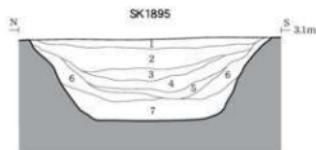
No.	土色・土性	掘入物など	備考
1	黒褐色(10YR2/2)シルト		
2	黒褐色(10YR2/1)粘土層		
3	黒褐色(10YR2/1)粘土		
4	黒褐色(10YR2/1)粘土	褐色土を多く含む	
5	黒褐色(10YR4/1)粘土		
6	オレンジ色の(10YR4/1)粘土	褐色土を多く含む	



No.	土色・土性	掘入物など	備考
1	黒褐色(10YR2/1)シルト	炭化ブロックを多数含む	人為堆積
2	黒褐色(10YR2/2)シルト	炭化ブロックを多数含む	
3	黒褐色(10YR4/2)シルト		

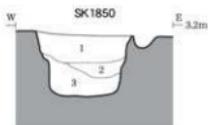


No.	土色・土性	掘入物など	備考
1	黒化ブロック	炭を含む	人為堆積
2	炭化物	炭を含む	埋蔵土
3	黒褐色(10YR2/1)粘土層	炭化ブロックを含む	自然堆積
4	黒褐色(10YR2/1)粘土層	炭化ブロックを含む	自然堆積



No.	土色・土性	掘入物など	備考
1	黒褐色(10YR2/2)シルト	炭化物を含む	
2	黒褐色(10YR2/1)シルト	炭化ブロックを多数含む。炭化物を含む	自然堆積
3	黒褐色(10YR2/1)粘土層		
4	黒色(10YR2/1)粘土層	炭化物や炭化物を含む	グライ化
5	黒褐色(10YR2/1)粘土	炭化物を多数含む	埋蔵土
6	黒褐色(10YR4/1)粘土	褐色土・砂を含む	
7	黒褐色(10YR4/1)粘土層	褐色土を含む	グライ化

図版131 5区土壌(3)



No.	土色・土性	埋人物など	備考
1	黒褐色 (1)PYK2/シルト	焼土ブロックを多数に含む	
2	黒褐色 (1)PYK3/シルト	焼土大ブロックを多数に含む	人海葬
3	黒褐色 (1)SYK1/シルト	ブライ化、焼土ブロックを多数含む	



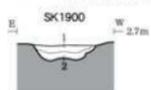
SK1850断面写真 (南から)



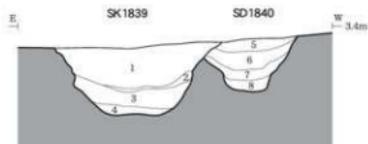
No.	土色・土性	埋人物など	備考
1	淡色 (N2) 凝化砂層	焼土ブロックを多数に含む	埋葬
2	黒褐色 (1)PYK6/シルト	焼土小ブロックを多数に含む	自然埋
3	黒褐色 (1)SYK4/砂質シルト	焼土小ブロックを多数含む	



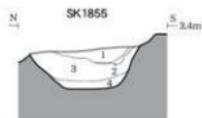
SK1892断面写真 (南から)



No.	土色・土性	埋人物など	備考
1	黒褐色 (1)SYK1/シルト		ブライ化
2	黒褐色 (1)SYK1/シルト	焼土ブロックを多数含む	ブライ化



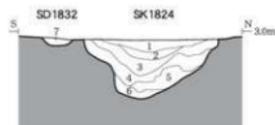
No.	土色・土性	埋人物など	備考
1	黒褐色 (1)PYK2/シルト	焼土ブロックを多数含む	人海葬
2	黒褐色 (1)SYK4/シルト		
3	黒褐色 (1)PYK3/シルト 質粘	炭化植物を多数含む	SK1839埋積土
4	黒褐色 (1)SYK4/砂質	焼土を若干含む	
5	黒褐色 (1)PYK3/シルト	焼土大ブロックを多数含む	
6	黒褐色 (1)SYK1/シルト	焼土大ブロックを多数含む	SD1840埋積土
7	黒褐色 (1)SYK4/シルト	黒い凝結土を若干含む	
8	焼土ブロックを多数含む		



No.	土色・土性	埋人物など	備考
1	淡褐色 (1)PYK2/シルト	焼土ブロックを多数含む	
2	炭化植物	焼土小ブロックを含む	
3	淡褐色 (1)PYK3/シルト	焼土大ブロックを多数含む	
4	淡褐色 (1)PYK3/シルト 質粘	焼土大ブロックを多数含む	



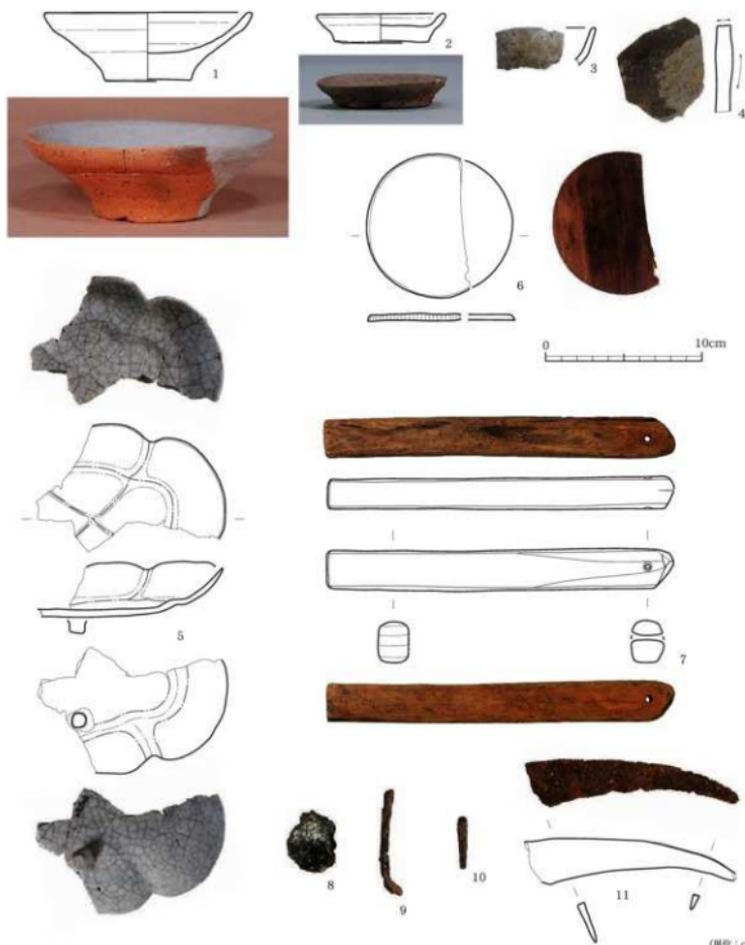
SK1855断面写真 (西から)



No.	土色・土性	埋人物など	備考
1	黒褐色 (1)PYK3/シルト	焼土小ブロックを多数含む	
2	黒褐色 (1)PYK3/シルト	砂を含む	
3	黒褐色 (1)SYK3/シルト	焼土ブロックを多数含む	人海葬
4	黒褐色 (1)SYK4/シルト	焼土ブロックを多数含む	
5	黒褐色 (1)PYK3/シルト 質粘	焼土大ブロックを多数含む	埋葬土
6	焼土 (N) 質粘	焼土を若干含む	
7	淡色 (1)PYK2/シルト	焼土小ブロックを含む	SD1832埋積土



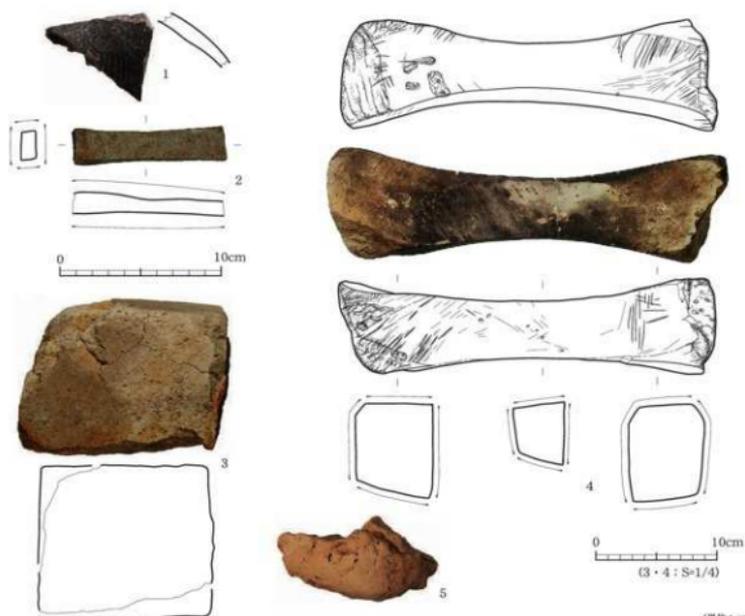
図版132 5区土壌 (4)



No.	出土層様・層位	種別	器種	産地	特	備	登録
1	SK1480 2層	ロクロかわらけ	皿		口径13.4 底径5.6 器高4.4 残存：2/3 ロクロナデ 底部：回転糸切		02102
2	SK1835 2層	ロクロかわらけ	小皿		口径8.2 底径6.0 器高1.9 残存：完全 ロクロナデ 底部：静止め切		03178
3	SK1782 1層	陶器	小瓶				03095
4	SK1844 6層	紙巾紙			常滑産の紙巾を紙石に転用 削取痕状		03087
5	SK1784 1層	陶器	安形皿	瀬戸美濃	残存：一部 【7:前半】		03096
6	SK1471 黒種土	木製品	柄杓(底取)		径9.3 厚0.4 残存：3/4 【クロベ 基部】		02207
7	SK1844 2層	木製品	鎌柄		長22.4 幅2.7 厚2.0 穿孔1方部		03162
8	SK1839 2層	土製品	器口		残存：一部		03128
9	SK1480 黒種土	鉄製品	鏃		長(8.8) 幅(0.6) 厚(0.2~0.3)		02297
10	SK1492 黒種土	鉄製品	釘		長(3.3) 幅・厚(0.5)		02287
11	SK1797 3層	鉄製品	鏃		長(13.6) 幅(3.0) 厚(0.5)		03217

(単位：cm)

図版133 5区土坑出土遺物(1)



No.	出土遺構・層位	類別	形種	産地	特徴	登録
1	SK2600 1層	陶器	壺	京焼	押印(縦線)	05198
2	SK1846 2層	石器品	砥石		長(9.2) 幅(1.9) 厚(1.4)	03184
3	SK1895 6層	石器品	砥石		長(14.2) 幅(14.8) 厚(2.4)	03127
4	SK2600 6層	石器品	砥石		長30.6 幅4.9~7.9 厚4.0~6.7	05201
5	SK1892 1層	壁土				03126

図版134 5区土横出土遺物 (2)

4類：長径が1.7m以上で、短辺はその1/2以下となる楕円形の土壇

調査区中央部東側で1基（SK1824）確認した（図版87・132）。規模は長径が5.9m、短径は0.7mで、深さは0.7mである。断面形は楕円形である。堆積土は自然堆積で、1層よりかわらけやモモ核が出土している。

（注1）北東部に3類の小型土壇が少ないのは、遺構確認面が他と比べて30cm低いため、遺構が扁平された可能性がある。

d. 溝跡

29条検出した。このうちSD1466・1467・1494・1828・1829は、区画溝跡の項で述べた。ここではSD1495・1821・1840・1845・1853・1854について述べ、個々のデータは第6表にまとめた。

【SD1495溝跡】 (図版30・135)

5区西側で確認した南北溝跡で、SX1397遺物包含層の東岸に沿って南北に延びており、検出総長は107.6mである。3時期(A→B→C)の変遷があり、D区のSD2020溝跡と一連の遺構と考えられる。また、市教委5次調査区のSD1821溝跡と一連の遺構である可能性がある。SE1498井戸跡より新しく、SK1492土壌、SD1481・1494溝跡より古い。C期は上幅1.1m前後、下幅0.5m、深さは0.7mある。方向はN-20°~30°-Wで、断面形は逆台形である。堆積土は4層に分けられるが、いずれも自然堆積と考えられる。A期・B期もC期とほぼ同じとみられる。

遺物はB期とC期の堆積土から出土している(図版137)。B期堆積土からロクロかわらけ皿・小皿や常滑産甕(3)、C期堆積土からロクロかわらけ皿・小皿、常滑産片口鉢(1)・甕、砥石(14)やウマ下顎歯が出土している。

【SD1821溝跡】 (図版32・135)

5区北部で確認した東西溝跡で、43.5m分を検出した。市教委5次調査区でも確認されており、総長は70.0mになる。SK1844土壌より新しく、SD1828・1829区画溝跡より古い。上幅1.8~2.4m、下幅0.7~0.9m、深さは0.7mある。方向はE-16°-N前後、断面形は逆台形である。堆積土は4層に分けられ、自然堆積(2~4層)のち、人為的に埋め戻されている(1層)。遺構の特徴や出土遺物からみて、SD1495と一連の遺構である可能性がある。

遺物は2層から常滑甕や転用砥(12)、1層から常滑産甕、かわらけや鉄製品、確認面から渥美産とみられる三筋壺(11)、常滑産甕(10)、かわらけ、転用砥(13)、砥石、鉄釘(17)、不明鉄製品(20)が出土している(図版137)。

【SD1840溝跡】 (図版87・135)

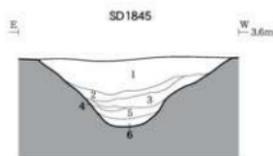
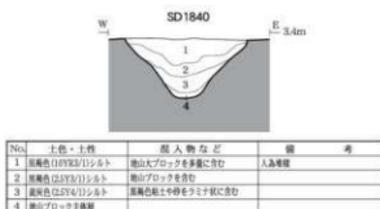
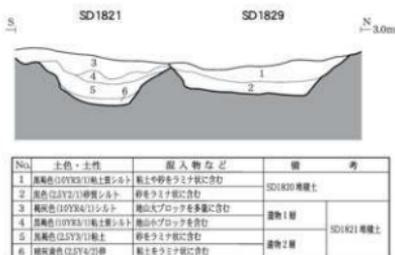
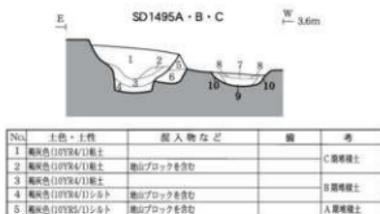
5区北部で確認した南北溝跡で、32.1m分を検出した。市教委5次調査区でも確認されており、総長は39.1mになる。東に1.0~3.5m離れてSD1845溝跡が併行する。SD1829区画溝跡、SK1839土壌、SF1842水田跡より古い。上幅1.2~1.5m、下幅0.3~0.6m、深さは0.7mある。方向はN-23°-W前後、断面形は逆台形である。堆積土は4層に分けられ、自然堆積(3・4層)のち、人為的に埋め戻されている(2層)。

遺物は2層から常滑甕やかわらけ、1層から龍泉窯系青磁椀(5)、かわらけ、砥石や不明鉄製品(21)が出土している(図版137)。

【SD1845溝跡】 (図版87・135)

5区北部で確認した南北溝跡で、32.1m分を検出した。市教委5次調査区でも確認されており、総長は36.7mになる。西に1.0~3.5m離れてSD1840溝跡が併行する。SK1845・1846・1847・1848土壌より新しく、SD1829区画溝跡、SK1839土壌、SF1842水田跡より古い。上幅2.4m前後、下幅0.7~0.8m、深さは0.6~0.9mある。方向はN-27°-W前後、断面形は逆台形である。堆積土は4層に分けられ、自然堆積(2~4層)のち、人為的に埋め戻されている(1層)。

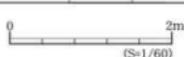
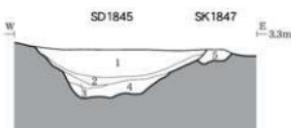
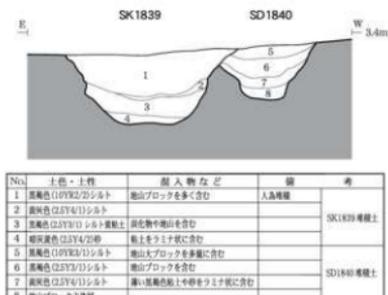
遺物は3層から常滑甕、かわらけや砥石(15)、2層からロクロかわらけ、常滑産片口鉢・甕、青磁椀(7)、鉄鏝(18)や銭貨、1層から龍泉窯系青磁椀(4・9)、常滑産甕、かわらけ、砥石、



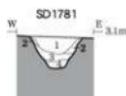
SD1840断面写真（南から）



SD1845断面写真（北から）



図版135 5区溝跡(1)



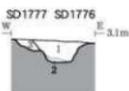
No.	土色・土性	埋入物など	備 考
1	黒褐色 (GYR2) シルト		自然堆積
2	黒褐色 (GYR3) 粘り強いシルト		
3	黒色 (GYR2) シルト	焼山ブロックを多数含む	埋積層土
4	黒色 (GYR4) シルト	焼山ブロックを多数含む	埋積層土



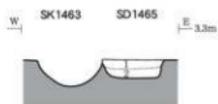
SD1781断面写真 (南から)



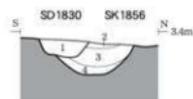
No.	土色・土性	埋入物など	備 考
1	黒褐色 (GYR3) シルト	焼山ブロックを多く含む	SD1853埋積土
2	黒褐色 (GYR4) シルト	焼山ブロックを含む	SD1854埋積土



No.	土色・土性	埋入物など	備 考
1	黒褐色 (GYR3) シルト		SD1776埋積土
2	黒褐色 (GYR4) シルト	焼山ブロックを含む	SD1776埋積土
3	黒褐色 (GYR4) シルト	焼山ブロックを含む	SD1777埋積土



No.	土色・土性	埋入物など	備 考
1	黒色 (GYR4) 粘り強いシルト		SD1465埋積土
2	土色不明 (GYR5) 粘り強いシルト	焼山ブロックを含む	



No.	土色・土性	埋入物など	備 考
1	黒褐色 (GYR3) シルト	焼山ブロックを多数含む	SD1830埋積土
2	黒褐色 (GYR3) シルト	焼山ブロックを含む	
3	灰褐色 (GYR4) シルト	焼山磁器や土器に埋積	SK1856埋積土
4	黒褐色 (GYR3) 粘り強いシルト		



SD1853断面写真 (南から)

図版136 5区溝跡 (2)

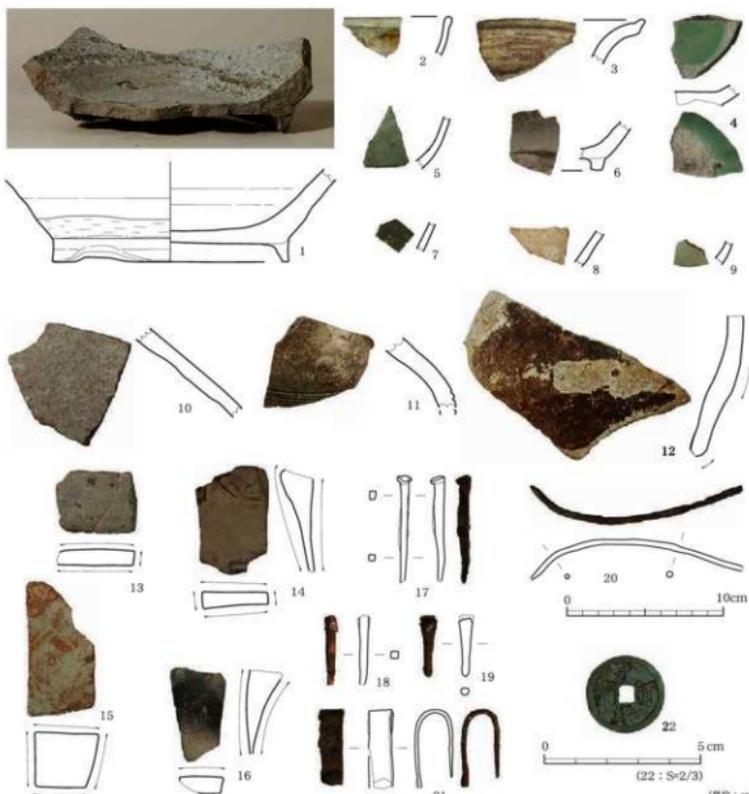
鉄製品、銭貨「永楽通寶」(初鋳1408年)(22)、不明銅製品(19)が出土している(図版137)。

【SD1853溝跡】(図版32・136)

5区北部から中央部で確認した南北溝跡で、46.0m分を検出した。市教委5次調査区でも確認されており、総長は50.1mになる。東に0.8~1.5m離れてSD1854が併行する。SK1849・1850土壌、SF1842水田跡より古い。上幅0.9m前後、下幅0.7m、深さは0.2mある。方向はN-28°~33°-W、断面形は皿形である。堆積土は黒褐色シルトで、自然堆積とみられる。

【SD1854溝跡】(図版32・136)

5区北部から中央部で確認した南北溝跡で、47.5m分を検出した。市教委5次調査区でも確認されており、総長は56.0mになる。西に0.8~1.5m離れてSD1853が併行する。SK1849・1850・1850



No.	出土層位	種別	器種	産地	特徴	登録
1	SD1496C層 埴輪土	陶器	片口鉢	常陸	高台部15.2 残存：一部 回転ナデ→回転ケズリ 内：回転ナデ 内面に重ね焼き痕	02103
2	SD1495 埴輪土	陶器	鉢			02105
3	SD1495B層 埴輪土	陶器	壺	常陸	【密着11層式期】	02104
4	SD1845 1層	青磁	碗	関東奥系	外：扇葉分文下 内：布文(5弁)	03182
5	SD1840 1層	青磁	碗	関東奥系	内：二本一組の収輪	03188
6	SD1845 2層	須恵焼	長柄壺	大 ¹⁾	高台接合後ヒケロナデ	03088
7	SD1845 2層	青磁	碗		内：扇葉文(7)	03181
8	SD1821 埴輪面	陶器	皿			03186
9	SD1845 1層	青磁	碗	関東奥系		03183
10	SD1821 埴輪面	陶器	壺	常陸	PIVIV形状	03085
11	SD1821 埴輪面	陶器	三層壺	関東?	二本一組の収輪二条	03083
12	SD1821 2層	転用瓦			常陸産葉の破片を転石に転用	03096
13	SD1821 埴輪面	転用瓦			常陸産葉の破片を転石に転用	03094
14	SD1495C層 埴輪土	石製品	砥石		長(6.8) 幅(6) 厚(2)	03235
15	SD1845 2層	石製品	砥石		長(5.3) 幅(4.1) 厚(3.6)	03180
16	SD1845 1・2層	石製品	砥石		長(5.9) 幅(3.4) 厚(2.2)	03179
17	SD1821 埴輪面	鉄製品	釘		長(6.8) 幅(0.4) 厚(0.5)	03216
18	SD1845 2層	鉄製品	鏝		長(4.0) 幅・厚(0.4)	03170
19	SD1845 1層	陶製品	不明陶製品		長(4.0) 厚(0.5)	03208
20	SD1821 埴輪面	鉄製品	不明鉄製品		長(13.6) 厚(0.4)	03215
21	SD1840 1層	鉄製品	不明鉄製品		長(5.1) 幅(1.5) 厚(0.2)	03190
22	SD1845 1層	銅製品	銭貨		『本末通貨』(昭和1408年)	03207

図版137 5区溝跡出土遺物



No.	種別	特	備
1	板碑	種子：「バン」(大日如命) 紀年銘：永仁四年(1296)七月十四日 種子彫法：素彫彫 高10.0 幅40.5 厚10.5 種子：縦27.0 横13.8 厚幅3.4 縦深0.5 【アルコース砂岩】	(単位：cm)

図版138 5区出土の板碑

土壌、S F 1842水田跡より古い。上幅0.8m前後、下幅0.6m、深さは0.2mある。方向はN-21° ~ 28° -W、断面形は皿形である。堆積土は黒褐色シルトで、自然堆積とみられる。

● 5区から出土した板碑 (図版138)

5区北部の土壇状の高まりの上に立てられていた板碑である。このため、人力で表土剥ぎを行ったが、基壇や整地といった板碑の造立に関わる遺構は認められなかった。板碑は整理室に持ち帰り、種子や紀年銘・願文の観察、写真や計測を行ったのち、造立地点の近所に住む持ち主に返還した。

(4) D区

D区はA区・B1区とS X 1397遺物包含層を挟んだ東側にあり、遺跡全体からみて中央東側に位置する。中・近世の遺構は、区画溝跡のほか掘立柱建物跡、井戸跡、土壌、溝跡などを確認した。遺構の分布をみると東側の密度が高く、S X 1397が形成された湿地跡に面する西側に少ない(図版139~144)。遺物は掘立柱建物跡の柱穴や井戸跡、土壌、溝跡から、土器・陶磁器・木製品・石製品・金属製品などが出土した。

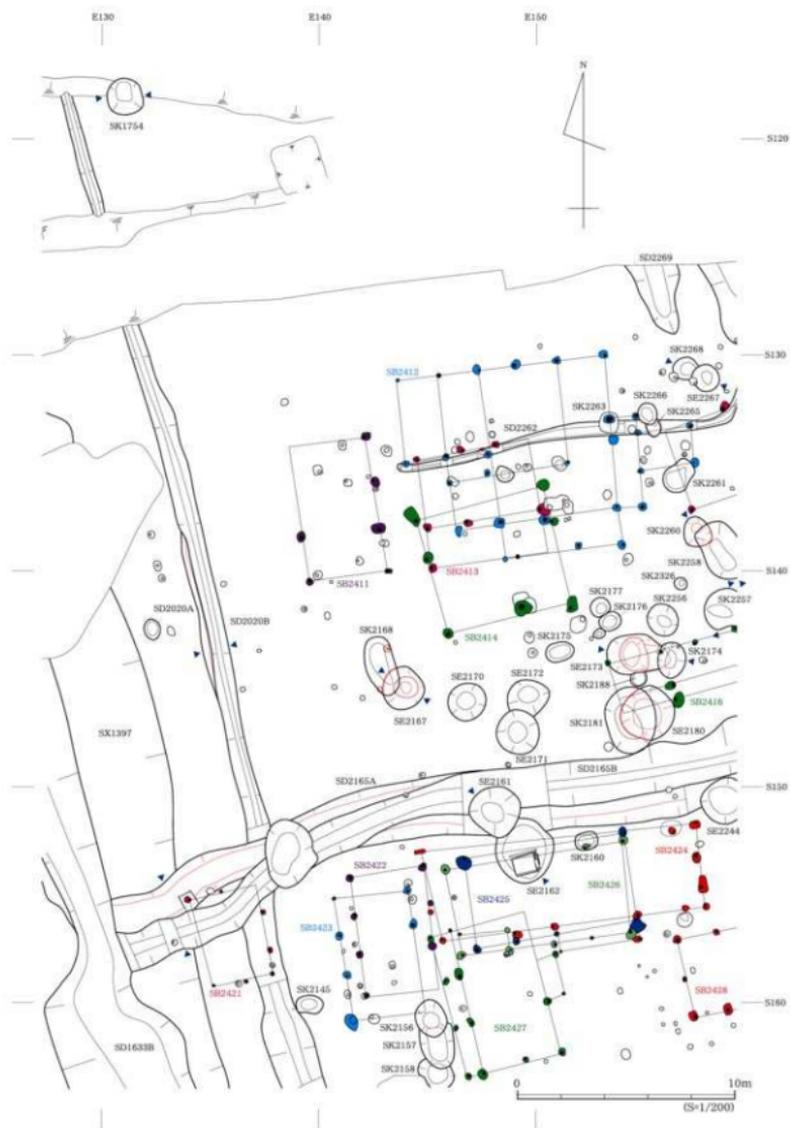
遺構%	検出深(m)	断面形	深 度 (m)			方 向	埋 没 土	出 土 遺 物	備 考	深 度	断面
			上層	下層	段差						
S D1495	南北3.3	矩形	0.8~0.9	0.5~0.6	0.2	東北 (N29° W前後)	自然	S D1495→S E1497・1493	86	136	
S D1496	東西17.1	逆台形	2.1以上	0.8	0.6	東西 (E 0° ~8° N)	自然	2層) 青磁碗	区画線 遺構群 S D1496→S D1497	32	34
S D1497	東西12.0	矩形	4.7以上	0.5	1.4	東西 (E 2° ~7° N)	自然	2層) 磁器、磁器、磁片、磁石	区画線 遺構群 S D1496→S D1497	32	34
S D1498	東西9.1	矩形	2.9	2.7	0.1	東西 (E 10° ~20° N)	自然	2層) 磁石碗	内側より上から見て北	32	
S D1499	東西14.4	矩形	5.3	4.1	0.3	東西 (E 12° ~30° N)	自然	2層) 磁石	内側より上から見て北	32	
S D1499	東西35.1	矩形	0.6	0.3	0.2	東西 (E 6° ~15° N)	自然	1層) コクラ	S D1760と同遺構 S K1809→S D1499→S K1791・1792 青磁厚縁碗	86	
S D1499	東西17.6	矩形	0.6~0.7	0.2	0.2	東西 (E 6° ~15° N)	自然	S D1499と同遺構	32		
S D1499	東西18.6	矩形	2.8	2.2	0.1	東西 (E 16° N前後)	自然	1層) 陶磁器、コクラ、空澄壺	S D1248・1780と同遺構 透く新しい S E1792・S K1788・S D1781・1801→S D1499	39	
S D1494	東西19.9、南北27.0	逆台形	2.5~2.4	0.8~1.2	0.8~1.1	L字 (東西 : E12° N前後、南北 : N12° W前後)	自然	4層) 在地塊、転用磁 2層) 陶磁碗・磁鉢、陶製壺、磁石、折衝子 2層) 土器磁器類-陶丸瓦 [ITC]磁石、陶磁碗・鉢、空澄壺、転用磁、瓦、コクラ 1層) 陶片(赤土・白土)土 [ITC]磁石、陶磁碗・盆・土器・磁鉢、磁片碗・皿、磁器碗、青磁碗、青磁碗、白磁碗、茶臼、鉄製品、鉄片 磁器-陶丸瓦 [ITC]磁石→18C前半)、空澄壺、青磁壺、流石下駄、木製品、磁石、クマ上/下製	S E1499→S D1495→S D1494・1494、S K1492 S D2020と一連の遺構 方向はほぼS X1200(右)の遺構・IV層	39	41
S D1495	南北107.6	逆台形	C : 1.1	C : 0.5	C : 0.1	C : 南北 (N30° ~30° W)	自然	3層) 空澄壺、コクラ皿・小皿、磁石 C層) 青磁片鉢・壺、コクラ皿・小皿、磁石、クマ下製	S E1499→S D1495→S D1494・1494、S K1492 S D2020と一連の遺構 方向はほぼS X1200(右)の遺構・IV層	30	135
S D1776	南北28.2	逆台形	0.7	0.3	0.3	南北 (N11° ~45° W)	自然	S E1879→S K1878、S D1776 S D1776→S E1775、DKS X1252→X232と同遺構?	29	136	
S D1777	南北2.3	矩形	0.5	0.3	0.2	南北 (N29° W前後)	自然	S D1777→S D1776→S E1775	90	98・108	
S D1781	東西6.0、南北16.0	逆台形	0.7	0.2	0.4	L字 (東西 : E12° N前後、南北 : N10° W前後)	自然	2層) かわらけ 1層) コクラ	S D1781→S K1782	90	136
S D1861	南北27.8	逆台形	0.4~0.9	0.3	0.5	南北 (N17° ~46° W)	自然	S E1808→S D1861、DK D339と同遺構?	29		
S D1862	東西3.2	矩形	0.4	0.3	0.2	東西 (E19° N前後)	自然	3層) 空澄壺 転用磁 1層) 空澄壺、かわらけ、鉄製品 2層) 陶製3脚壺、空澄壺、かわらけ、磁石、鉄製品	S K1844→S D1862→S D1828→S D1829 S D1843と同遺構 赤土部分を含めると東西70.0m以上 S D1495と一連) 遺構・IV層	32	130
S D1829	西辺42.5、南辺45.5	逆台形	2.3	0.8	0.6~1.0	L字 (南辺 : E21° N前後、西辺 : N23° W前後)	自然	2層) 青磁碗、流石下駄、瓦、6層) 菅笠片鉢・小皿、在地塊、青磁碗、かわらけ、茶臼、鉄片、漆碗、磁器、イヌ骨筒 2層) 空澄壺、石臼、クマ下製、磁石 1層) 菅笠片鉢・壺、コクラ、鉄製品、磁石	区画線 遺構群 S K1809・S D1840・1840→S D1829→S D1829→S D1830・2040と同遺構 南辺中半以上土層 (S X1802) 北端部が内側に入る	32	37
S D1829	南辺45.5、西辺29.6、北辺29.1	逆台形	2.1~2.8	0.8~1.5	0.6~0.9	コ字 (北辺 : E18° N前後、南辺 : E21° N前後、西辺 : N19° W前後)	自然	4層) コクラ、折衝子 3層) 空澄壺、かわらけ、磁石 2層) 漆碗、茶臼、かわらけ 1層) 空澄壺、在地塊、白磁碗、コクラ、磁石、鉄製品 2層) 空澄壺、在地斤片鉢、壺、コクラ、鉄製品、磁石	区画線 遺構群 S D1862→S D1828→S D1829→S D1830→S F1842 S K1852・1860・1901→S D1829→S D2069・2010と同遺構 南辺中半以上土層 (S X1802) 北端部が内側に入る	32	135
S D1830	東西16.7、南北2.1	逆台形	0.6	0.2	0.2	L字 (東西 : E14° N前後、南北 : N44° W前後)	自然	2層) 磁器そば盛口	S K1846→S D1830 S D1828→S D1829→S D1830→S F1842	87	136
S D1832	東西6.9	矩形	0.4	0.2	0.1	東西 (E11° ~21° N)	自然	S D1832→S D1837	32	132	
S D1837	東西9.9	矩形	0.3~0.4	0.1~0.2	0.1	東西 (E11° N前後)	自然	S D1832→S D1837	32		
S D1838	東西5.5	矩形	0.6	0.4	0.2	東西 (E 5° N前後)	自然	S D1829→S D1838	87	130	
S D1840	南北32.1	逆台形	1.2~1.5	0.3~0.6	0.7	南北 (N23° W前後)	自然	2層) 空澄壺、かわらけ 1層) 青磁碗、かわらけ、鉄製品、磁石	S D1840→S D1829→S F1842 S D1840→S K1839 遺構・IV層	87	135
S D1845	南北32.1	逆台形	2.4	0.7~0.8	0.6~0.9	南北直線 (N27° W前後)	自然・人工	3層) 空澄壺、かわらけ、磁石 2層) 青磁碗、空澄壺片鉢・壺、コクラ、鉄製品、磁器 1層) 青磁碗、空澄壺、コクラ、鉄製品、靱 (永楽遺構) (約前1400年)、磁石	S K1846→1848→S D1845→S K1839・S D1829	87	129・135
S D1852	南北67.0	矩形	0.9	0.7	0.2	南北 (N38° ~31° W)	自然	S D1852→S K1849・1850・S F1842 遺跡調査済	32	136	
S D1854	南北47.5	矩形	0.8	0.6	0.2	南北 (N31° ~26° W)	自然	S D1854→S K1849・1850・S F1842 遺跡調査済	32	136	
S D1864	南北17.5	矩形	0.5	0.2~0.3	0.2	南北 (N31° ~28° W)	自然	1層) コクラ	S D1864→S E1865	88	
S D2067	東西12.6	逆台形	0.9~1.2	0.4~0.5	0.4~0.6	東西 (E 8° ~22° N)	自然		S D1864→S E1865	89	

※ S D1495-1497は、掘削のため掘山より30cm以上レベルで確認した。
 ※ 出土遺物のコクラはコクラかわらけ、手づくねは手づくねかわらけ、磁碗は磁器土火焼を指す
 ※ 出土遺物の陶磁は定形磁器を指す

第6表 5区溝跡属性表

a. 掘立柱建物跡

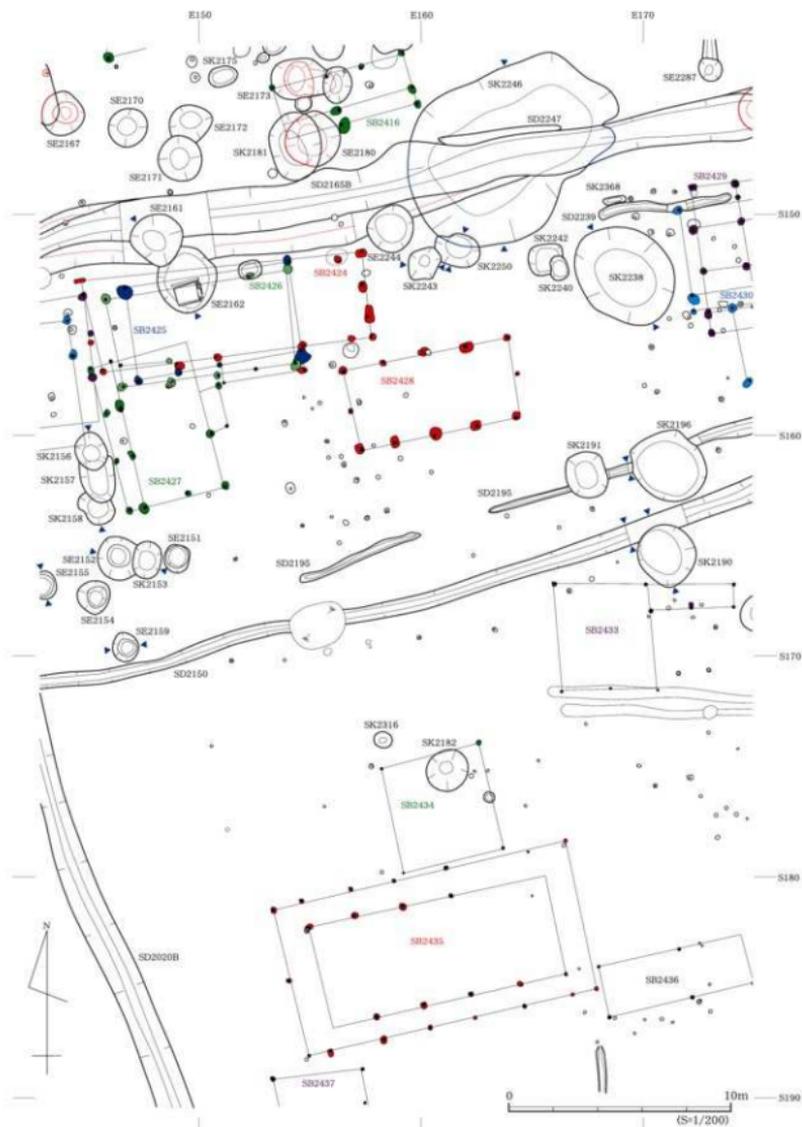
42棟の建物跡を確認した。これらは建物の位置にある程度のみまとまりが認められ、**1)**北端部 (S 2301の北-1棟 : S B 2410)、**2)**北部 (S D2301とS D2165の間-10棟 : S B 2411~2420)、**3)**中央部北側 (S D2165とS D2150の間-12棟 : S B 2421~2432)、**4)**中央部 (S D2150とS D2015の間 : 9棟 : S B 2433~2441)、**5)**南東部 (S D2015の内側-10棟 : S B 2442~2451) の5群に分けられる。以下、主な建物跡について概要を述べることで、個々の建物跡の属性は、第7表にま



図版139 D区北西部の検出遺構



図版 140 D区北東部の検出遺構



図版141 D区中央部西側の検出遺構



D区空中写真（南から）



D区空中写真（西から）
奥に見えるのは仙台港



D区空中写真（南から）

図版145 D区の検出遺構（1）



D区全景（南から） 左の黒くみえる部分がSX1397



D区全景（西から） 中央下はSD1633区画溝跡



D区中央部の遺構（東から） 左手前がSK2209

図版146 D区の検出遺構（2）

とめた。

(i) 北端部の建物跡

【SB2410建物跡】 (図版147)

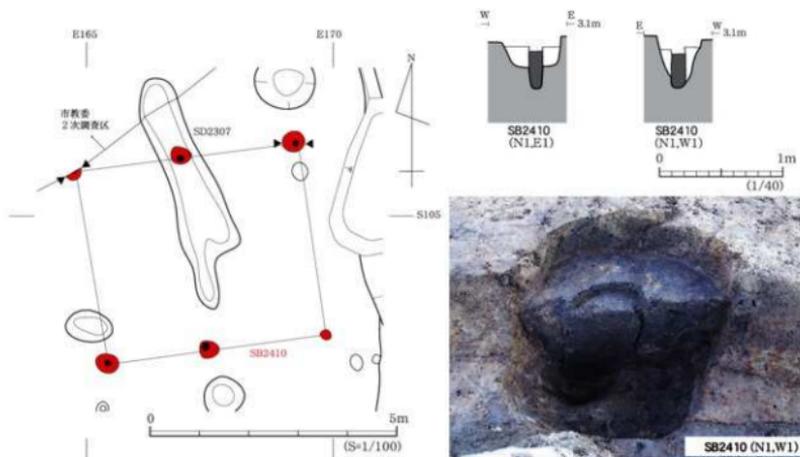
東西2間、南北1間の東西棟建物跡である。SD2307溝跡より古い。柱穴は6個すべて検出しており、うち5ヶ所で径10~15cmの柱痕跡を確認した。平面規模は桁行きが北側柱列で総長4.6m、柱間寸法は西から2.2m・2.4m、梁行きは西妻で4.0mである。方向は北側柱列で測るとE-7°-Nである。柱穴は径40cm前後の円形で、深さは20~30cmある。埋土は地山ブロックを含む黒褐色シルトである。

(ii) 北部の建物跡

【SB2412建物跡】 (図版148・150)

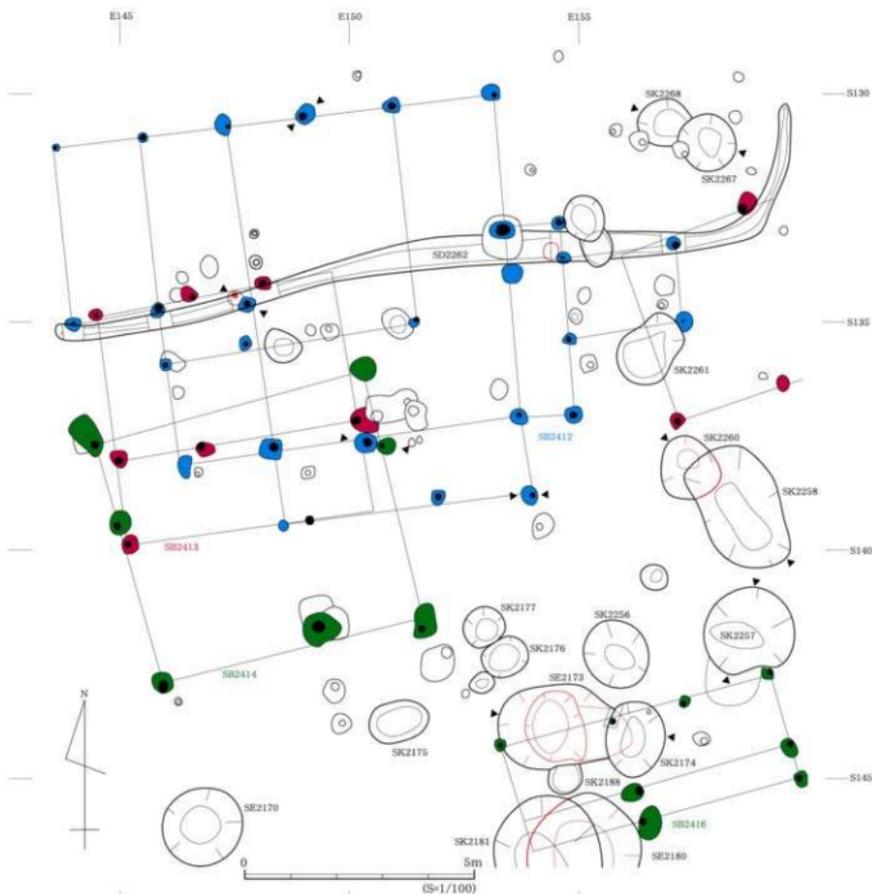
東西4間、南北3間の3面(西・南・東)に張出しを設けた東西棟建物跡である。張出しは西が1×1間、南が1×3間で、東は1×3間の外側に1×1間が加わる。身舎内部では柱穴を4個確認した。SK2263土壌より古い。柱穴は身舎で17個、張出しで11個検出しており、身舎の11ヶ所、張出しの10ヶ所で径10~15cmの柱痕跡、身舎の1ヶ所で柱抜取穴を確認した。

身舎の規模は桁行きが北側柱列で総長7.8m、柱間寸法は西から1.9m・1.7m・1.9m・2.3m、梁行きは西妻で総長7.2m、柱間は北から3.9m・1.1m・2.2mとみられる。張出しの出は西が北側柱列から1.9m、南が東妻から1.8m、東は南側柱列から1.2mである。東はさらに1×1間分外へ張り出すが、その規模は東西2.5m、南北1.7mである。方向は北側柱列で測るとE-7°-Nである。柱穴は



図版147 SB2410建物跡

身舎、張出しとも径20～50cmの円形もしくは楕円形で、深さは30～50cmである。身舎と張出しの柱穴を比較すると、身舎の規模が大きい傾向は認められるが、深さに顕著な違いはない。埋土は地山ブロックを多く含む黒褐色シルトである。柱穴埋土から陶器碗、柱痕跡から鉄滓（図版171-8）が出土している。



図版148 SB2412・2416建物跡



図版149 SB2411~2420建物跡（東から）

【SB2413建物跡】（図版150・151）

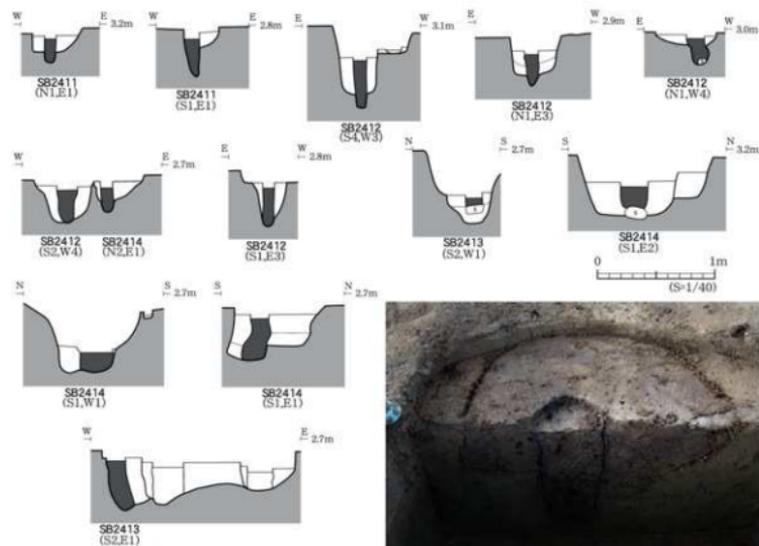
東西3間、南北1間の身舎の南側に廂もしくは縁を持つ東西棟建物跡である。柱穴は身舎で6個、廂または縁で2個検出し、うち身舎6ヶ所、廂（または縁）2ヶ所で径10cmの柱痕跡を確認した。平面規模は桁行きが南入側柱列で総長5.3m、柱間寸法は西から1.9m・3.5m（2間分）、梁行きは西妻で5.1mで、廂（または縁）の出は1.9mである。方向は南入側柱列で測るとE-10°-Nである。柱穴は身舎、廂（または縁）とも径30~60cmの円形もしくは楕円形で、深さは身舎が30~60cm、廂（または縁）が20~30cmある。身舎南東隅柱は、礎板として石が埋め込まれていた。埋土は地山ブロックを含む褐灰色シルトである。

【SB2417建物跡】（図版152・153）

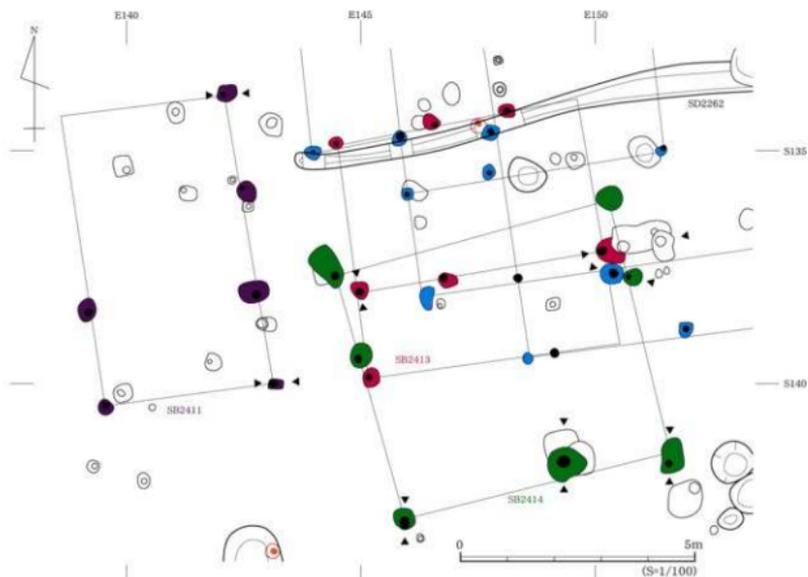
東西4間、南北2間の身舎の南側中央に東西2間の張出しを持つ東西棟建物跡である。身舎内部では柱穴を3個確認した。SE2276・2277井戸跡より古い。柱穴は身舎で13個、張出しで3個検出しており、身舎の9ヶ所、張出しの2ヶ所で径10~20cmの柱痕跡を確認した。身舎の規模は桁行きが北側柱列で総長8.9m、柱間寸法は東から2.9m・2.5m・1.6m・1.9m、梁行きは東妻で総長4.7m、柱間は北から2.7m・2.0mとみられる。張出しは南側柱列からの出が3.5m、東西は総長3.7m、柱間は西から1.8m・1.9mである。方向は北側柱列で測るとE-5°-Nである。柱穴は身舎、張出しとも径30~50cmの円形もしくは楕円形で、深さは20~30cmである。身舎と張出しの柱穴を比較すると、身舎の規模が大きい傾向は認められるが、深さに顕著な違いはない。埋土は地山ブロックを少し含む黒褐色シルトである。柱穴埋土から磁器小碗（図版171-3）が出土している。

【SB2419建物跡】（図版153・154）

東西4間、南北2間とみられる身舎の南側に廂もしくは縁を持つ東西棟建物跡である。柱穴は身舎で6個、廂または縁で3個検出し、うち身舎5ヶ所、廂（または縁）2ヶ所で径10~15cmの柱痕跡を



図版150 SB2411~2414建物跡柱穴断面



図版151 SB2411・2413・2414建物跡

確認した。平面規模は桁行きが南入側柱列で総長7.9m、柱間寸法は西から3.5m（2間分）・4.4m（2間分）、梁行きは西妻で総長4.1m、柱間は北から1.8m・3.3m、廂（または縁）の出は2.1mとみられる。方向は南入側柱列で測るとE-12°-Nである。柱穴は身舎が径20～50cmの円形もしくは楕円形、廂（または縁）は径20～30cmの円形もしくは楕円形で、深さは身舎、廂（または縁）ともに30～60cmである。埋土は地山ブロックを少し含む黒褐色シルトである。

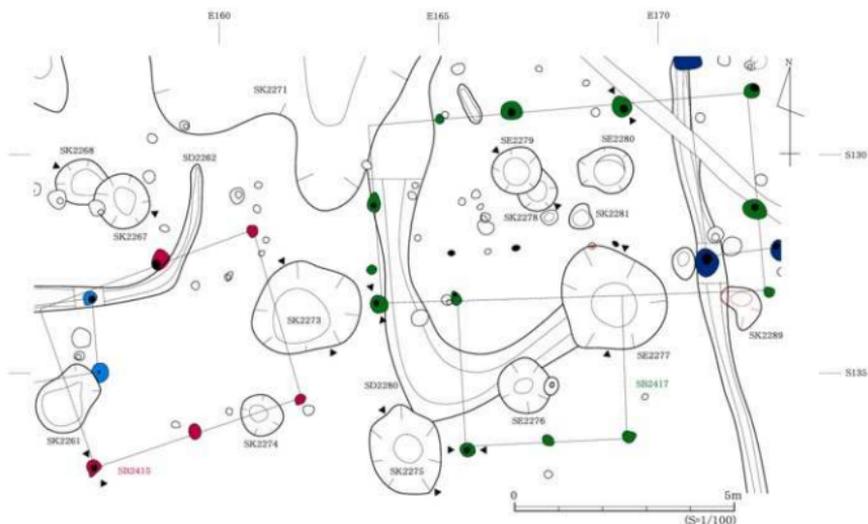
【SB2420建物跡】（図版153・154）

東西4間、南北1間の東西棟建物跡である。SE2283井戸跡、SK2299土壌より古い。柱穴は7個検出し、うち6ヶ所で径10～15cmの柱痕跡を確認した。平面規模は桁行きが北側柱列で総長7.4m、柱間寸法は西から1.8m・1.9m・3.8m（2間分）、梁行きは東妻で3.9mとみられる。方向は北側柱列で測るとE-0°-Nである。柱穴は径30～40cmの円形もしくは楕円形で、深さは30cm前後ある。埋土は地山ブロックを含む黒褐色シルトである。

(iii) 中央部北側の建物跡

【SB2422建物跡】（図版155～157）

東西1間、南北3間の南北棟建物跡である。SB2427建物跡より古い。柱穴は7個検出し、うち5ヶ所で径10～15cmの柱痕跡を確認した。平面規模は桁行きが西側柱列で総長5.6m、柱間寸法は北から1.8m・1.9m・1.9m、梁行きは北妻で3.4mである。方向は西側柱列で測るとN-8°-Wである。



図版152 SB2415・2417建物跡

柱穴は径30～45cmの円形もしくは隅丸方形で、深さは20～40cmある。埋土は地山ブロックを含む灰黄褐色シルトである。

【SB2424建物跡】(図版157・158)

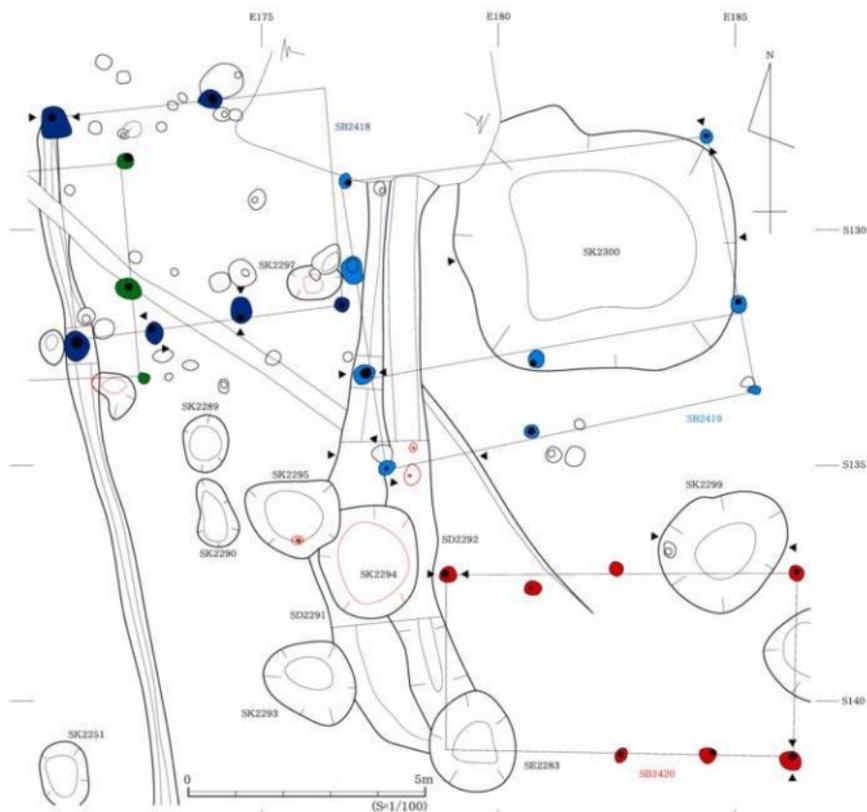
東西5間、南北3間の身舎の南側中央に1間の張出しを持つ東西棟建物跡である。SB2425建物跡より新しく、SB2426建物跡より古い。柱穴は身舎で12個、張出しで2個検出しており、身舎の9ヶ所、張出しの2ヶ所で径10～15cmの柱痕跡を確認した。身舎の規模は桁行きが南側柱列で総長12.2m、柱間寸法は西から3.3m・1.9m・3.9m・2.2m・0.9m、梁行きは東妻で総長4.0m、柱間は北から1.6m・1.5m・0.9mとみられる。張出しの出は南側柱列から1.1mである。方向は南側柱列で測るとE-8°-Nである。柱穴は身舎、張出しとも径30～80cmの円形もしくは楕円形で、深さは30～50cmある。埋土は地山ブロックを含む黒褐色や灰黄褐色シルトである。

【SB2426建物跡】(図版157・158)

東西4間、南北3間の東西棟建物跡で、内部に柱穴を1個伴う。SB2424・2425建物跡より新しく、SE2162井戸跡より古い。柱穴は11個検出し、うち9ヶ所で径9～15cmの柱痕跡を確認した。平面規模は桁行きが南側柱列で総長7.8m、柱間寸法は西から2.2m・2.1m・1.7m・1.8m、梁行きは西妻で総長4.0m、柱間は北から1.3m・1.8m・0.9mである。方向は南側柱列で測るとE-8°-Nである。柱穴は径20～40cmの円形もしくは楕円形で、深さは30～40cmある。埋土は地山ブロックを含む黒褐色



図版153 SB2415・2417～2420建物跡柱穴断面



図版154 SB2418~2420建物跡

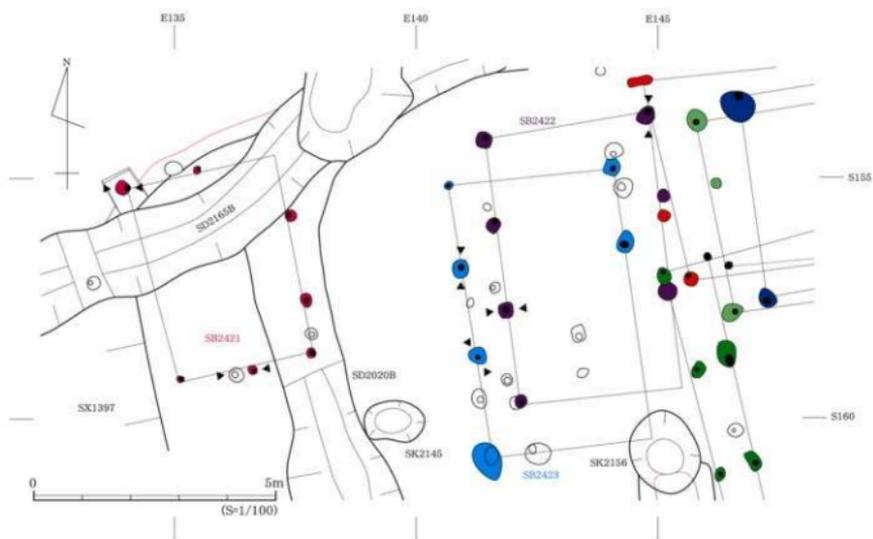
や灰黄褐色シルトである。

【SB2427建物跡】(図版157・158)

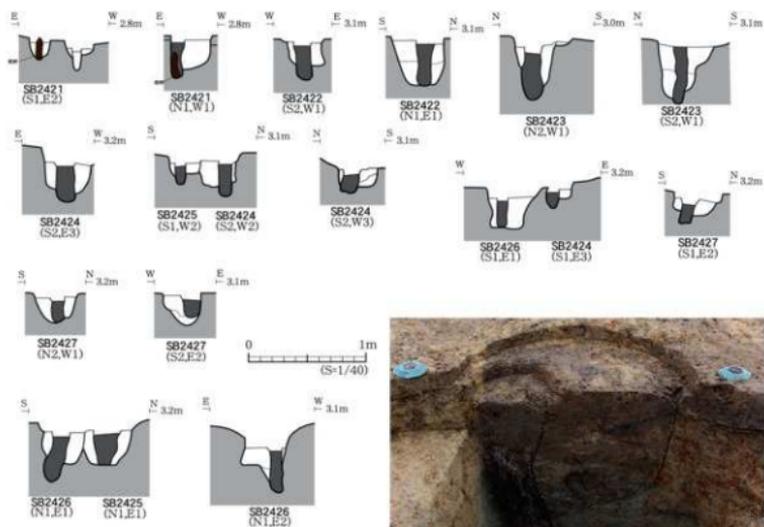
東西2間、南北3間の身舎の西側に縁もしくは廂を持つ東西棟建物跡である。東側柱列の中央に1間の張出しを持つ。SB2422建物跡より新しい。柱穴は身舎で7個、縁(または廂)で4個、張出しで2個検出しており、身舎の6ヶ所、縁(または廂)の4ヶ所、張出しの2ヶ所で径10~16cmの柱痕跡、身舎の1ヶ所で柱抜取穴を確認した。身舎の規模は桁行きが西側柱列で総長6.7m、柱間寸法は北から2.2m・2.2m・2.3m、梁行きは南妻で総長3.7m、柱間は東から1.7m・2.0mであり、縁(または廂)の出は0.7mである。張出しの出は東側柱列から0.8mである。方向は西入側柱列で測る



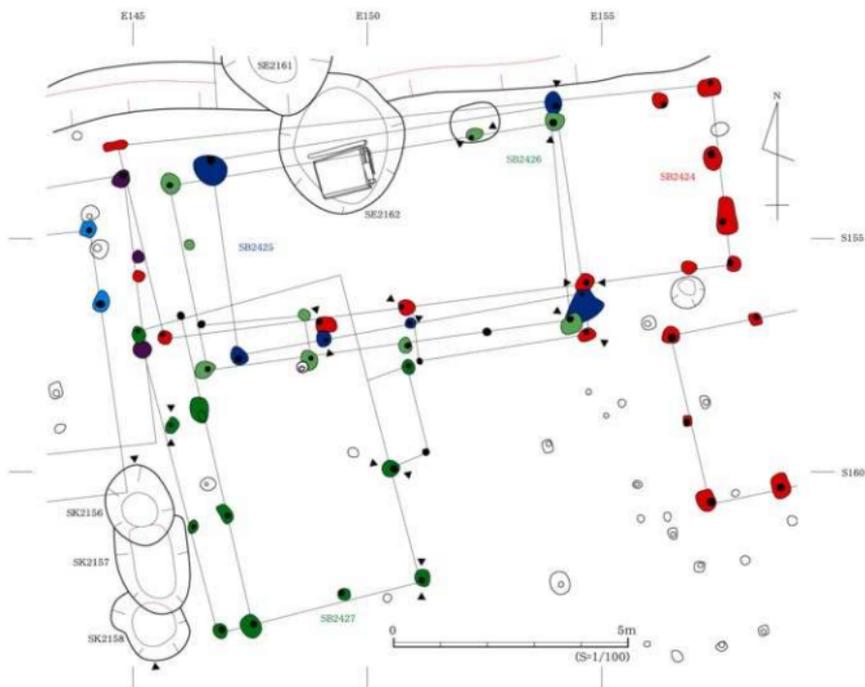
図版155 SB2421~2432建物跡（北東から）



図版156 SB2421~SB2423建物跡



図版157 SB2421~2427建物跡柱穴断面



図版158 SB2424～2427建物跡

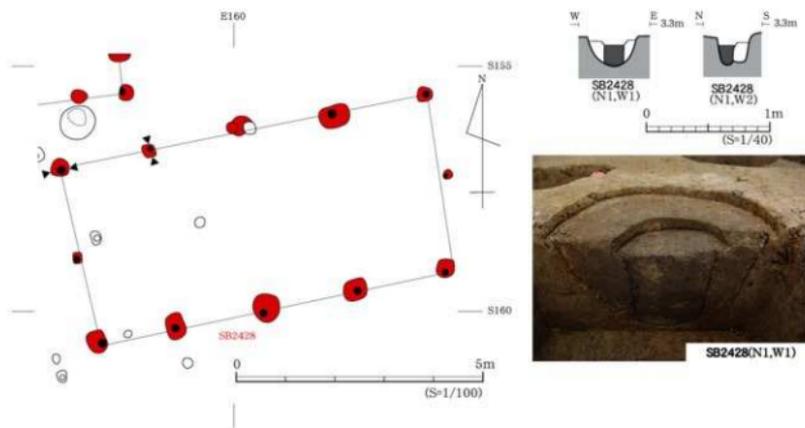
とN-15°-Wである。柱穴は身舎、縁（または扉）、張出しとも径30～50cmの隅丸方形もしくは楕円形で、深さは20～30cmある。埋土は地山ブロックを含む黒褐色や褐灰色シルトである。

【SB2428建物跡】（図版159）

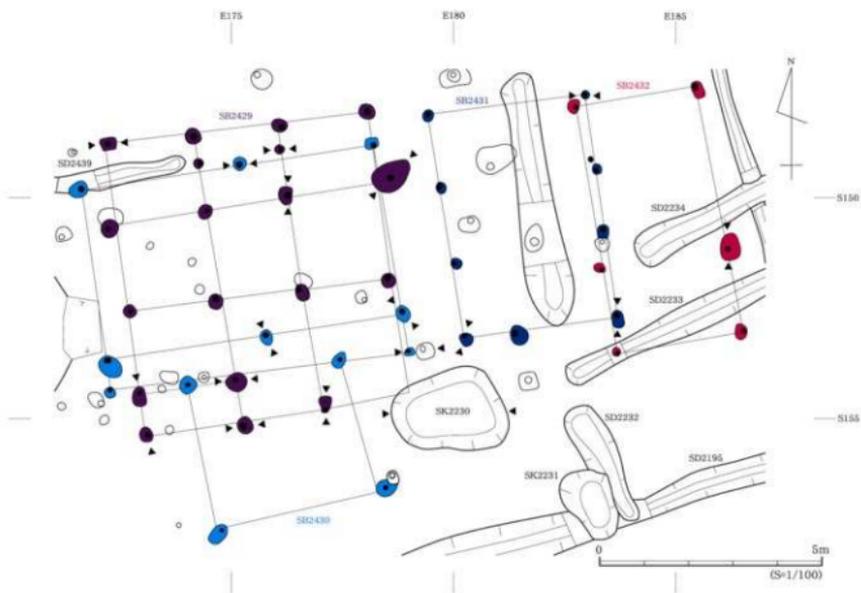
東西4間、南北2間の東西棟建物跡である。柱穴は12個検出しており、すべてで径9～20cmの柱痕跡を確認した。平面規模は桁行きが南側柱列で総長7.1m、柱間寸法は西から1.5m・1.8m・1.9m・1.8m、梁行きは西妻で総長3.6m、柱間は1.8m等間である。方向は南側柱列で測るとE-12°-Nである。柱穴は径20～40cmの隅丸方形で、深さは20～30cmある。埋土は地山ブロックを含む黒褐色シルトである。

【SB2429建物跡】（図版160～162）

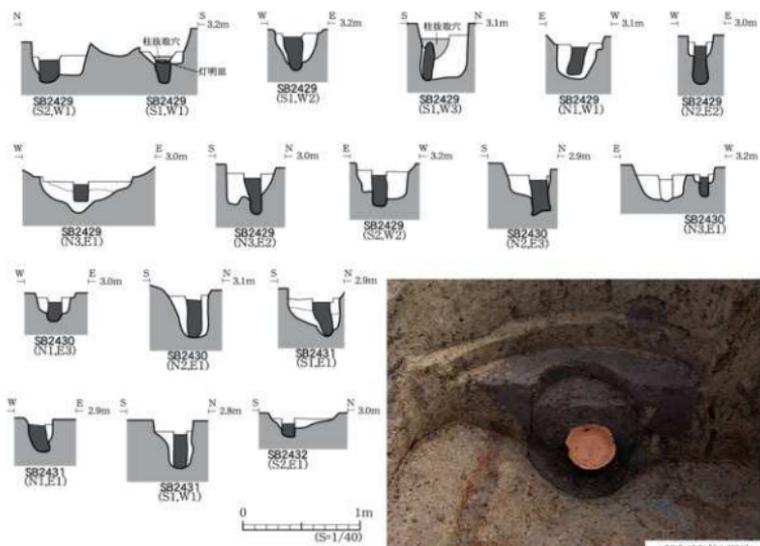
東西3間、南北4間の床束が伴う南北棟建物跡である。SK2230土壌より古い。柱穴は側柱で12個、東柱で7個検出しており、すべてで径10～20cmの柱痕跡、1ヶ所で柱抜取穴を確認した。平面規模は桁行きが西側柱列で総長6.7m、柱間寸法は北から1.9m・1.9m・1.9m・1.0m、梁行きは北妻



图版159 SB2428建物跡



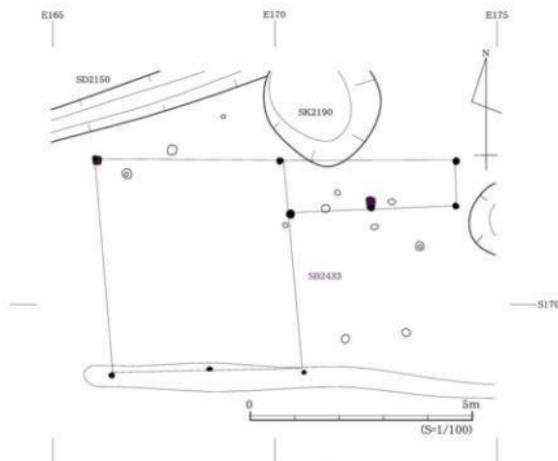
图版160 SB2429~2432建物跡



圖版 161 SB2429~2432建物跡柱穴断面



図版162 SB2429～2432建物跡（北から）



図版163 SB2433建物跡

で総長5.9m、柱間は西から1.9m・2.0m・1.9mである。方向は西側柱列で測ると $N-8^{\circ}-W$ である。柱穴は径25～40cmの円形もしくは楕円形で、深さは30～50cmある。側柱と東柱の規模や深さに顕著な違いは認められない。埋土は地山ブロックを含む黒褐色シルトである。

南西隅柱抜取穴から完形の土師質土器灯明皿（図版171-2）、 $N1 \cdot E2$ 柱穴埋土から龍泉窯系青磁碗（図版171-4）が出土している。

【SB2430建物跡】（図版160～162）

東西2間、南北1間の身舎の南側に縁もしくは廂を持つ東西棟建物跡である。さらに南側柱列の中

央には1間の張出しを持つ。SD2439溝跡より新しい。柱穴は身舎で6個、縁(または廂)で4個、張出しで2個検出しており、すべてで径7~16cmの柱痕跡を確認した。身舎の規模は桁行きが北側柱列で総長6.7m、柱間寸法は西から3.7m・3.0m、梁行きは西妻で3.9mあり、縁(または廂)の出は0.7mである。縁(または廂)は東西3間で総長6.8m、柱間は西から1.8m・3.5m・1.5mで、張出しの出は縁(または廂)から3.3mである。方向は北側柱列で測るとE-8°-Nである。柱穴は身舎、縁(または廂)、張出しとも径20~35cmの隅丸方形もしくは楕円形で、深さは25~45cmある。埋土は黒褐色シルトである。

(iv) 中央部北側の建物跡

【SB2433建物跡】(図版163)

東西2間、南北2間の南北棟建物跡である。身舎の東側柱列の北には東西2間、南北1間の張出しを持つ。柱穴は身舎で6個、張出しで3個検出しており、すべてで径10~15cmの柱痕跡を確認した。身舎の規模は桁行きが東側柱列で総長4.8m、柱間寸法は北から1.2m・3.6m、梁行きは南妻で4.3mある。張出しは北妻から2間東へ延び、規模は東西3.8m(柱間は1.9m等間)、南北1.0mある。方向は西側柱列で測るとN-5°-Wである。柱穴は身舎、張出しとも径20~30cmの方形もしくは円形で、深さは20cm前後ある。埋土は地山ブロックを含む黒褐色シルトである。

【SB2435建物跡】(図版164・167)

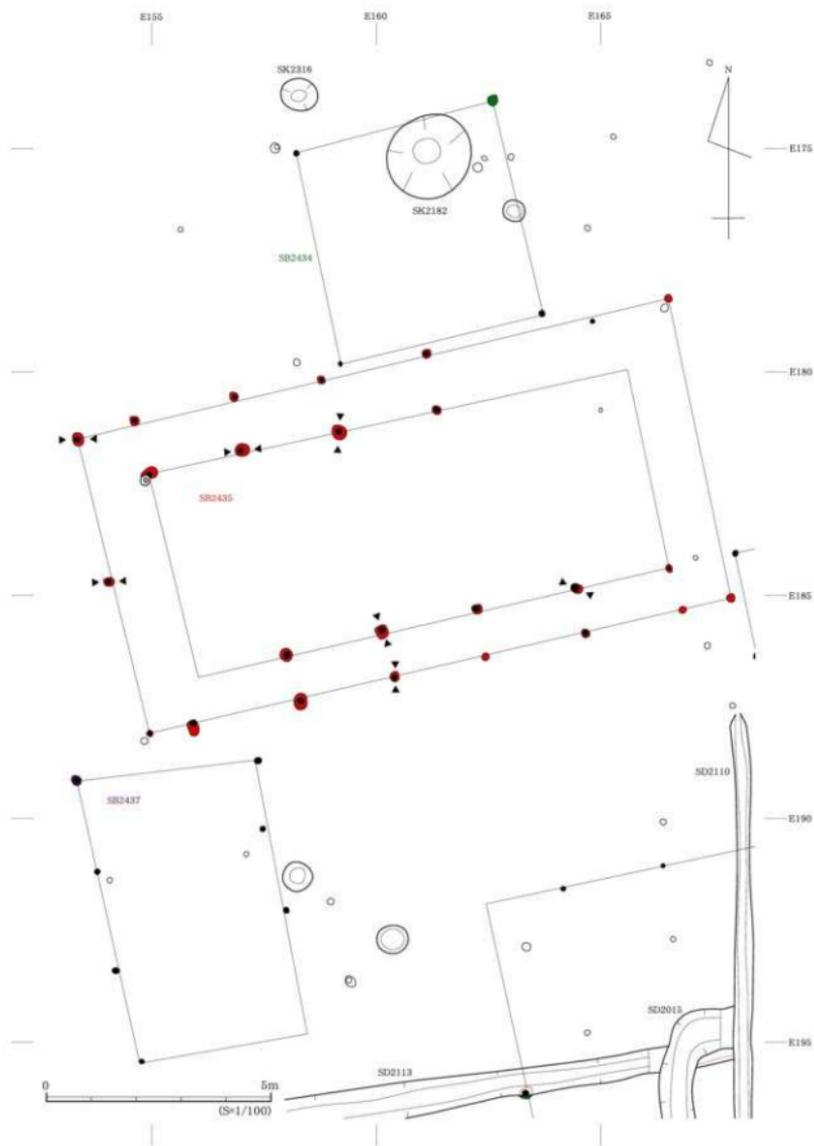
東西5間、南北1間の身舎の4面に廂もしくは縁を持つ東西棟建物跡である。柱穴は身舎で9個、廂(または縁)で16個検出しており、身舎の8ヶ所、廂(または縁)の11ヶ所で径10~18cmの柱痕跡、身舎の1ヶ所で柱抜取穴を確認した。身舎の規模は桁行きが南側柱列で総長11.3m、柱間寸法は西から2.5m・2.2m・2.1m・2.3m・2.2mで、廂(または縁)の出は西が1.0m、東が1.1mである。梁行きは西妻で4.6m、廂(または縁)の出は北が1.2m、南が1.0mとみられる。方向は南入側柱列で測るとE-13°-Nである。柱穴は身舎、廂(または縁)とも径35cm前後の円形で、深さは10~30cmある。埋土は黒褐色シルトである。

【SB2438建物跡】(図版167・168)

東西3間、南北1間の身舎の2面(北・西)に縁(または廂)を持つ東西棟建物跡である。柱穴は身舎で8個、縁(または廂)で4個検出しており、身舎の5ヶ所、縁(または廂)の1ヶ所で径9~16cmの柱痕跡を確認した。身舎の規模は桁行きが南側柱列で総長6.6m、柱間寸法は東から1.9m・3.1m・1.6mで、廂の出は1.2mある。梁行きは西入側柱列で4.2mあり、廂の出は0.9mである。方向は南側柱列で測るとE-10°-Nである。柱穴は身舎が径20~30cmの円形、縁(または廂)は径20cmの円形で、深さは40cm前後ある。埋土は地山ブロックを含む黒褐色シルトである。柱穴埋土から釘(図版171-7)が出土している。

【SB2440建物跡】(図版169)

東西4間、南北2間とみられる東西棟建物跡である。SD2113溝跡より古い。柱穴は10個検出しており、6ヶ所で径9~12cmの柱痕跡、1ヶ所で柱抜取穴を確認した。平面規模は桁行きが南側柱列で総長9.4m、柱間寸法は西から2.3m・2.4m・2.3m・2.6m、梁行きは西妻で総長7.9m、柱間は北か



圖版164 SB2434 · 2435 · 2437建物跡



図版165 SB2433・2436・2438・2439建物跡（西から）



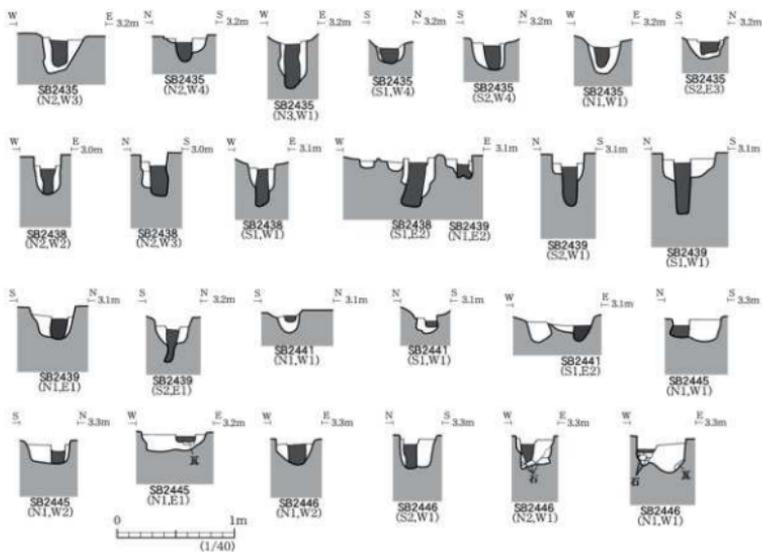
図版166 SB2434～2437建物跡（北から）

ら4.2m・3.7mとみられる。方向は南側柱列で測るとE-14°-Nである。柱穴は径20～30cmの円形で、深さは25cm前後ある。埋土は黒褐色シルトである。南東隅柱抜取穴底面から手づくねかわかけ皿が出土している（図版171-1）。

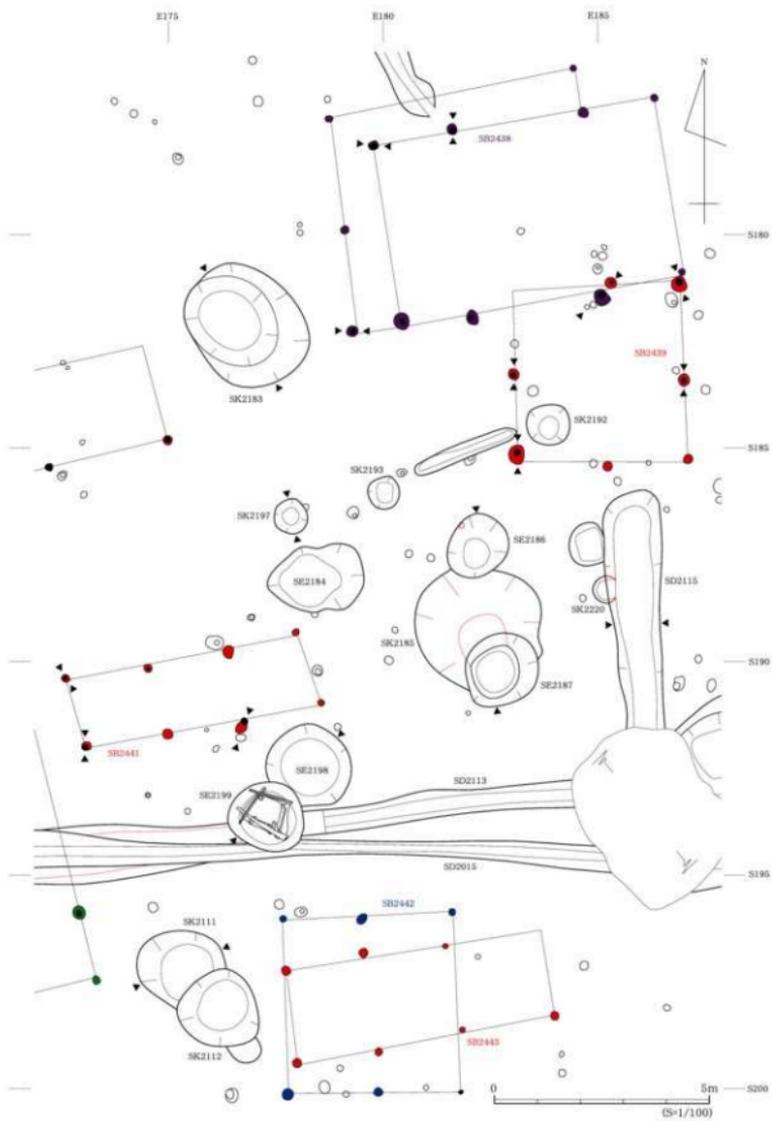
（v）南東部の建物跡

【SB2445建物跡】（図版167・170）

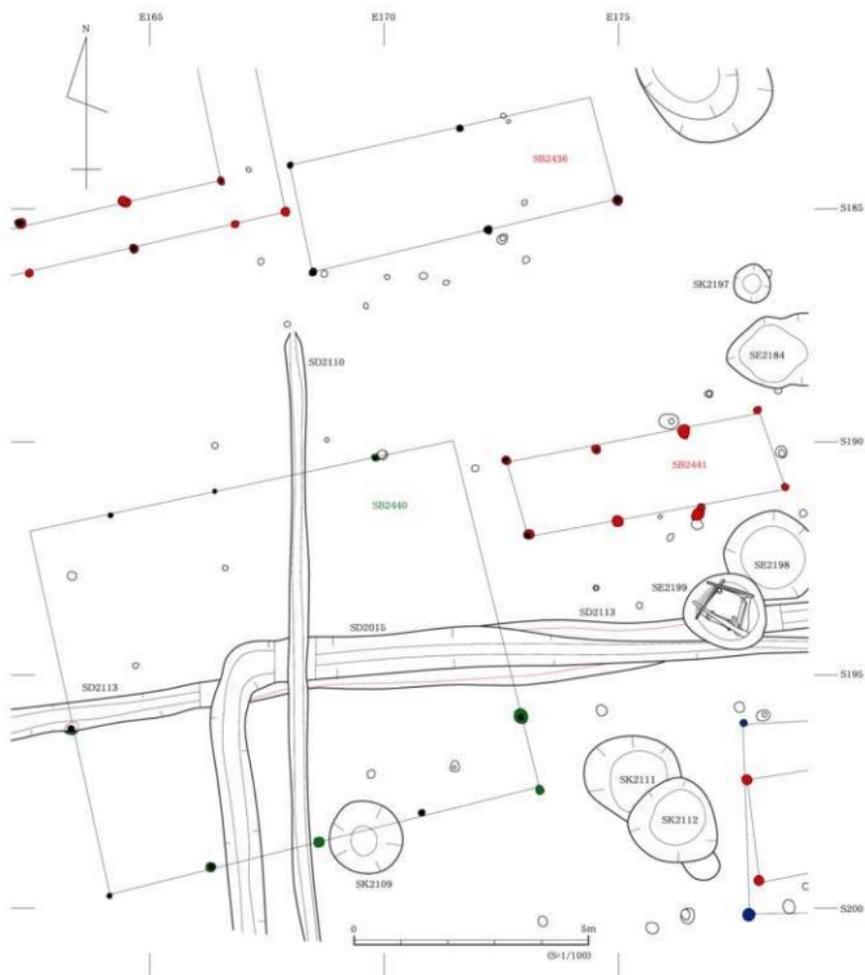
東西4間、南北2間とみられる東西棟建物跡である。SB2446建物跡より古い。柱穴は7個検出しており、5ヶ所で径10～17cmの柱痕跡を確認した。平面規模は桁行きが北側柱列で総長4.9m、柱間寸法は西から1.3m・1.2m・1.3m・1.1m、梁行きは西妻で総長3.6m、柱間は南から1.2m・2.4m（2間分）とみられる。方向は北側柱列で測るとE-5°-Nである。柱穴は径30～45cmの円形もしくは



図版167 SB2435~2446建物跡柱穴断面



圖版 168 SB2438・2439・2441~2443建物跡

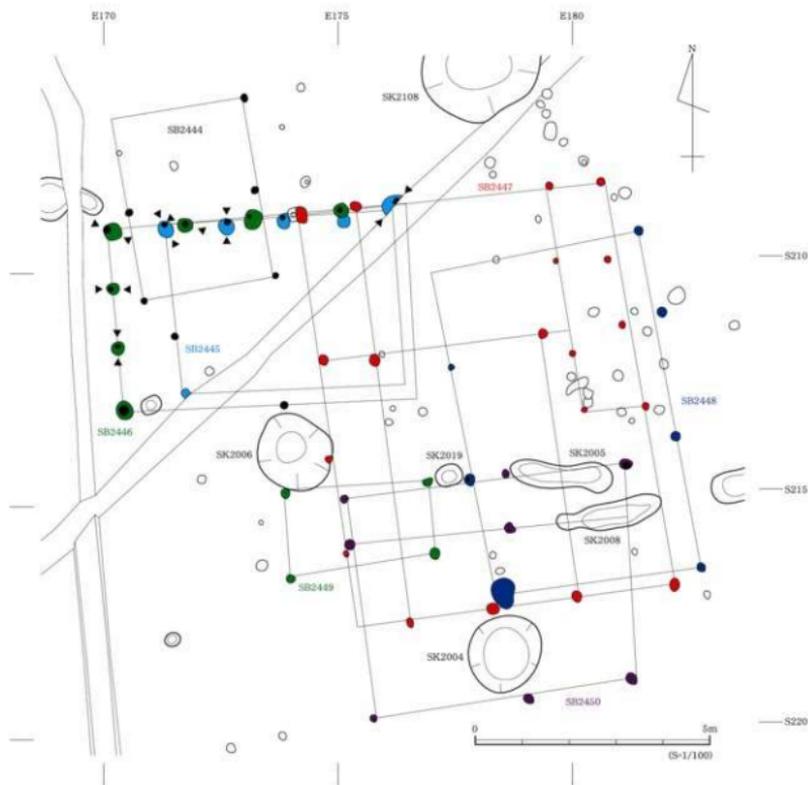


図版169 SB2436・2440・2441建物跡

は楕円形で、深さは25cm前後ある。埋土は黒褐色シルトである。柱穴埋土から釘(図版171-6)や近世以降の瓦が出土している。

【SB2446建物跡】 (図版167・170)

東西4間、南北3間とみられる東西棟建物跡である。柱穴は8個検出しており、すべてで径10~1

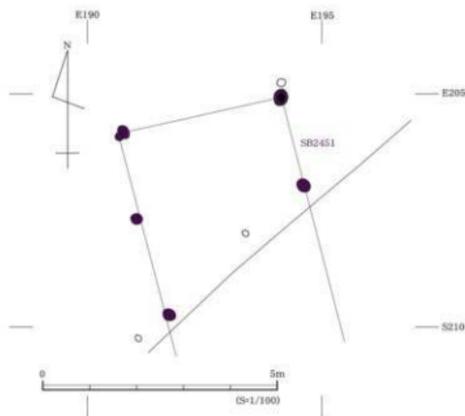


図版 170 SB2444~2450建物跡



No.	出土遺構・層位	種別	取種	特徴	数量	登録
1	SB2440 (S1・E1)	手づねわらわらけ	皿	口径12.0 器高2.7 残存1/4		04531
2	SB2429 (S1・W1)	土師質土器	灯明皿	口径8.0 底径5.1 器高2.0 残存1/3 底部に凸部		04526
3	SB2417 (S2・W1)	白磁	小椀			04530
4	SB2429 (N1・E2)	青磁	椀?			04529
5	SB2418 (S1・E2)	瀬灰土	牛七(狭い口)	高3.6 口径0.8~0.4		04527
6	SB2445 (N1・E1)	鉄製品	釘			04524
7	SB2438 (S1・W2)	鉄製品	釘	高5.4 幅0.3 厚0.3		04525
8	SB2412 (N1・W4)	鉄片				04528

図版 171 D区建物跡出土遺物



図版172 SB2451建物跡

5cmの柱痕跡を確認した。また、西妻の北隅とその南の柱は、拳大の石を積めたのち据えられていた。平面規模は桁行きが北側柱列で総長6.8m、柱間寸法は西から1.7m・1.4m・1.9m・1.8m、梁行きは西妻で総長3.9m、柱間は北から1.3m・1.2m・1.4mとみられる。方向は北側柱列で測ると $E-5^{\circ}-N$ である。柱穴は径30~40cmの円形もしくは隅丸方形で、深さは20~30cmある。埋土は褐色シルトである。柱穴埋土から近世以降の瓦が出土している。

【SB2447建物跡】 (図版170)

東西4間、南北5間の南北棟建物跡である。柱穴は側と内部で19個検出した。平面規模は桁行きが東側柱列で総長8.7m、柱間寸法は北から1.7m・1.4m・1.8m・3.8m(2間分)、梁行きは南妻で総長5.7m、柱間は西から1.8m・1.7m・2.1mとみられる。方向は東側柱列で測ると $N-10^{\circ}-W$ である。柱穴は径15~35cmの円形で、深さは20cm前後ある。埋土は黒褐色もしくは灰黄褐色シルトである。

【SB2450建物跡】 (図版170)

東西2間、南北1間の身舎の北側に縁もしくは廂を持つ東西棟建物跡である。柱穴は身舎で5個、縁(または廂)で3個検出しており、1ヶ所で径15cmの柱痕跡を確認した。身舎の規模は桁行きが北側柱列で総長6.1m、柱間寸法は西から3.5m・2.6m、梁行きは西妻で3.7mあり、縁(または廂)の出は1.0mである。方向は南側柱列で測ると $E-7^{\circ}-N$ である。柱穴は身舎、縁(または廂)とも径15~20cmの円形で、深さは20cm前後ある。埋土は灰黄褐色シルトである。

b. 井戸跡

井戸跡は45基確認した。分布をみると、SD2150溝跡北側からSD2301区画溝跡南側の北部(30基)に集中しており、他は北東端の1基を除くと中央部東側から南部に散在する。45基のうち、枠を有するのは6基(SE2105・2162・2199・2204・2218・2277)のみで、他は素掘りである。また、前者のうち2基は枠がすべて抜き取られていたため、その詳細は不明である。したがって、枠が残っていたSE2105・2162・2199・2204井戸跡については個別に、他は一括して概要を述べることにし、個々のデータは、第8表にまとめた。

調査区	建物名称	建物階数	棟	平面面積				建物の方向		柱間隔	柱方格	備考	尺貫				
				前行(長さ(m))	後行(長さ(m))	柱間寸法(m)	柱間寸法(m)	角度(前側比列)	角度(後側比列)								
DK	SK2010	2	1	東西	4.6	北	2.2×2.4	4.0	西	4.0	E-N	北	10~14	35~45	円形	平:147	
DK	SK2011	3	1	南北	6.3	東	2.1×3.1	3.6	南	3.6	N-W	東	10~14	45~65	隅丸方形、楕円形	平:151 断:150	
DK	SK2012	4	2	東西	7.7	北	1.9×1.7+1.9×2.3	7.1	東	4.0×3.1	E-N	北	10~15	30~35	隅丸方形、楕円形	内部柱あり、3面に張り出しあり(西面:東西1間、南北1間)、南面(東西2間、南北2間)、北面(東西1間、南北1間+東西1間、南北1間)、 壁土) 陶磁版	平:148 断:150
DK	SK2013	3	1+1	東西	5.3	南入	1.9×3.5(2階分)	5.1	西	3.2×1.9	E-W	南入	10	30~40	円形、隅丸方形	南面に廊下は柱が付く	平:151 断:100
DK	SK2014	2	2	-	5.6	南	3.6×2.2	5.5	西	1.9×3.6	N-W	西	10~28	40~80	円形、隅丸方形		平:151 断:150
DK	SK2015	2	1	東西	5.0	南	2.5×2.5	4.4	東	4.0	E-W	南	13	25~30	円形、隅丸方形		平:152 断:153
DK	SK2016	3	1+1	東西	6.1	北	2.5×1.6×2.0	2.0	東	1.6×0.8	E-W	北	15	30~75	楕円形	南面に廊下は柱が付く	平:148
DK	SK2017	4	2	東西	0.9	北	(1.0)×1.6×2.5+1.9	4.7	東	2.7×2.0	E-N	北	10~20	40~50	隅丸形、円形	倉庫内部に柱あり、南面に東西2階、南1階の張り出しあり、 壁土) 近世書院	平:132 断:153
DK	SK2018	3	1	東西	5.7	南	1.6×1.9×2.2	4.8	西	4.8	E-N	南	10~20	40~50	隅丸形、隅丸方形		平:154 断:153
DK	SK2019	2	2+1	東西	7.9	南入	3.5×4.4	6.2	西	1.6×2.3×2.1	E-W	南	10~15	20~50	円形	南面に廊下は柱が付く	平:154 断:153
DK	SK2020	4	1	東西	7.4	北	1.8+1.9+3.8(2階分)	3.9	東	3.9	E-N	北	10~15	30~40	楕円形		平:154 断:153
DK	SK2021	3	2	南北	4.2	西	(1.3)×1.8+1.1	2.6	南	1.5×1.3	E-W	南	10	15~25	円形、楕円形		平:156 断:157
DK	SK2022	3	1	南北	5.6	南	1.8×1.9+1.9	3.4	北	3.4	N-W	南	10~15	30~45	円形、隅丸方形		平:156 断:157
DK	SK2023	3	1	南北	5.7	西	3.7	3.4	北	3.4	N-W	西	15~20	35~50	楕円形		平:156 断:157
DK	SK2024	4	1	東西	12.2	南	3.0+1.8+0+3.1	3.9	東	3.9	E-N	南	10~15	30~40	隅丸形、隅丸方形	南面に東西1間、南北1間の張り出しあり	平:158 断:157
DK	SK2025	4	3	東西	7.4	南	1.9+1.8×2.7	4.2	東	4.3	E-N	南	10~18	20~75	楕円形		平:158 断:157
DK	SK2026	4	3	東西	7.8	南	2.2×2.1+1.7+1.8	4.0	西	1.3+1.8+0.9	E-N	南	9~18	20~40	楕円形	内部柱あり	平:158 断:157
DK	SK2027	3	2+1	南北	6.7	西	2.1×2.2×3	4.1	南	0.7×2.0+1.7	N-W	西	10~16	30~50	円形、楕円形	南面に廊下は柱が付く、東面に東西1間、南北1間の張り出しあり、	平:158 断:157
DK	SK2028	4	2	東西	7.1	南	1.5+1.9+1.9+1.8	3.6	西	1.8×1.8	E-W	南	9~20	20~40	隅丸方形		平:161
DK	SK2029	4	3	南北	6.7	西	1.9+1.9+1.9+1.0	3.9	北	1.9×2.0+1.9	N-W	西	9~18	25~40	円形、楕円形	内部柱あり 南西側縁取り 土質質土留石積み	平:160 断:161
DK	SK2030	2	1+1	東西	6.7	北	3.7×3.0	4.6	西	3.9×0.7	E-N	北	7~16	20~35	楕円形、隅丸方形	南面に廊下は柱が付く、南面に東西1間、南北1間の張り出しあり	平:160 断:161
DK	SK2031	3	2	南北	5.1	西	1.7+1.8+1.7	3.5	南	1.1×2.3	N-W	西	10~15	25~45	円形		平:160 断:161
DK	SK2032	3	1	南北	5.6	西	1.2×2.5+1.9	2.9	南	2.9	N-W	西	11~18	25~50	隅丸方形		平:160 断:161
DK	SK2033	1	2	南北	4.9	西	4.9	4.3	南	2.2×2.1	N-W	西	10~15	20~30	方形、円形	東面に東西2間、南北1間の張り出しあり	平:163
DK	SK2034	1	1	-	4.8	西	4.8	4.8	南	4.8	N-W	西	15	20~25	円形		平:164
DK	SK2035	5+1+1	1+1	東西	13.3	南	1.8×2.5+2.2×2.1+2.3×2.2+1.1	6.8	東	1.2×4.5+1.2	E-W	南	10~18	30~35	円形	建物4面に廊下は柱が付く	平:164 断:167
DK	SK2036	2	1	東西	6.6	南	3.8×2.8	2.3	西	2.3	E-W	南	14~18	20	円形		平:169
DK	SK2037	3	1	南北	6.4	西	2.1×2.3×2.1	4.0	北	4.0	N-W	西	15	25	円形		平:164
DK	SK2038	3	1	東西	6.6	南	1.6×1.1+1.9	4.2	西	4.2	E-W	南	9~16	20~30	円形、楕円形	北西面に土間に張り出しあり	平:168 断:167
DK	SK2039	2	2	-	4.1	東	2.3×1.8	3.9	南	2.1×1.9	N-W	東	10~16	20~45	円形		平:168 断:167
DK	SK2040	4	2	東西	9.4	南	2.5×2.4+2.3×2.6	7.8	西	(4.2)×3.7	E-W	南	9~12	20~30	楕円形	E1・S1柱縁取り 手づねのり付	平:169
DK	SK2041	3	1	東西	5.5	北	2.0+1.9+1.6	1.7	西	1.7	E-W	北	9~15	20~25	円形		平:168 断:167
DK	SK2042	1	2	南北	4.1	西	4.1	3.9	北	1.9×2.1	E-N	北	10	20~25	楕円形		平:168
DK	SK2043	3	1	東西	6.1	南	1.9×2.0×2.2	2.2	西	2.2	E-W	南	10~20		円形		平:168
DK	SK2044	2	1	南北	3.9	東	2.0×1.8	2.8	南	2.8	N-W	東	15~20		円形		平:170
DK	SK2045	4	2	東西	4.9	北	1.2×1.2+1.1	3.6	西	2.4×2.1	E-N	北	10~17	30~45	楕円形	壁土) 近世瓦	平:170 断:167
DK	SK2046	(0)	3	東西	5.9	北	1.7+1.4+1.9	3.9	南	1.3+1.2+1.4	E-N	北	11~15	30~40	隅丸形、隅丸方形	壁土) 近世瓦	平:170 断:167
DK	SK2047	3	4	南北	8.7	東	1.7+1.4+1.8+3.8(2階分)	6.8	南	(1.1)×1.8+1.7×2.1	N-W	東	15~35		円形	内部柱あり	平:170
DK	SK2048	3	1	南北	7.3	東	1.8×0.9+2.9	4.4	南	4.4	N-W	東	9	15~20	円形		平:170
DK	SK2049	1	1	東西	3.0	北	3.0	1.8	西	1.8	E-N	北	15	20	円形		平:170
DK	SK2050	2	1+1	東西	6.0	北	3.5×2.6	4.8	西	1.0×3.7	E-N	北	15	15	円形	北面に廊下は柱が付く	平:170
DK	SK2051	2~	1	南北	4.1~	西	1.9×2.2	3.5	北	3.5	N-W	西	15	30	円形	南に調査区外	平:172

※ ()内の数値は推定値
 ※ 建物階数の欄で「1+1」とあるのは、「倉庫2階、廊下は柱1階」であることを示す。
 ※ 柱間寸法は、東西方向のものは西から、南北方向のものは北から順に記載した。
 ※ 柱間寸法のゴシック体数字は廊下は柱の柱間寸法を示す。

第7表 D区建物跡属性表

(i) 井戸側を有するもの

【S E2105井戸跡】 (図版173)

D区南西部で確認した板材を縦に組んで側とした井戸跡である。掘方の平面形は確認面で2.4×2.2mの円形、底面では一辺1.6～1.7mの方形で、深さは1.1mある。断面形は逆台形で、東壁に井戸構築時の作業に伴う段が設けられている。また、側の下となる底面中央は、一段下がり水溜めとなる。水溜は一辺0.9mの方形で、深さが0.4mほどである。

枠の内法は一辺90cmで、縦板を一辺に3～4枚並べて側としている。隅柱は側の内側にあり、それに組み込んだ横棧で側を保持している。隅柱の外側で側の縦板が接する部分は、幅15cmほどの縦板を斜めに充填している。横棧は2段確認でき、両者の間隔は0.4～0.5mである。横棧と隅柱はほぞで組まれており、必要に応じて楔が使用された。側板は幅が15～40cm、厚さ3cmほどである。隅柱は一辺が10～12cmの角材を使用しており、残りの良いものは高さが90cmある。ほぞ穴は一辺4～9cmの方形である。横棧は一辺6～10cmの角材であり、仕口は包込ほぞに仕上げている。

堆積土は枠内堆積土(1～6)、掘方埋土(7・8)に分けられる。遺物は枠内堆積土の6層からロクロかわらけ、柄杓(図版180-3)、ウマ下顎歯、2枚貝の殻、2層からモモ核が出土している。

【S E2162井戸跡】 (図版174)

D区北西部で確認した板材を横に積み上げて側とした井戸跡である。側は最下段の三辺(東・北・南)を残して抜き取られている。S D2165溝跡より新しく、S E2161井戸跡より古い。掘方の平面形は確認面で径2.3mの円形、底面では一辺1.5mほどの方形で、深さは1.5mある。断面形は箱形である。

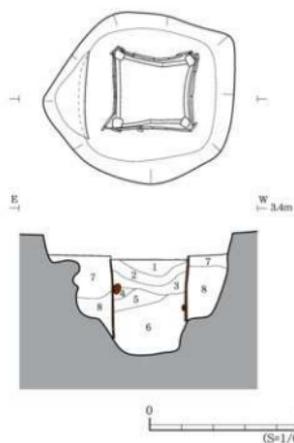
枠の内法は一辺90cmで、板を横に積み上げ、仕口をほぞ組にして保持している。板材は幅40cm、厚さ4cm前後で、目違いほぞで組まれている。東辺の外側では竹と葦を簾状に立て並べ、それを柱に組み込んだ横棧で保持した施設を確認した。地下水の濾過を目的とした装置と考えられる。柱は径10cmほどの心持材を用い80cmの間隔で設置され、横棧は上下26cm前後の間隔で2段確認された。横棧は一辺もしくは径が6cmの角材や心持材で、仕口は柱のほぞ穴(5×2cm)にあわせて包込ほぞに仕上げている。南側の柱は下から90cmのところまで切り取られていた。

堆積土は枠内堆積土(12・13)、枠抜取穴(11)、掘方埋土(14)に分けられる。遺物は枠内堆積土から染付碗、常滑産甕、モモ核、枠抜取穴から陶器碗・鉢、染付碗、モモ核が出土している。

【S E2199井戸跡】 (図版175)

D区南部中央で確認した葦を簾状に組んだ枠をもつ井戸跡である。S E2198井戸跡、S D2113溝跡より新しく、S D2015溝跡より古い。掘方の平面形は確認面で1.7×1.5mの円形、深さは1.2mで、断面形は漏斗形である。掘方下部は一辺が0.8～1.1mの不整な方形をしており、その内側に側材である葦を直接立て並べている。側は底面に打ち込まれた縦材に内外を支えられた横棧で保持している。横棧は1段確認できた。横棧は一辺が5～15cmの割材を使用しており、長さは100～140cmある。また、それを支えた縦材も一辺が5～10cmの割材を使用していた。

堆積土は枠内堆積土(7～9)、枠抜取穴(5・6)に分けられ、枠が抜かれたのち埋戻されている。



断面写真（北から）



井戸側検出状況（東から）

No.	土色・土性	取人物など	備 考
1	灰褐色 (10YR4/2) シルト	崖山の礫ブロックを大量に含む	ゆき宮たの人名参照
2	暗褐色 (10YR3/2) シルト	灰褐色礫砂を含む	
3	暗褐色 (10YR3/1) シルト	灰褐色礫砂を含む	井内埋積土
4	暗褐色 (10YR3/1) 粘土質シルト		
5	暗褐色 (10YR3/1) 粘土質シルト	埋積木材を多数に含む	
6	暗褐色 (10YR2/2) 砂質シルト	崖山ブロックを多数に含む	
7	暗褐色 (10YR4/1) シルト	崖山ブロックや礫砂シルトブロックを含む	
8	暗褐色 (10YR3/1) シルト	崖山ブロックや礫砂ブロックを含む	埋方埋土



下段横桟と北西隅柱



上段横桟の仕口（縮尺任意）

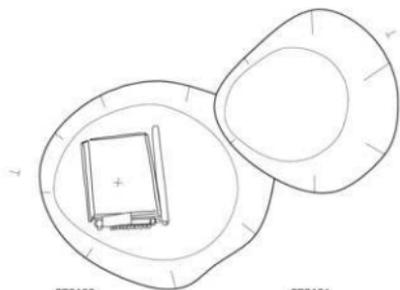


東側板（縮尺任意）

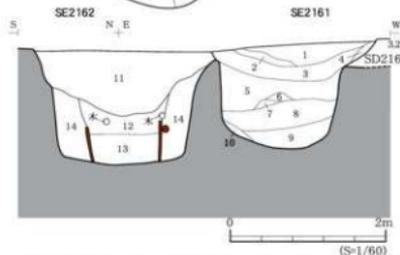


南東隅柱（縮尺任意）

図版173 SE2105井戸跡



SE2162断面写真（東から）



SE2162井戸側検出状況（東から）

No.	土色・土性	取人物など	備考	No.	土色・土性	取人物など	備考
1	黄褐色(0)YR6/1) 粘土質シルト			8	黄褐色(0)YR6/1) 粘土質シルト	掘りかきミナ取に含む	
2	黒山アロップ主体			9	黄褐色(0)YR6/2) 粘土質シルト	掘りかきミナ取に含む	5 E 2161 雑種土
3	黄褐色(0)YR5/1) シルト質粘土			10	黄褐色(0)YR5/1) シルト質粘土	掘りかきミナ取に含む	
4	黄褐色(0)YR5/1) シルト質粘土	掘りかきミナ取に含む	5 E 2161 雑種土	11	黄褐色(0)YR5/2) シルト質粘土	掘りかきミナ取に含む	砂漏取穴
5	黄褐色(0)YR6/2) シルト	掘りかきミナ取に含む		12	黄褐色(0)YR5/2) シルト質粘土	掘りかきミナ取に含む	5 E 2162 雑種土
6	黄褐色(0)YR5/1) 粘土質シルト			13	黄褐色(0)YR5/1) シルト質粘土	掘りかきミナ取に含む	砂内雑種土
7	黄褐色(0)YR5/1) 粘土質シルト			14	黄褐色(0)YR5/2) シルト質粘土	掘りかきミナ取に含む	掘りかき



SE2162南側板 (S=1/8)



SE2162東側板 (S=1/8)



SE2162南東隅柱 (S=1/8)

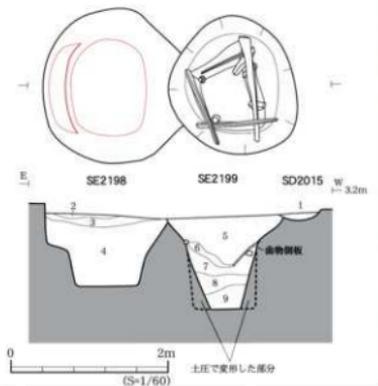


SE2162北東隅柱ほぞ穴 (縮尺任意)



SE2162北東隅柱ほぞ穴 (縮尺任意)

図版174 SE2161・2162井戸跡



No.	土色・土性	掘人物など	備考
1	黒褐色(1)FVK2)シルト	奥山ブロッコを含む	SD2015 横積土
2	黒褐色(1)FVK2)シルト	奥山ブロッコ・炭化物・灰を含む	
3	黒褐色(1)FVK2)シルト	灰を少し含む	SE2199 横積土
4	黒色(1)FVK2)シルト	奥山ブロッコを多量に含む	土漏れ層
5	黒褐色(1)FVK2)粘土層シルト	奥山ブロッコや炭化物を含む	
6	黒褐色(1)FVK2)粘土層シルト	奥山ブロッコを含む	
7	黒褐色(1)FVK2)粘土層シルト	奥山ブロッコを多量に含む	SE2199 横積土
8	黒球層ブロッコ主層	黒褐色粘土を含む	
9	黒色(1)FVK2)粘土	奥山ブロッコを含む	



井戸側内部完壁写真(北西から)



井戸側内部完壁写真(南から)



断面写真(北から)



北西コーナー付近の側板

図版175 SE2198・2199井戸跡

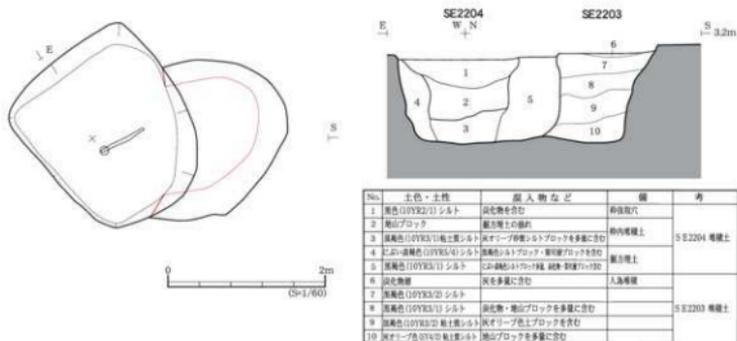
る。遺物は枠抜取穴から曲物、枠内堆積土から常滑産片口鉢が出土している。

【SE2204井戸跡】(図版176)

D区南東部で確認した木組の井戸跡である。側はすべて抜き取られ、北西の隅柱1本と横棧2本が残っていた。SE2203井戸跡より新しい。掘方の平面形は確認面で2.5×2.0mの隅丸方形、底面では一辺1.5×2.0mほどの南西の角が取れた方形で、深さは1.1mある。断面形は箱である。

隅柱は径8cmの心持材で、高さは70cm、ほぞ穴は3×5cm以上である。横棧は径5~6cmの心持材で長さは85cmと95cm、仕口は包込ほぞ状に仕上げている。したがって、側の内法は一辺65~75cmほどで、井戸は板材を縦に組み、それを隅柱に組み込んだ横棧で保持した構造とみられる。

堆積土は枠内堆積土(3)、枠抜取穴(1・2)、掘方埋土(4・5)に分けられる。遺物は枠内



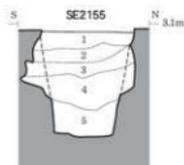
図版176 SE2203・2204井戸跡

堆積土から曲物（図版182-8）、杵抜取穴から龍泉窯系青磁鎗蓮弁文椀（図版182-3）、砥石（図版182-6）が出土している。

（ii）素掘りのもの（図版174～179）

39基検出した。平面形は確認面で楕円形が13基のほかは、円形もしくは円形とみられるが、下部の平面形は1基（SE2361）を除いて円形である。断面形は漏斗形が17基、箱形16基、逆台形が6基認められる。規模は確認面の径が0.9～3.0m、下部径0.4～1.6m、深さは0.7～2.0mあるが、下部径、深さも0.7～1.4mのものが多い（23基）。堆積土は、下部が壁の崩落土を含む自然堆積土で、上部は人為堆積のものと自然堆積のものが認められる。前者は人為的に埋戻されたものであり、後者は開口したまま埋まったことを示す。後者の場合、上部が埋没する過程で、遺物や炭化物、焼土、灰からなる廃棄層が認められる場合がある（SE2203・2219）。

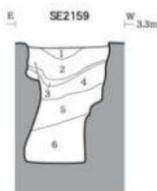
遺物は底面からのものはなく、堆積土から出土している（図版180～184）。SE2011堆積土から須恵系陶器甕や不明鉄製品、SE2013の2層からロクロかわらけや常滑産甕、1層からロクロかわらけ、SE2151堆積土から漳州窯産染付碗、箸（図版180-5）や不明鉄製品、SE2152の5層から不明木製品（図版180-8）、堆積土から鉄釘（図版180-2）、アカニシやハマグリ、SE2154の堆積土から瀬戸美濃産陶器笠原鉢、SE2155の5層や3層から砥石（図版180-6・9）、堆積土から瀬戸美濃産陶器輪壳皿（図版180-1）、箸（図版180-4）、包丁（図版180-7）、SE2159の5層から漆椀（図版181-3）や砥石（図版181-8）、堆積土から漆椀（図版181-4）や瀬戸美濃産陶器折縁皿（図版181-1）、SE2161の9層から柄杓（図版181-6・7）や木製部材、8～10層から染付碗、陶器皿やキセル（図版181-12）、1～7層から陶器播鉢や染付碗蓋、堆積土から砥石（図版181-10）や不明鉄製品（図版181-13）、SE2167の6層から植物遺体、5・6層から岸産陶器播鉢（図版181-5）、SE2170の2層から染付碗、堆積土から砥石（図版181-9）やモモ核、SE2171の中層から陶器皿や播鉢、堆積土から瀬戸美濃産陶器端反皿（図版181-2）、陶器播鉢・小甕、染付碗や漆椀、SE2172の1層から染付皿、SE2173の6層から銭貨「寛永通寶」（図版181



No.	土色・土性	掘入物など	備考
1	黒褐色(1)PYR&D)シルト		
2	黒褐色(1)PYR&D)シルト		
3	黒褐色(1)PYR&D)シルト	焼山ブロックを多く含む	
4	黒褐色(1)PYR&D)シルト	植物遺体を多数含む	
5	灰黄色(1)PYR&D)シルト	焼山ブロックを含む	



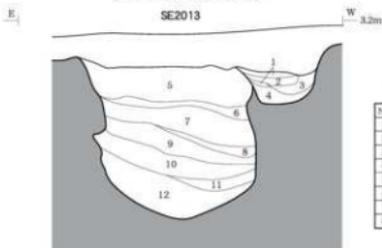
SE2155断面写真(東から)



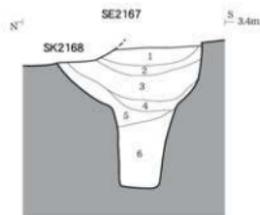
No.	土色・土性	掘入物など	備考
1	灰黄色(1)PYR&D)シルト	黒褐色シルトを含む	
2	黒褐色(1)PYR&D)シルト		
3	灰黄色(1)PYR&D)シルト	植物遺体シルトを含む	
4	黒褐色(1)PYR&D)シルト	焼山・焼土をわずかに含む	
5	黒褐色(1)PYR&D)シルト	焼山・焼土を大量に含む	
6	黒褐色(1)PYR&D)シルト	焼山ブロックを含む	



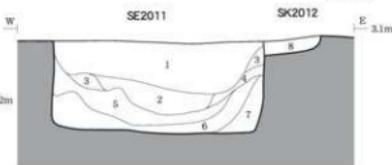
SE2159 5層漆樹出土状況



No.	土色・土性	掘入物など	備考
1	黒褐色(1)PYR&D)シルト		
2	黒褐色(1)PYR&D)シルト		
3	灰黄色(1)PYR&D)シルト		遺尿の可能性有り
4	黒褐色(1)PYR&D)シルト		
5	黒褐色(1)PYR&D)シルト	焼山・焼土を多数含む	
6	黒褐色(1)PYR&D)シルト	焼山・焼土を多数含む	人骨残



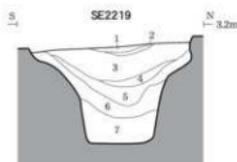
No.	土色・土性	掘入物など	備考
1	黒褐色(1)PYR&D)シルト		
2	黒褐色(1)PYR&D)シルト	焼山ブロックを含む	
3	黒褐色(1)PYR&D)シルト	焼山ブロックを大量に含む	埋積土
4	灰黄色(1)PYR&D)シルト		
5	黒褐色(1)PYR&D)シルト	焼山ブロックを大量に含む	埋積土
6	黒褐色(1)PYR&D)シルト		



No.	土色・土性	掘入物など	備考
1	黒褐色(1)PYR&D)シルト	しまりなく、オサゴサ	
2	黒褐色(1)PYR&D)シルト	しまりなし	
3	灰黄色(1)PYR&D)シルト	しまりややあり	
4	灰黄色(1)PYR&D)シルト	しまりややあり	SK2011 埋積土
5	灰黄色(1)PYR&D)シルト	しまりなし	
6	灰黄色(1)PYR&D)シルト	焼山ブロックをばらばら含む	
7	灰黄色(1)PYR&D)シルト	焼山ブロックをばらばら含む	
8	黒褐色(1)PYR&D)シルト	しまり多、緑色物をばらばら含む	SK2012 埋積土

No.	土色・土性	掘入物など	備考
1	黒褐色(1)PYR&D)シルト		
2	黒褐色(1)PYR&D)シルト		
3	黒褐色(1)PYR&D)シルト		
4	黒褐色(1)PYR&D)シルト		
5	黒褐色(1)PYR&D)シルト	焼山・焼土を多数含む	人骨残
6	黒褐色(1)PYR&D)シルト	焼山・焼土を多数含む	自然埋
7	黒褐色(1)PYR&D)シルト	焼山・焼土を多数含む	
8	黒褐色(1)PYR&D)シルト	焼山・焼土を多数含む	
9	黒褐色(1)PYR&D)シルト		
10	黒褐色(1)PYR&D)シルト	焼山・焼土を多数含む	
11	黒褐色(1)PYR&D)シルト		
12	黒褐色(1)PYR&D)シルト	焼山・焼土を多数含む	

図版177 D区井戸跡(1)



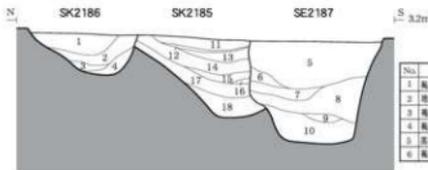
No.	土色・土性	埋入物など	備考
1	黒褐色(0)PYK2/D シルト	炭化物・灰を多量に含む	
2	炭化物・灰を多量		
3	黒褐色(0)PYK2/D シルト	炭化物・灰を多量、焼山ブロックを含む	
4	黒褐色(0)PYK2/D 粘土	炭化物や植物遺体を多量に含む	植物遺体採取(平層1)
5	炭化物・灰層		
6	黒褐色(0)PYK3/D 粘土	焼山大ブロックを含む	
7	焼山ブロック主体	炭化物もを含む	



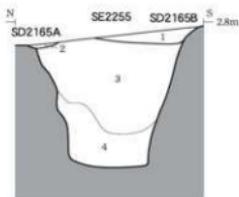
SE2219断面写真(東から)



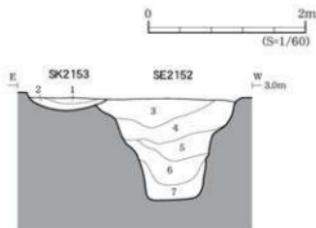
SE2219 6層上面籠織物出土状況



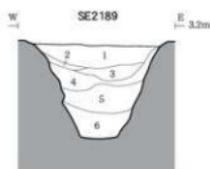
No.	土色・土性	埋入物など	備考
1	黒褐色(0)PYK3/D シルト	焼山ブロック・炭化物を含む	
2	黒褐色(0)PYK2/D シルト		SK2186 焼粘土
3	黒褐色(0)PYK2/D シルト	焼山ブロックを多量に含む	
4	黒褐色(0)PYK3/D シルト	焼山ブロックを多量に含む	
5	黒褐色(0)PYK3/D 粘土上層シルト	炭化物・シルト・焼山ブロックを含む	
6	黒色(0)PYK2/D 粘土		
7	黒褐色(0)PYK3/D 粘土上層シルト		SE2187 焼粘土
8	黒色(0)PYK2/D 粘土	焼山焼きミナ板を含む	
9	炭化物ブロック主体		



No.	土色・土性	埋入物など	備考
1	黒褐色(0)PYK3/D シルト		SD2165B 焼粘土
2	黒褐色(0)PYK3/D 粘土上層シルト	焼山大ブロックを含む	SD2165A 焼粘土
3	黒褐色(0)PYK3/D シルト	焼山ブロックを多量に含む	SE2255 焼粘土
4	黒褐色(0)PYK3/D シルト	網印を含む	



No.	土色・土性	埋入物など	備考
1	黒褐色(0)PYK3/D シルト	炭化物を含む	SK2153 焼粘土
2	黒褐色(0)PYK3/D シルト	炭化物を含む	
3	黒褐色(0)PYK3/D シルト		
4	黒褐色(0)PYK3/D 砂質シルト	焼山ブロックを大量に含む	
5	黒褐色(0)PYK4/D 粘土上層シルト	焼山大ブロックを含む	SE2152 焼粘土
6	焼山ブロック主体	炭化物土ブロックを含む	
7	黒褐色(0)PYK3/D 砂質シルト		

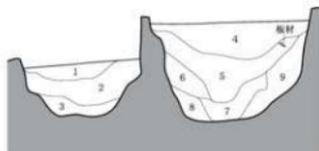


No.	土色・土性	埋入物など	備考
1	黒褐色(0)PYK3/D シルト	炭化物・焼山ブロックを含む	
2	焼山ブロック主体		
3	黒褐色(0)PYK4/D シルト	炭化物を含む	
4	黒褐色(0)PYK4/D シルト	焼山焼きミナ板に、炭化物を含む	
5	黒褐色(0)PYK3/D シルト		
6	黒褐色(0)PYK4/D シルト	炭アレーブルシルトを多量に含む	

No.	土色・土性	埋入物など	備考
10	黒褐色(0)PYK3/D 粘土		SE2187 焼粘土
11	炭化物層	炭化物・灰を含む	
12	灰層	炭化物を含む	
13	炭化物層		人遺物層
14	黒褐色(0)PYK4/D 粘土	焼山焼きミナ板を含む	
15	炭化物層		
16	黒褐色(0)PYK4/D 粘土		SK2185 焼粘土
17	黒褐色(0)PYK3/D 粘土	焼山焼きミナ板を含む	
18	炭化物層	黒褐色粘土を多量に含む	

図版178 D区井戸跡(2)

S SE2286 SE2283 N 3.0m



SE2283 1層遺構下駄・銭出土状況

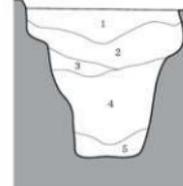
No.	土色・土性	埋人物など	備考
1	黒褐色 (G)Y3/2 シルト	遺山ブロックを含む	
2	黒褐色 (G)Y3/2 シルト	遺山ブロックを含む	SE2288 権様土
3	オリーブ褐色 (G)Y3/2 シルト	遺山ブロックを多量に含む	
4	黒褐色 (G)Y3/2 シルト	遺山ブロックを含む	
5	黒褐色 (G)Y3/2 シルト	遺山ブロックをやや多く含む	
6	灰黒褐色 (G)Y3/4/2 シルト	遺山大ブロックを多量に含む	
7	黒褐色 (G)Y3/4/1 シルト	遺山大ブロックをやや多く含む	SE2283 権様土
8	黒褐色 (G)Y3/2 シルト	遺山ブロックを含む	
9	黒褐色 (G)Y3/2 砂質シルト	遺山ブロックを含む	

N SE2279 SK2278 S 3.1m



No.	土色・土性	埋人物など	備考
1	黒褐色 (G)Y3/2/2 シルト	遺山ブロック・灰・炭化物を含む	
2	黒褐色 (G)Y3/2/1 シルト	遺山ブロックを含む	
3	黒褐色 (G)Y3/2/1 粘土質シルト	遺山ブロックを含む	SE2279 権様土
4	黒褐色 (G)Y3/1/1 粘土質シルト		
5	灰褐色 (G)Y3/4/1 粘土質シルト		
6	黒褐色 (G)Y3/2/2 シルト		
7	黒褐色 (G)Y3/2/1 シルト	遺山ブロックを多量に含む	SK2278 権様土

S SE2275 N 3.1m



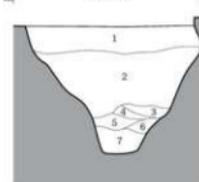
No.	土色・土性	埋人物など	備考
1	灰黒褐色 (G)Y3/4/1 シルト	遺山ブロックを多量に含む	人骨発見
2	灰黒褐色 (G)Y3/4/2 シルト	遺山大ブロックを多量に含む	
3	黒褐色 (G)Y3/2 シルト	遺山ブロックを含む	
4	黒褐色 (G)Y3/1 シルト	遺山大ブロックを含む	
5	オリーブ褐色 (G)Y3/2 粘土質シルト		



SE2279断面写真 (西から)

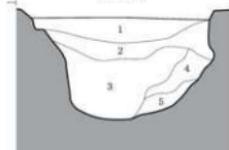
0 2m (CS=1/60)

N SE2273 S 3.1m



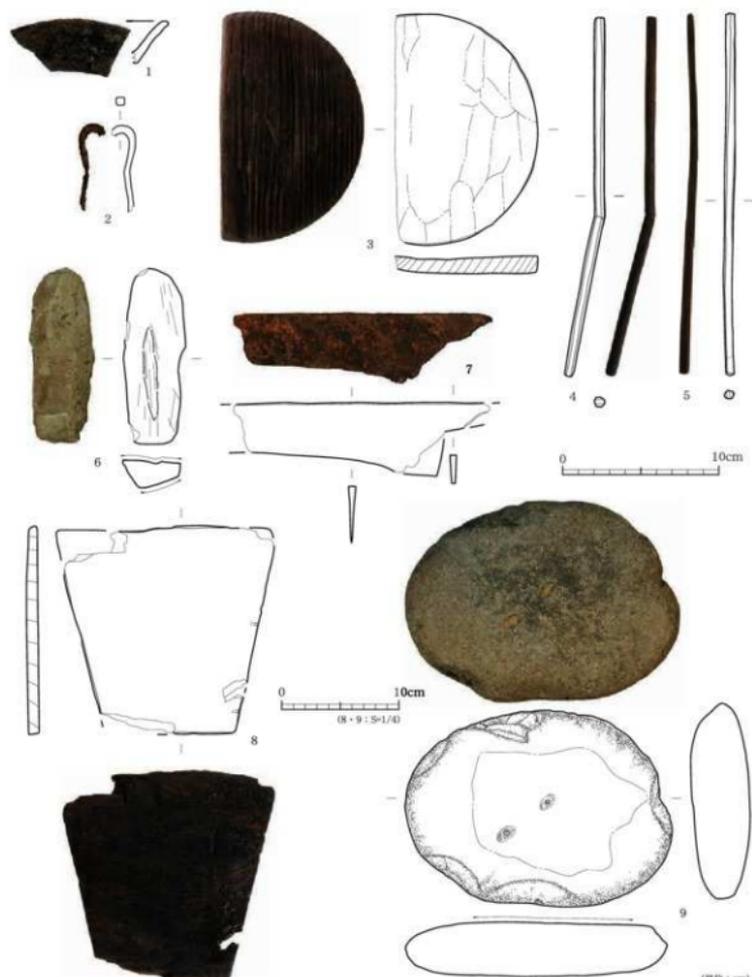
No.	土色・土性	埋人物など	備考
1	灰褐色 (G)Y3/4/1 シルト		
2	黒褐色 (G)Y3/2 シルト	遺山ブロックを多量に含む	人骨発見
3	灰黒褐色 (G)Y3/4/2 シルト	遺山粘土を少し含む	
4	黒褐色 (G)Y3/1/1 粘土質シルト		
5	灰黒褐色 (G)Y3/4/2 シルト		
6	黒褐色 (G)Y3/2/1 粘土質シルト		
7	黒褐色 (G)Y3/2/1 粘土質シルト		

N SE2277 S 3.0m



No.	土色・土性	埋人物など	備考
1	黒褐色 (G)Y3/2/2 シルト		
2	黒褐色 (G)Y3/2/1 シルト	遺山を少し含む	
3	黒褐色 (G)Y3/1/1 シルト	遺山を少し含む	
4	灰オリーブ色 (G)Y4/2 シルト		砂質様土
5	黒褐色 (G)Y3/4/1 粘土	遺山を少し含む	

図版179 D区井戸跡 (3)



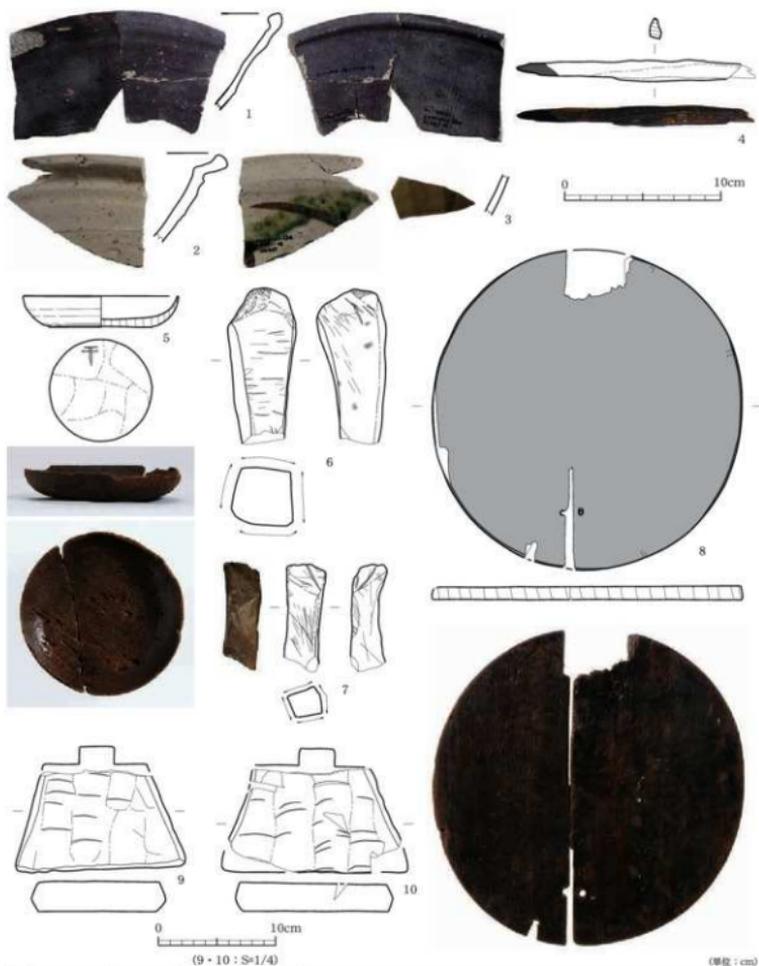
No.	出土層・層位	種別	原料	産地	特徴	登録番号
1	SR2155 堆積土	陶器	輪切土	瀬戸系土	外面に鉛筆状付着物 【17:300半厚】	04287
2	SR2152 堆積土	鉄製品	釘		長(5.5) 幅(0.5) 厚(0.5)	04282
3	SR2105 6層	木製品	曲物板		残存長14.9 幅(0.2) 厚1.1 加工痕跡、ケヤキ痕(炭化)も残る	04069
4	SR2155 堆積土	木製品	箸		長(28.1) 幅(0.7) 厚(0.6) 完整だが、折れのため変型	04072
5	SR2151 堆積土	木製品	箸		長(23.2) 幅(0.6) 厚(0.6)	04071
6	SR2155 3層	石製品	砥石		長(11.3) 幅(3.6) 厚(1.7)	04286
7	SR2155 堆積土	鉄製品	短刀		刀身：長(13.6) 幅(4.5) 厚(0.4) 茎：長(2.0) 幅(1.8) 厚(0.4)	04289
8	SR2152 5層	木製品	不明木製品		長(18.6) 幅(18.0) 厚(1.0) 目釘穴3方向(内1方向は不明瞭)が側面に認められる	04073
9	SR2155 6層	石製品	砥石		長(16.6) 幅(21.8) 厚(4.6)	04285

図版180 D区井戸跡出土遺物(1)



No.	出土遺物・部位	種別	原産地	特徴	備	登録
1	SE2159 埴輪土	陶器	唐戸美濃	口径14.0 高台径6.3 器高3.4 残存:1/3 内部底面に印花【17c204半型】		04284
2	SE2171 埴輪土	陶器	唐戸美濃	口径12.6 高台径5.6 器高2.9 残存:一部 内外全体に炭化物付着【17c309半型】		04295
3	SE2159 6瓣	漆器	陶	口径12.4 残存高:8.0 残存9/10 内外面:赤色漆塗り 底面:黒色漆塗り→赤色漆塗り「吉」		04075
4	SE2159 埴輪土	漆器	陶	口径11.7 残存高7.8 残存:2/5 内外底面:黒色漆塗り		04074
5	SE2167 5×6 6瓣	漆器	唐戸	約圧縮		04293
6	SE2161 9瓣	木製品		残存長13.8 幅4.3 厚1.3 側面に加工痕。針釘穴1カ所		04077
7	SE2161 9瓣	木製品		長8.0 幅3.1 厚2.3		04076
8	SE2159 6瓣	石製品	砥石	長(11.6) 幅(4.1) 厚(1.5)		04283
9	SE2170 埴輪土	石製品	砥石	長(11.6) 幅(4.9) 厚(3.2)		04294
10	SE2161 9瓣	石製品	砥石	長(5.2) 幅(1.9) 厚(0.25)		04291
11	SE2173 6瓣	鉄製品	銭貨	「寛永通寶」(初鋳1636年)		04297
12	SE2161 8~10瓣	鉄製品	牛ヶ毛(鋭い13)	長6.4 口径0.3~1.0		04291
13	SE2161 埴輪土	鉄製品	不明鉄製品	長(5.2) 幅(1.9) 厚(0.25)		04292
14	SE2179 埴輪土	鉄製品	不明鉄製品	長(1.8) 幅(0.6) 厚(0.2)		04340
15	SE2173 埴輪土	鉄製品	釘	長3.9 幅0.4 厚0.4		04339

図版181 D区井戸跡出土遺物(2)



No.	出土遺構・層位	種別	原産地	産地	物	量	登録
1	SE2211 雑埴土	陶器	雑埴		銅目 SK2230と揃合		04306
2	SE2211 雑埴土	陶器	菅原麻	瀬戸系漆			04307
3	SE2204 雑埴土	青磁	越前中尾	瀬戸系漆			04305
4	SE2184 雑埴土	木製品	千代		残存長15.3 幅1.3 厚0.75 端部が強化して3ヶ所		04081
5	SE2187 雑埴土	木器	漆		口縁18.0 蓋高3.0 底径6.6 残存：皿式浅鉢 片蓋の口より目には横線 蓋部に蓋元部より口元の横線はなし(継ぎ目下)		04078
6	SE2204 雑埴土	石製品	砥石		長6.90 幅3.8 厚3.6		04304
7	SE2187 雑埴土	石製品	砥石		長6.40 幅2.0 厚1.8		04299
8	SE2204 3層	漆製品	曲物漆器		径11.0×10.0 高0.9 内底：黒色漆塗り 銅目に目釘穴が3ヶ所残存 上部～下部へ変遷2ヶ所の継ぎ目あり		04083
9	SE2184 雑埴土	木製品	菅原系漆		径16.4 高さ4.0 厚2.5 蓋部は蓋元部と蓋底に黒色漆塗り(蓋底に目釘穴あり)蓋部は蓋元部と蓋底に黒色漆塗り(蓋底に目釘穴あり)		04079
10	SE2184 雑埴土	木製品	菅原系漆		残存長6.0 幅14.8 厚2.5 04079とよく似る(同一製品の残存とみられる)		04080

図版182 D区井戸跡出土遺物(3)



No.	出土遺構・層位	種別	原種	産地	特徴	数量	登録
1	SE2275 雑練土	白磁	甕				04317
2	SE2189 雑練土	陶器	二唇甕	京南			04300
3	SE2219 雑練土	白磁	椀		口表【大平舟分銅取組】		04366
4	SE2361 雑練土	陶器	指鉢				04324
5	SE2180 雑練土	色絵	箱		口径10.0 底径4.0 器高4.4 残存:1/2		04288
6	SE2275 雑練土	陶器	甕	京南	押印(壺状)		04311
7	SE2219 雑練土	紙用紙			茅瓦の破片を紙石に転用		04310
8	SE2273 雑練土	機形埴					04424
9	SE2279 上層	石製品	砥石 ⁹		長(12.0) 幅(7.2) 厚3.1		04425
10	SE2199 神後取穴	木製品	舟物				04082
11	SE2255 上層	木製品	煎		長17.0 幅6.0 厚0.9 残存:ほぼ完整 加工痕残る		04560

図版183 D区井戸跡出土遺物 (4)



No.	出土遺構・層位	類別	原種	用途	詳	量	登録
1	SE2283 上層	漆器	碗		口径(12.1) 残存高4.7 残存: 1/2 内外面: 赤色漆塗 底部: 黒色漆塗 口縁部: 金色漆塗	04563	
2	SE2283 中層	漆器	碗		残存高4.2 残存: 1/3 内外底面: 黒色漆塗	04564	
3	SE2283 中層	漆器	鉢		残存: 一底 内外面: 黒色漆塗 口縁部内面: 赤色漆塗	04561	
4	SE2277 中層土	漆器	碗		口径(12.2) 残存高3.5 残存: 3/4 内外底面: 黒色漆塗 底部に野漆	04562	
5	SE2306 中層土	石製品	砥石		長7.6 幅5.0 厚3.7	04321	
6	SE2306 中層土	銅製品	不明銅製品			04322	
7	SE2306 中層土	石製品	砥石		長(9.5) 幅2.7 厚1.5	04320	
8	SE2283 上層	石製品	砥石		長(11.2) 幅3.7 厚1.4	04315	
9	SE2283 上層	木製品	漆器下駄		長21.4 幅10.2 高3.6 残存: ほぼ完全	04565	
10	SE2283 上層	銅製品	銭貨		形跡不詳 2点南比奈孔	04314	

図版184 D区并戸跡出土遺物(5)

遺構No.	構造	平面形	断面形	規模 (m)			堆積土の状況	出土遺物	備考	図 No.		
				幅	高さ	長さ				平面	断面	
S E 2011	土塼	円形	筒形	径1.8	—	0.8	自然	埴	瓦葺き遺構? 鉄製品	S K 2012→S E 2011	144	177
S E 2012	土塼	円形?	筒形	1.3×0.7以上	—	1.3	自然→人高	2層) ロクロ、常滑産 1層) ロクロ			40	177
S E 2105	土塼	円形	逆台形	2.4×2.2	—	1.5	自然	6層) ロクロ、柄杓、ウツ須磨、二枚目釘 2層) モモ鉄	縦板銅片埋め込み(例: -20.0.9m) 兼蔵に作業用の段を設ける 底中央に木眼 (-20.9m、深さ4m) 遺構跡		143	173
S E 2151	土塼	円形	筒形	1.3×1.2	径1.0	1.1	自然	埴	埴付鏡、葦、木製鉄製品	遺構跡		141
S E 2152	土塼	円形?	筒形	径1.9	径0.7	1.3	自然→人高	5層) 塔形? 埴) 銅製品、アカニシ殻、ハマツク製	S E 2150→S K 2153 2層上面に瓦の痕跡		141	178
S E 2154	土塼	円形	筒形	径1.4	径0.9	1.7以上	自然→人高	埴) 瀬戸瓦葺・陶器鉢、[7C後半]	瀬戸瓦葺 遺構跡		141	
S E 2155	土塼	円形	筒形	1.3×1.2	径0.8	1.4	自然→人高	5層) 瀬戸、砥石 埴) 瀬戸瓦葺・陶器鉢・鉄製品	4層から植物遺体が多量出土 遺構跡		141	177
S E 2159	土塼	円形	筒形	1.3×1.1	径0.7	1.5	自然→人高	1層) 埴	瀬戸瓦葺		141	177
S E 2161	土塼	円形	筒形	径2.1	径1.4	1.3	自然	9層) 柄杓、下脚、埴付鏡、陶器皿、セケル 上層) 陶器鉢、埴付碗 埴) 砥石、鉄製品	S D 2165→S E 2162→S E 2161 遺構跡	139→	174	
S E 2162	土塼	円形	筒形	2.3	一辺1.5	1.5	自然	埴) 埴付鏡、常滑産、モモ鉄 埴穴) 陶器鉢、鉄製品	埴) 最下段を覆って蓋取り 横板青銅組 (例: -20.9m) S D 2165→S E 2162→S E 2161 遺構跡	139→	174	
S E 2167	土塼	円形	筒形	2.0×1.8	径0.6	1.9	自然→人高	6層) 植物遺体、下脚、一辺一鉢	S E 2167→S E 2170 遺構跡	139	172	
S E 2170	土塼	円形	筒形	1.8×1.7	径0.9	1.8	自然→人高	2層) 埴付鏡、埴) 砥石、モモ鉄 中層) 陶器鉢、埴付鏡、埴) 瀬戸瓦葺・陶器鉢	遺構跡		139	
S E 2171	土塼	円形	逆台形	2.0×1.8	—	1.2	自然→人高	反戻 [7C 3四半]、陶器鉢、小鉢、埴付鏡	S E 2172→S E 2171 遺構跡		139	
S E 2172	土塼	横円形?	筒形	1.7以上×1.5	径1.0	1.3	自然→人高	1層) 埴付鏡	S E 2172→S E 2171 遺構跡		139	
S E 2173	土塼	横円形	筒形	3.0×1.7	径0.7	1.1	自然→人高	6層) 瓦(未確認)、上層) 陶器鉢、埴付鏡、砥石、陶器鉢、埴付鏡、鉄製品	S K 2188→S E 2173→S K 2174 遺構跡		139	200
S E 2180	土塼	円形	筒形	径2.5	径1.5	1.4以上	人高	埴) 瓦葺鏡、陶器鉢	S E 2180→S K 2181 底木確認 遺構跡		139	
S E 2184	土塼	不整形円形	筒形	2.1×1.5	径1.0	1.0	人高	埴) 常滑土瓶、手火			144	
S E 2187	土塼	円形	筒形	径1.6	径1.0	1.3	自然→人高	埴) 白木小皿、砥石、ロクロ	S K 2188→S E 2187 遺構跡		144	178
S E 2189	土塼	円形	筒形	1.8×1.6	径0.5	1.2	自然→人高	埴) ロクロ、常滑一鉢			142	178
S E 2198	土塼	円形?	筒形	1.8×1.6	径0.9	0.9	自然?	埴) ロクロ			144	175
S E 2199	土塼	円形	筒形	1.7×1.5	—	1.2	自然→人高	埴) 常滑片口鉢、埴穴) 曲物	S D 2113→S E 2198→S E 2199→S D 2015 縦板銅片埋め込み(例: -20.9-0.9m) S D 2113→S E 2198→S E 2199→S D 2015 遺構跡		144	175
S E 2203	土塼	横円形	筒形	2.0×1.5以上	1.3×1.1以上	1.1	自然→人高	S E 2203→S E 2204			142	176
S E 2204	土塼	横丸方形	筒形	2.5×2.0	一辺1.5×2.0	1.1	自然?	埴) 曲物、埴) 青銅銅片、砥石	横板銅片埋め込み(縦板不明 例: -20.9.8m?) S E 2203→S E 2204 遺構跡		142	176
S E 2211	土塼	横円形	筒形	1.3×1.0	径1.0	1.2	人高	埴) 厚一層一鉢、陶器大鉢	遺構跡		142	
S E 2212	土塼	円形	筒形	1.2×1.1	径0.9	1.6	自然?	埴) 瓦葺瓦葺			142	
S E 2218	土塼	円形?	筒形	2.2×2.0以上	—	1.4	自然→人高	埴) 常滑土	跡を全土敷(例: -20.1m)?		144	
S E 2219	土塼	横円形	筒形	2.1×1.2	径1.0	1.3	自然→人高	6層) 上層) 陶器鉢、白磁碗、転倒鏡	4、5層から植物遺体が多量出土		144	178
S E 2244	土塼	円形	筒形	1.9×2.0	—	1.4	自然→人高	埴) 瓦葺土鉢? モモ鉄			141	
S E 2255	土塼	円形	筒形	1.9×1.7	径1.0	1.8	自然→人高	上層) 埴	S E 2255→S D 2165 遺構跡		142	178
S E 2259	土塼	円形	筒形	径0.9	径0.5	0.7	自然→人高	埴) 常滑片口鉢・壺、モモ鉄	S E 2259→S D 2165 遺構跡		142	205
S E 2267	土塼	円形	筒形	1.3×1.1	径1.0	1.2	自然	埴) 瓦葺鏡	S K 2268→S E 2267 遺構跡		139	200
S E 2271	土塼	不整形円形	筒形	2.3×2.1	径0.6	1.6	自然→人高	埴) 陶器鉢、埴付鏡、陶器鉢	縦板銅片埋め込み(例: -20.9.8m) S E 2271→S E 2272 埋土同一 遺構跡		140	179
S E 2275	土塼	横円形	筒形	2.1×1.6	径1.0	2.0	自然→人高	埴) 瓦葺鏡、常滑一鉢、埴付鏡			140	179
S E 2276	土塼	円形	筒形	1.3×1.1	径0.5	1.0	自然		S D 2270→S E 2276 遺構跡		140	
S E 2277	土塼	横円形	逆台形	2.6×2.3	—	1.4	自然?	上層) 常滑片口鉢・壺、ロクロ、砥石	埴を全土敷(例: -20.9.9m)? S D 2270→S E 2277 遺構跡		140	179
S E 2279	土塼	円形	筒形	1.1×1.0	径0.7	0.9	自然?	上層) 砥石 埴) 常滑産、ロクロ、木製器	S K 2278→S E 2279 遺構跡		140	179
S E 2280	土塼	横円形	筒形	1.3×1.0	径0.6	0.8	自然	埴) 埴			142	
S E 2282	土塼	横円形	筒形	1.8×1.5	径0.9	1.5	人高	埴) 埴			142	
S E 2283	土塼	横円形	筒形	2.1×1.8	径1.0	1.4	自然→人高	中層) 埴(上層) 砥石、モモ鉄、瓦(口口口)→2ヶ所に穿孔、透磨下駄、埴) 埴	S D 2291→S D 2292→S E 2283 遺構跡		142	179
S E 2287	土塼	円形	筒形	1.1×1.0	—	0.8	自然				142	179
S E 2288	土塼	円形	筒形	1.8×1.5	径1.0	1.2	自然?				142	179
S E 2290	土塼	横円形	筒形	2.0×1.7	径1.0	1.0	自然		S D 2290→S E 2290 遺構跡		142	
S E 2296	土塼	円形	筒形	1.2×1.1	径0.7	1.7	自然?	埴) 砥石、陶器鉢、鉄製品			140	
S E 2296	土塼	横円形	筒形	2.2×2.0	径1.0	1.2	自然	埴) ロクロ、シタ機	S E 2296→S D 2301 遺構跡		140	
S E 2291	土塼	横円形	筒形	2.3×1.9	—	1.0	自然	埴) 陶器鉢	S D 2292→S E 2290→S E 2291 遺構跡		142	

※ 出土遺物のロクロはロクロかわらけ、手づくは手づくかわらけ、在地は官製内の在地で生産された中野陶器を指す
 ※ 出土遺物の陶器は近世陶器を指す

第8表 D区井戸跡属性表

—11)、上層から陶器碗、埴付碗や砥石、堆積土から陶器碗、埴付皿、釘(図版181-15)や不明鉄製品(図版181-14)、S E 2180堆積土から色絵磁器碗(図版183-5)、陶器碗・甕、S E 2184堆積土から差歯下駄(図版182-9・10)や手火(図版182-4)、S E 2187堆積土から白木小皿(図版182-5)、ロクロかわらけや砥石(図版182-7)、S E 2189堆積土よりロクロかわらけ、常滑産三筋壺(図版183-2)・甕、S E 2198堆積土からロクロかわらけ、S E 2211堆積土から陶器插鉢(図

版182-1)や瀬戸美濃産陶器笠原鉢(図版182-2)、SE2212堆積土から土師質土器灯明皿、SE2218堆積土から常滑産甕、SE2219の6層上面から籠編物(図版178)、堆積土から白磁碗(図版183-3)や転用砥(図版183-7)、SE2244堆積土から瓦質土器火鉢?やモモ核、SE2255上層から甕(図版183-11)、SE2267堆積土から常滑産片口鉢、常滑産甕やモモ核、SE2273堆積土から陶器碗、染付皿や碗形滓(図版183-8)、SE2275堆積土から白磁壺(図版183-1)や常滑産甕(図版183-6)、SE2279上層から砥石?(図版183-9)、堆積土から常滑産甕、ロクロかわらけや木製容器、SE2282堆積土から漆碗?やモモ核、SE2283中層から漆碗(図版184-2)、上層から2ヶ所に穿孔された銭貨(図版184-10)、連歯下駄(図版184-9)、漆碗(図版184-1)や砥石(図版184-8)、堆積土から漆鉢(図版184-3)、SE2306堆積土から砥石(図版184-5・7)、不明銅製品(図版184-6)や鉄製品、SE2356堆積土からロクロかわらけやシカ骨骨、SE2361堆積土から陶器播鉢(図版183-4)が出土している。

c. 土壌

123基確認した。これらは規模や平面形から3類に分けられる。このうち1類のSK2183・2185・2209・2238・2246・2253・2300・2303、2類のSK2190・2258・2294については個別の記述を行うが、他の土壌の概要は分類にしたがって述べることとし、個々のデータは第9・10表にまとめた。

1類：径もしくは最大径が3.0mを超える大型土壌

11基(SK2181・2183・2185・2209・2213・2238・2246・2253・2258・2300・2303・2311)検出した。調査区の南東部から北東部にかけて点在しており、西側のSX1397遺物包含層よりには認められない。

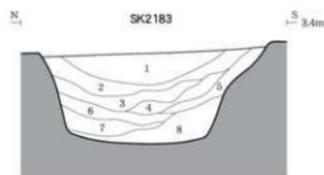
【SK2183土壌】(図版142・185)

D区南東部で確認した。平面形は3.0×2.4mの楕円形で、深さは1.3mある。断面形は逆台形で、底面はほぼ平坦である。堆積土は8層に分けられたが、2層に大別できる。下層(5~8層)が自然堆積土、上層(1~4層)は焼土・炭化物・灰や地山ブロックを含む人為堆積土である。遺物は堆積土から出土した(図版186)。下層からロクロかわらけ皿、上層から手づくねかわらけ皿(1)、ロクロかわらけ小皿(2)・皿、5型式期の常滑産片口鉢(5)、龍泉窯系青磁碗(3)や白磁口禿碗(4)、堆積土から曲物が出土している。

【SK2185土壌】(図版144・185)

D区南東部で確認した。SK2186土壌やSE2187井戸跡より古い。平面形は径3.0mの円形で、深さは1.0mある。断面形は播鉢形で、底面は平坦である。堆積土は8層に分けられたが、3層に大別できる。下部は自然堆積層で(大別中・下層)、上部は自然堆積の間に焼土・灰・炭化物からなる廃棄層が認められる(大別上層)。

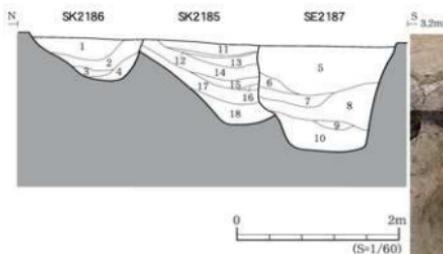
遺物は堆積土から出土した(図版187)。下層から手づくねかわらけ小皿(1)、箸(11・12)、柄杓、手火、上層から手づくねかわらけ小皿・皿(2)、ロクロかわらけ小皿(3~9)・皿(10)、砥石(14)や壁土(13)が出土している。



No.	土色・土性	掘入物など	備	考
1	黄褐色(OYR3)中粒土質シルト	灰化層・焼土・灰を含む		
2	焼山ブロッケ土層	灰褐色(黄)土・焼山ブロッケを含む	人跡確認	上層
3	黄褐色(OYR2)粘土	焼山を含まず状に含む		
4	焼山ブロッケ土層	灰褐色(黄)土・焼山土質シルト・焼山ブロッケを含む		
5	黄褐色(OYR2)粘土	灰褐色(黄)土・焼山土質シルト・焼山ブロッケを含む		
6	焼山ブロッケ土層	黄褐色(黄)土・焼山土質シルトを含む	自然確認	下層
7	黄褐色(OYR2)粘土			
8	焼山ブロッケ土層			



SK2183断面写真(西から)



SK2185、SE2187断面写真(西から)



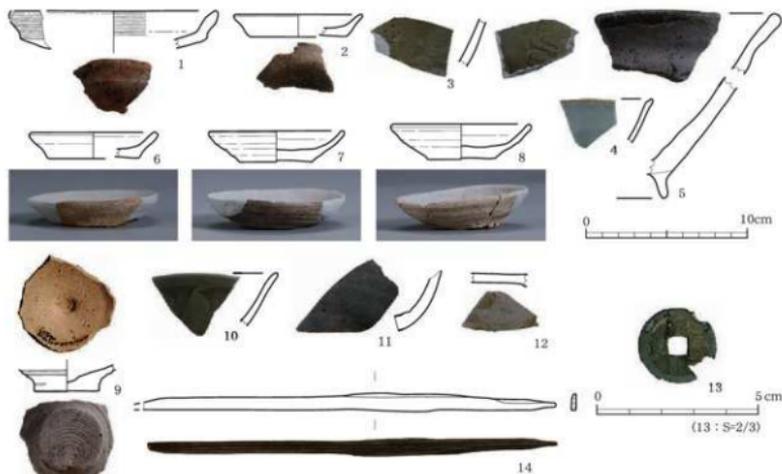
SK2185 上層からわけ出土状況(1)



SK2185 上層からわけ出土状況(2)

No.	土色・土性	掘入物など	備	考	No.	土色・土性	掘入物など	備	考
1	黄褐色(OYR3)シルト	焼山ブロッケ・灰化層を含む			10	黄褐色(OYR3)粘土		SE2187	焼土層
2	黄褐色(OYR2)シルト		SK2186	焼土層	11	灰化物質	焼土・灰を含む		
3	黄褐色(OYR2)シルト	焼山ブロッケを多く含む			12	灰化物質	灰化層を含む		
4	黄褐色(OYR3)シルト	焼山ブロッケを多く含む			13	灰化物質		人跡確認	SK2185 上層
5	黄褐色(OYR3)中粒土質シルト	灰褐色(黄)土・焼山土質シルト・焼山ブロッケを含む			14	黄褐色(OYR4)粘土	焼山を含まず状に含む		
6	黄褐色(OYR2)粘土				15	灰化物質			
7	黄褐色(OYR3)中粒土質シルト		SE2187	焼土層	16	黄褐色(OYR4)粘土			
8	黄褐色(OYR2)粘土	焼山を含まず状に含む			17	黄褐色(OYR3)粘土	焼山を含まず状に含む		SK2185 中層
9	焼山ブロッケ土層				18	焼山土層	黄褐色(黄)土・焼山・焼土を含む		SK2185 下層

図版185 SK2183・2185・2186土壌



(単位: cm)

No.	出土遺構・層位	種別	器種	産地	特	備	登録
1	SK2183 上層	平つくりかわらけ	皿		口径(13.0) 残存:一部 口縁部(一段ナデ)	SK2185-上層(04352)と同一個体か	04344
2	SK2183 上層	ロクロかわらけ	小皿		口径(8.0) 底径(6.0) 器高(1.4) 残存:1/4	ロクロナデ 底面:静止糸切	04345
3	SK2183 上層	青磁	椀	龍泉窯系	内:襷目文		04342
4	SK2183 上層	白磁	椀		口先【大分府分類区別】		04343
5	SK2183 上層	陶器	片口鉢	常滑		【重要5型式別】	04346
6	SK2238 1~6層	ロクロかわらけ	小皿		口径(8.0) 底径(5.8) 器高(1.5) 残存:一部	ロクロナデ 底面:回転糸切?	04389
7	SK2238 7層	ロクロかわらけ	小皿		口径(8.4) 底径(4.6) 器高(1.9) 残存:1/2	ロクロナデ 底面:回転糸切	04386
8	SK2238 1~6層	ロクロかわらけ	小皿		口径(8.7) 底径(4.3) 器高(2.2) 残存:1/2	ロクロナデ 底面:回転糸切	04388
9	SK2238 7層	ロクロかわらけ	小皿		底径(4.0) 残存:1/3	工具用用いたロクロナデ 内:ロクロナデナデ 底面:回転糸切	04387
10	SK2303 3層	青磁	磁器片文碗	龍泉窯系		【大分府分類区別】	04419
11	SK2303 確認面	青磁	椀	龍泉窯系	内:沈線(襷目) 襷目文		04420
12	SK2303 4層	陶器	平鏡?皿?				04418
13	SK2303 確認面	銅製品	鏡状		「元巻通寶」(初鑄1078年)		04421
14	SK2303 3層	木製品	不明木製品		残存長25.5 幅1.1 厚0.2		04471

図版186 SK2183・2238・2303土壌出土遺物

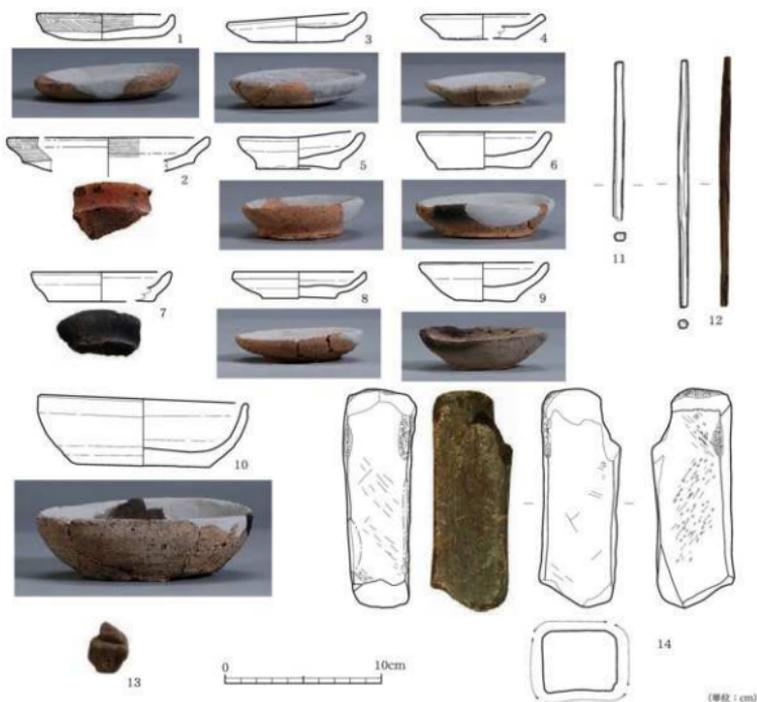
【SK2209土壌】(図版142・188)

D区南東部で確認した。SK2186土壌やSE2187井戸跡より古い。平面形は径3.0mの円形で、深さは1.0mある。断面形は播鉢形で、底面は平坦である。堆積土は15層に分けられたが、3層に大別でき、いずれも自然堆積とみられる。

遺物は底面や堆積土から出土した(図版189・190)。底面からはロクロかわらけ小皿・皿、常滑産甕、湿美産甕、在地産片口鉢(12)、漆桶、転用砥(13)、不明木製品(16)やウマ上顎歯、下層から常滑産甕、在地産甕、龍泉窯系青磁椀(3)、白磁皿(2)、砥石(20)、柄杓(17)、曲物、木製部材、中層からロクロかわらけ皿、在地産片口鉢、曲物、砥石(18)やモモ核、上層からロクロかわらけ、常滑産甕(7・8)、瀬戸産折縁皿(5)、在地産片口鉢(6・9~11)・甕、釘(22)、砥石(19~21)、折敷(14)、塔婆(15)が出土している。

【SK2238土壌】(図版141・191)

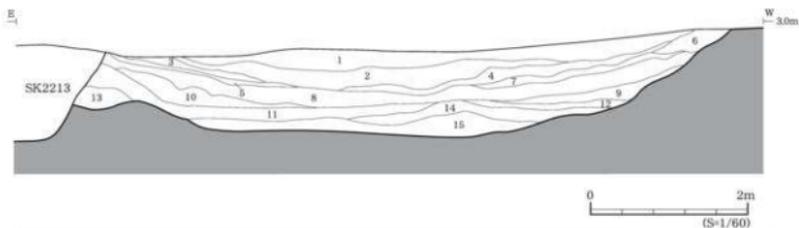
D区中央部で確認した。平面形は径5.0×4.0mの円形で、深さは1.3mある。断面形は逆台形で、



No.	大別部位	種別	器種	特徴	出	層位
1	下層	手づくねかわらけ	小皿	口径8.0 器高1.7 残存：1/2 口縁部：一段ナデ		04351
2	上層	手づくねかわらけ	皿	口径13.0 残存：一部 口縁部：一段ナデ		04352
3	上層	ロクロかわらけ	小皿	口径8.0 器高0.1 器高1.0 残存：1/4 ロクロナデ 底部：回転糸切		04353
4	上層	ロクロかわらけ	小皿	口径8.0 器高4.8 器高1.0 残存：1/3 ロクロナデ 底部：回転糸切		04354
5	上層	ロクロかわらけ	小皿	口径8.1 器高5.4 器高2.3 残存：3/5 ロクロナデ 底部：回転糸切		04356
6	上層	ロクロかわらけ	小皿	口径8.0 器高6.0 器高2.4 残存：1/2 ロクロナデ 底部：回転糸切		04355
7	上層	ロクロかわらけ	小皿	口径9.0 器高7.0 器高1.9 残存：一部 ロクロナデ 底部：回転糸切		04359
8	上層	ロクロかわらけ	小皿	口径8.4 器高4.6 器高1.7 残存：1/2 ロクロナデ 内：ロクロナデナデ 底部：回転糸切		04357
9	上層	ロクロかわらけ	小皿	口径8.3 器高3.9 器高2.5 残存：完整 ロクロナデ 底部：回転糸切		04358
10	上層	ロクロかわらけ	皿	口径13.4 器高6.3 器高4.4 残存：1/4/5 ロクロナデ 内：ロクロナデナデ 底部：回転糸切		04362
11	下層	木製品	棒	残存長10.2 幅0.9 厚0.2		04085
12	下層	木製品	棒	長16.0 幅0.6 厚0.6		04086
13	上層	土製品	燈土			04360
14	上層	石製品	砥石	長14.0 幅4.7 厚3.8		04361

図版187 SK2185土坑出土遺物

底面は中央に向けてゆるやかに傾斜する。堆積土は9層に分けられた。自然に埋設する過程で、地山ブロックや植物遺体などが廃棄層として認められる。遺物は堆積土から出土した(図版186)。9層から同定不能骨、8層上面からモミ殻、7層からロクロかわらけ小皿(7・9)、1~6層からロクロかわらけ小皿(6・8)、モモ核が出土している。



No.	土色・土性	取人物など	層	考	No.	土色・土性	取人物など	層	考
1	黒褐色 (1)PYR3 (1) 粘土質シルト	炭化物・焼土を含む	上層		9	オリーブ褐色 (2)GY5 (1) 細砂	炭化物・焼土を含む	中層	
2	黒色 (1)PYR2 (1) 粘土	炭化物を含む			10	暗緑褐色 (2)GY4 (1) 砂	炭化物・焼土を含む		
3	二色 (1)赤褐色 (1)PYR4 (2)シルト	炭化物・焼土を含む			11	黒褐色 (1)PYR2 (2) 粘土	炭化物・焼土を含む		
4	二色 (1)赤褐色 (1)PYR4 (2)シルト	炭化物・焼土を含む			12	黒褐色 (1)PYR2 (2) 粘土	炭化物・焼土を含む		
5	黒色 (1)PYR2 (1) 粘土		中層		13	黒山ブロッケ土		下層	
6	黒褐色 (2)PYR2 (2) シルト	焼山ブロッケ・炭化物を含む			14	焼山ブロッケ土			
7	黒色 (1)PYR2 (1) 粘土	炭化物を含む			15	焼山ブロッケ土	炭化物を含む		
8	黒褐色 (1)PYR2 (2) 粘土	焼山土層に含む			16	暗緑褐色 (2)GY (1) 砂	焼山ブロッケを含む		



断面写真 (北東から)



底面不明木製品出土状況

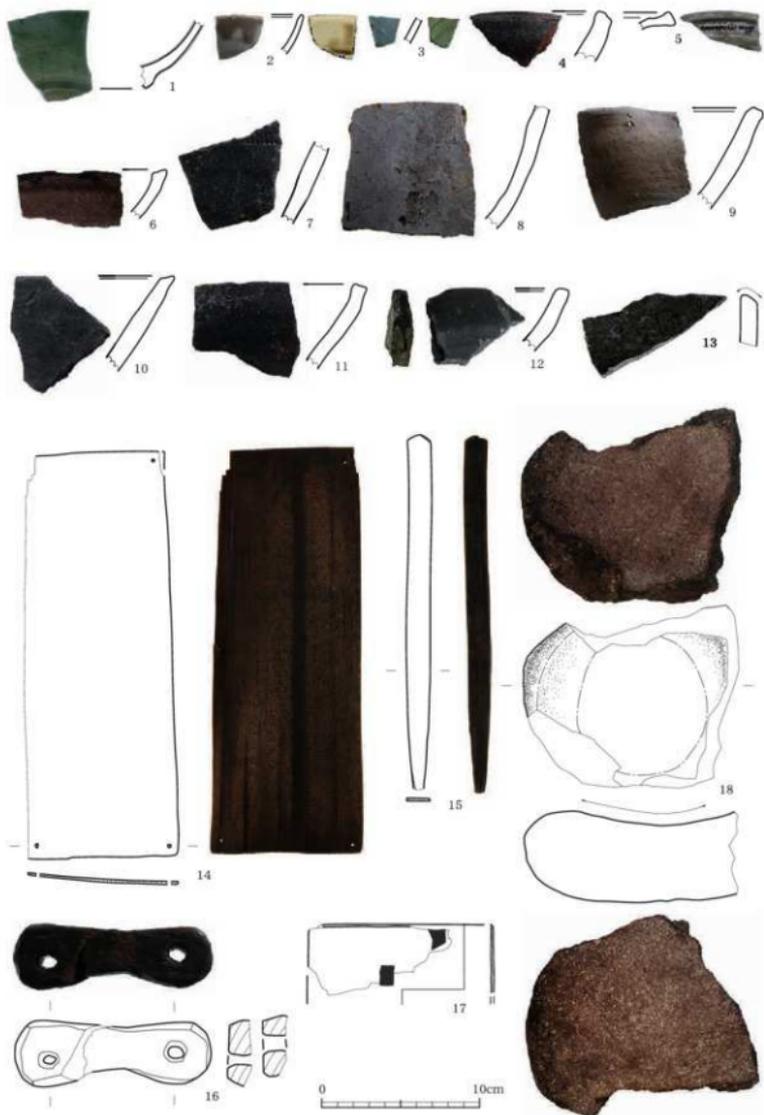
図版188 SK2209土墳

【SK2246土墳】 (図版141・191)

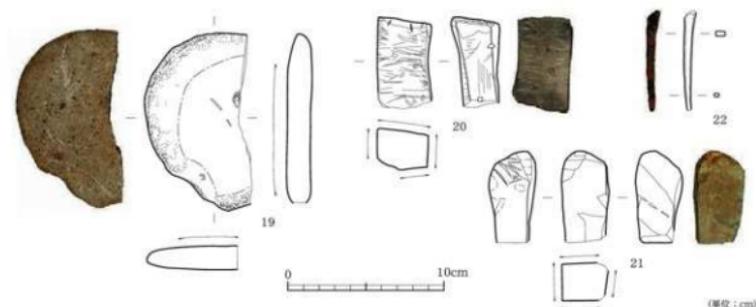
D区中央部北側で確認した。SK2250土墳、SD2165・2246溝跡より古い。平面形は10.1×7.2mの楕円形で、深さは1.3mある。断面形は逆台形で、底面は平坦である。堆積土は10層に分けられたが、4層に大別でき、いずれも自然堆積とみられる。遺物は堆積土から出土した (図版192)。4層からは常滑産三筋壺 (3)・甕 (1)、在地産片口鉢 (2)や砥石 (8)、3層からモモ核、2層から常滑産片口鉢・甕、在地産短頸壺 (6)・甕やモモ核、1層から瀬戸産瓶子 (4)・折縁深皿 (5)・鉢?、常滑産三筋壺・甕、砥石 (7)、同定不能骨やモモ核が出土している。

【SK2253土墳】 (図版142・193)

D区中央部東側で確認した東壁に溝がともなう土墳である。平面形は5.4×3.7mの楕円形で、深さは1.0mある。断面形は逆台形で、底面は平坦、南壁に段がつくられる。また、東壁の北側には幅0.4m、深さ0.1mの溝がともなう。溝は東へ1.0mほど延びている。堆積土は5層に分けられたが、いずれも自然堆積とみられる。遺物は堆積土から出土した (図版192)。4・5層からは常滑産甕、1・2層から肥前産染付碗 (9)、陶器碗・壺、常滑産甕、モモ核が出土している。



图版189 SK2209土坑出土遺物 (1)



No.	大別層位	類別	器種	産地	備	登録
1	確認面	青磁	甕	龍泉窯系	穴縁(内)内: 蓮弁文	04384
2	下層	白磁	皿		【大平野分層区類】	04370
3	下層	青磁	甕	龍泉窯系	華文	04369
4	確認面	陶器	片口鉢	在産		04383
5	上層	陶器	片口鉢	在産		04373
6	上層	陶器	片口鉢	在産		04377
7	上層	陶器	甕	常滑	押印(籠状)	04375
8	上層	陶器	甕	常滑	押印(籠状)	04374
9	上層	陶器	片口鉢	在産		04382
10	上層	陶器	片口鉢	在産		04378
11	上層	陶器	片口鉢	在産		04376
12	底面	陶器	片口鉢	在産	摩滅び	04368
13	底面	私用紙			龍泉窯系の磁片を磁石に転用	04367
14	上層	木製品	竹敷		長25.5 幅10.4 厚0.2 穿孔3カ所	04095
15	上層	木製品	樽巻		長22.6 幅1.5 厚0.2 残存: 完整	04582
16	底面	木製品	不明木製品		長12.5 幅2.6~5.5 厚1.5 両端部に穿孔1カ所ずつ	04089
17	下層	木製品	袴釘		口縁(1.8) 残存高3.5 厚0.2 糠皮留め	04090
18	中層	石製品	砥石		長10.0 幅13.0 厚5.1	04372
19	上層	石製品	砥石		長11.5 幅5.0 厚1.5	04379
20	下層	石製品	砥石		長5.7 幅3.2 厚2.5	04371
21	上層	石製品	砥石		長5.9 幅3.0 厚2.5	04381
22	上層	鉄製品	鉄釘		長6.5 幅0.6 厚0.3	04380

図版190 SK2209土壌出土遺物(2)

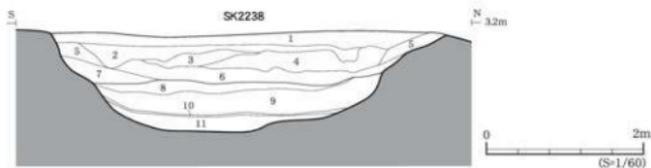
【SK2300土壌】(図版140・193)

D区北東部で確認した。平面形は6.4×5.7mの隅丸方形で、深さは1.2mある。断面形は逆台形で、底面は平坦である。堆積土は12層に分けられたが、2層に大別でき、自然堆積(下層=2~12層)ののち、埋め戻されている(上層=1層)。遺物は底面と堆積土から出土した(図版194)。底面からウマノ顎歯、堆積土からロクロかわらけ皿、常滑産三筋壺(1)・片口鉢、火きり板(6)、笥(5)、砥石(3・4)や切石(7)が出土している。

【SK2303土壌】(図版140・193)

D区北東部で確認した。SD2342溝跡より新しく、SD2338溝跡より古い。平面形は8.3m以上×3.3mの不整形円形で、深さは1.2mある。断面形は逆台形で、底面は東側が一段低い。堆積土は8層に分けられたが、4層に大別でき、自然堆積(大別2~4層)ののち、埋め戻されている(大別1層)。

遺物は堆積土から出土した(図版186)。4層から瀬戸産陶器皿(12)や植物種子、3層から龍泉窯系青磁磁蓮弁文椀(10)、木製部材や箸(14)、2層からロクロかわらけ小皿や常滑産甕、確認面から龍泉窯系青磁椀(11)、銭貨「元豊通寶」(初铸1078年)(13)が出土している。



No.	土色・土性	埋人物など	備考	No.	土色・土性	埋人物など	備考
1	黒灰色(OYR4/1)シルト			7	黒灰色(OY4/1)砂質シルト	陶器、炭化物を少し含む	
2	灰黒色(OYR4/2)シルト			8	褐色(OYR2/1)粘土質シルト	植物遺物を多量に含む	人海溝
3	灰黒色(OYR4/3)シルト		自然堆積	9	褐色シルトや砂質シルトを多量に含む		
4	灰黒色(OYR4/3)シルト	燧石ブロックを多量に含む		10	黒灰色(OYR2/2)粘土質シルト		
5	灰黒色(OYR4/2)砂質シルト			11	褐色ブロック状	灰黒色粘土質シルトを含む	
6	灰黒色(OYR4/2)粘土質シルト	燧石ブロックを多量に含む	人海溝				



SK2238断面写真(東から)



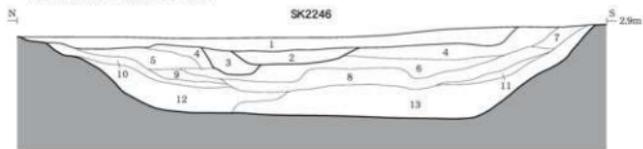
SK2238 7層かわらけ出土状況



SK2238 8層植物遺体出土状況

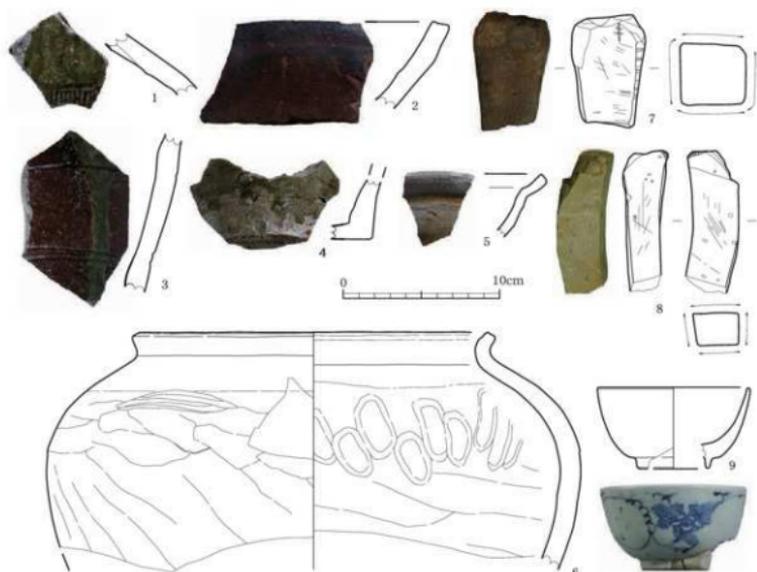


SK2246断面写真(北西から)



No.	土色・土性	埋人物など	備考	No.	土色・土性	埋人物など	備考
1	黒灰色(OYR4/2)シルト			8	灰黒色(OYR5/2)砂質シルト	燧石を少し含む	
2	灰黒色(OYR4/2)シルト		SD2160 燧石	9	黒灰色(OYR5/1)シルト	燧石を少し含む	
3	灰黒色(OYR4/2)砂質シルト	燧石ブロックを多量に含む	SD2247 燧石	10	灰黒色(OYR5/2)砂質シルト	燧石を少し含む	
4	灰黒色(OYR4/2)シルト			11	灰黒色(OYR3/2)砂質シルト	燧石を少し含む	SK2246 燧石
5	灰黒色(OYR5/1)シルト	燧石を少し含む	SK2246 燧石	12	灰ブルー色(OY4/2)シルト	燧石を少し含む	
6	灰黒色(OYR5/1)粘土			13	褐色(OY4/1)シルト	燧石ブロックを含む	
7	黒灰色(OY4/1)シルト						

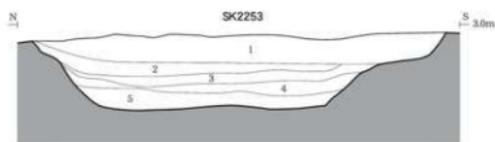
図版191 SK2238・2246土壌



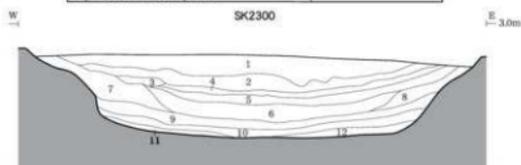
(単位: cm)

No.	出土遺構・層位	種別	質種	度量	特徴	備	登録
1	SK2246 4層	陶器	黒	常規	押印(裏状)		04358
2	SK2246 4層	陶器	片口跡	存続(白行a)			04359
3	SK2246 4層	陶器	三筋迹	常規	沈線(草線)		04357
4	SK2246 1層	陶器	黒子	磨 ²⁾			04461
5	SK2246 1層	陶器	白線(深出)	磨 ²⁾	【前IV期 13c(後葉)】		04462
6	SK2246 2層	陶器	如用赤	白行a	口縁(23.2) 残存:一帯 外:ヘラナゲ 口縁部:回転ナデ 内:オサエ→用ナデ		04460
7	SK2246 1層	石製品	硯石	長6.91 幅2.2 厚0.0			04463
8	SK2246 4層	石製品	硯石	長0.13 幅2.9 厚2.0			04395
9	SK2253 1・2層	染付	陶	藍彩	口縁9.6 裏面(4.6) 器高6.2 残存:1/3 外:「コンニャク印」 【17c末~18c初期】		04393
10	SK2253 雜居層	転用砥			常規(片口跡)の破片を硯石に転用		04350

図版192 SK2246・2253土坑出土遺物



No.	土色・土質	埋人物など	備考
1	黒褐色(1)PYR3/2シルト	焼出ブロックを含む	
2	灰褐色(1)PYR3/2シルト	磁石土の瓦層	
3	黒褐色(1)PYR3/2粘りシルト	磁石土の瓦層	
4	オリーブ褐色(1)Y2/1粘土	焼出ブロックを多数含む	
5	黒褐色(1)Y2/2粘土層シルト	磁石土を含む	



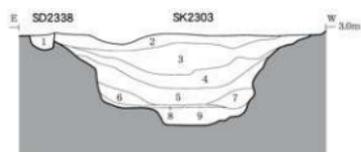
No.	土色・土質	埋人物など	備考	No.	土色・土質	埋人物など	備考
1	灰褐色(1)PYR4/2シルト	黒褐色シルト・黒褐色ブロックを多数含む	人高程度	7	オリーブ灰色(2)GY1/1礫	黄褐色粘土を土中に含む	7M
2	灰色(1)Y2/2(1)粘土			8	オリーブ灰色(2)GY5/1礫		
3	灰色(1)Y2/2(1)シルト	灰色粘土を含む		9	灰色(1)Y4/1粘土	オリーブ灰色磁石を土中に含む	
4	オリーブ灰色(1)GY2/1粘土		7M	10	オリーブ灰色(2)GY1/1礫		
5	オリーブ灰色(1)GY5/1礫	石灰・磁石層を土中に含む		11	オリーブ灰色(2)GY1/1礫	灰色粘土を多数含む	
6	オリーブ灰色(2)GY1/1礫	灰色粘土を土中に含む		12	オリーブ灰色(2)GY1/1礫		



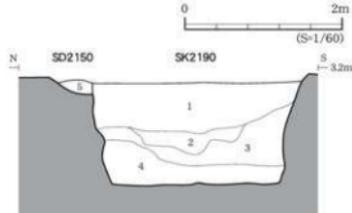
SK2300断面写真（南から）



SK2303、SD2338断面写真（北から）

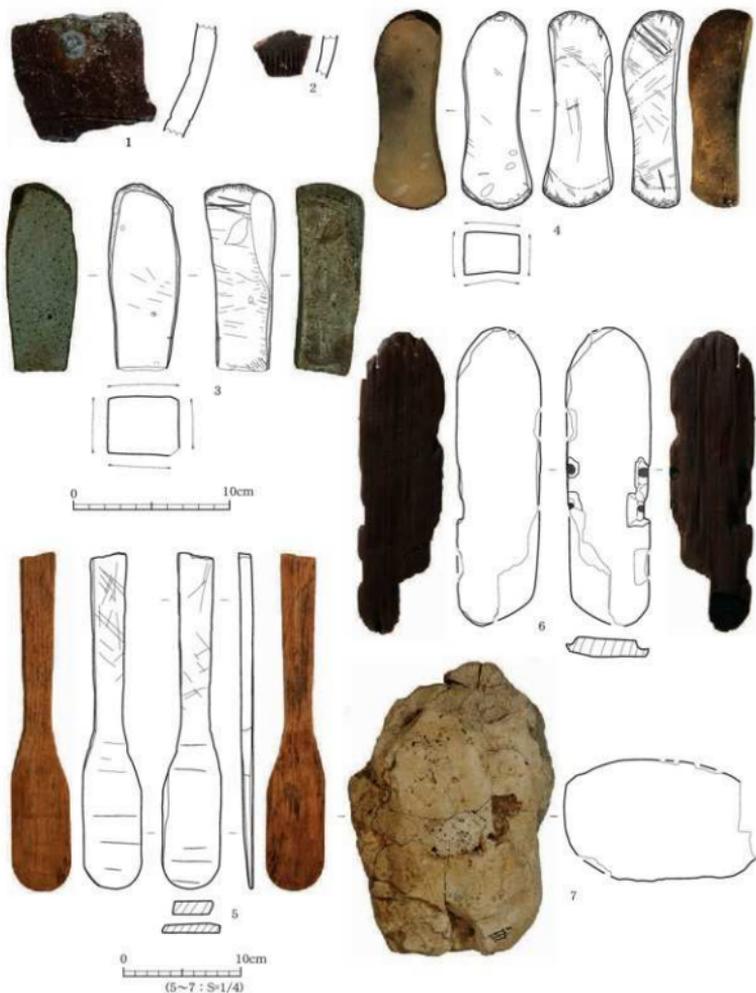


No.	土色・土質	埋人物など	備考
1	黒褐色(1)PYR2/2シルト		SD2338 焼結土
2	灰褐色(1)PYR4/2シルト	黒褐色粘土ブロックを多数含む	人高程度 SK2303 1層
3	石灰・黄褐色(1)PYR3/2シルト	黒褐色・黄褐色粘土ブロックを多数含む	SK2303 2層
4	黒褐色(1)Y2/2(1)粘土	黒褐色・黄褐色粘土ブロックを多数含む	SK2303 3層
5	黒褐色(1)PYR4/2粘土	灰褐色磁石シルトを含む	
6	灰褐色(1)PYR3/2シルト	焼出ブロックを含む	
7	灰褐色(1)PYR3/2シルト		
8	黒褐色(1)PYR3/2砂質シルト		
9	黒褐色(1)PYR4/2粘土	黄褐色磁石を土中に含む	SK2303 4層



No.	土色・土質	埋人物など	備考
1	黒褐色(1)PYR2/2シルト	焼出ブロックを含む	SD2150 焼結土
2	黒褐色(1)PYR4/2シルト		
3	黒褐色(1)PYR4/1シルト	焼出ブロックを含む	SK2190 焼結土
4	焼出ブロック主層	灰化ブロックを含む	
5	焼出ブロック主層	焼出ブロックを多数含む	

図版 193 SK2190・2253・2300・2303土壌



No.	大形群	種別	器種	産地	特	備	登録
1	埴輪上	陶器	三稜器	常陸	沈殿(草履)2方所		04413
2	埴輪面	陶器	壺		押印(屢杖)		04414
3	埴輪土	石製品	砥石		長(12.0) 幅4.5 厚3.7		04415
4	埴輪上	石製品	砥石		長12.7 幅3.3 厚2.6		04416
5	埴輪土	木製品	へす		長28.8 幅：首5.1 柄2.9 厚1.1 残存：完形 柄に多数の列物傷		04569
6	埴輪土	木製品	火きり臼		残存長25.6 幅7.2 厚1.5 最後は手欠として修理		04568
7	埴輪土	石製品	切石		長(23.7) 幅(16.1) 厚9.3		04412

図版194 SK2300土横出土遺物

【その他の1類土壌出土遺物】

SK2213堆積土から青白磁小壺(図版203-4)や木製部材(図版203-12)、SK2271堆積土から染付磁器皿(図版203-3)、肥前産陶器大皿(図版203-7)、在地産とみられる片口鉢(図版203-6)や砥石(図版203-10)、SK2311堆積土から常滑産甕(図版203-9)などが出土している。

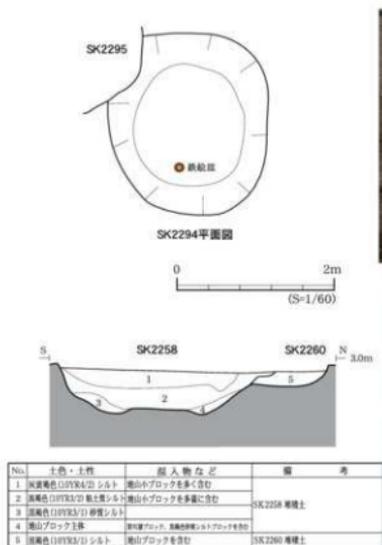
2類: 径もしくは長軸の長さが1.2m以上~3.0m未満の中型土壌(図版197~200)

50基検出した。調査区全体に分布するが、中央より東側に多く認められる。平面形は隅丸方形の2基(SK2202・2242)を除くと、円形もしくは楕円形である。深さは0.2~1.5mあるが、1.0m未満のものがほとんどである。断面形は皿形が14基、逆台形12基、楕円形13基、箱形11基と各類型がまんべんなく認められる。堆積土は自然堆積が多いが、ほかに自然体積ののち人為的に埋め戻されるもの(SK2004・2225・2250・2257)、自然に埋まる過程で廃棄層が認められるもの(SK2108・2256・2299)、人為的に埋め戻されるもの(SK2294)がある。

遺物は底面や堆積土から出土している(図版201~204)。以下、個別記載を行うSK2190・2258・2294を除いて出土遺物の概要を述べる。SK2001は1層から在地産片口鉢(図版201-6)、SK2004は4層から砥石、4層・3層から壁土(図版202-15・16)、3層から鉄滓(図版202-17)、2層からロクロかわらけ小皿、1層からロクロかわらけ、SK2006は1層からロクロかわらけ、SK2007は2層からロクロかわらけ柱状高台皿、1層から渥美産甕(図版201-7)、SK2106・2109・2186の堆積土からロクロかわらけ、SK2111堆積土からロクロかわらけ、常滑産甕(図版202-5)や砥石(図版202-8)、SK2112は1層から染付碗、陶器皿、龍泉窯系青磁碗(図版201-3)、SK2153堆積土から瀬戸美濃産陶器笠原鉢(図版202-4)、SK2156堆積土から砥石(図版202-7・10)、SK2157堆積土から堤?産陶器小甕(図版202-3)、陶器楕鉢、染付碗、常滑産三筋壺・鉢、漆器、キセル(図版202-13)や砥石(図版202-11)、SK2168堆積土から肥前産陶器碗(図版202-1)・磁器皿(図版202-2)、染付碗・皿、SK2174堆積土から陶器碗、染付碗、砥石(図版202-9)、SK2192堆積土から陶器碗、SK2216堆積土から陶器碗や染付碗、SK2217堆積土から染付碗、陶器碗・楕鉢、土人形(猫)(図版203-11)、不明鉄製品やモモ核、SK2225の1層から染付碗や切石(図版204-7)、堆積土から砥石や切石(図版204-5・6・8)、SK2230堆積土から陶器楕鉢(図版201-2)や陶器鉢、SK2242堆積土から磁器碗、SK2250堆積土から肥前産染付皿や瀬戸美濃産折縁中皿(図版203-1)、SK2256堆積土からキセル(図版202-14)、SK2257堆積土から染付碗、常滑産甕と砥石(図版202-6)、SK2261堆積土から鉄製銭?(図版203-15)、SK2290の底付近から転用砥(図版203-8)、SK2299堆積土から磁器合子(図版204-2)、陶器碗・鉢、土鈴(図版204-1)、砥石(図版204-4)や基石(図版204-3)、SK2309堆積土から鉄鏝(図版203-14)、SK2335の底面から銭貨「至道元寶」(初鋳995年)、1層からロクロかわらけ、SK2341堆積土から染付皿・壺、土師質土器や釘(図版203-13)などが出土している。

【SK2190土壌】(図版141・193)

D区中央部で確認した。SK2150溝跡より新しい。平面形は2.6×2.4mの楕円形で、深さは1.5mある。断面形は箱形で、底面は平坦である。堆積土は4層に分けられたが、いずれも自然堆積とみら



SK2294 土坑（北東から）



SK2294 底面 鉄絵皿、土師質土器出土状況

図版195 SK2258・2260・2294土坑

れる。遺物は堆積土から岸産陶器端反皿（3）、瀬戸美濃産陶器変形皿（2）、染付や転用砥（1）が出土している（図版196）。

【SK2258土坑】（図版139・195）

D区北部中央で確認した。SK2260土坑より新しい。平面形は2.8×1.5mの楕円形で、深さは0.6mある。断面形は皿形で、底面は壁際が少し低い。堆積土は4層に分けられ、自然堆積ののち、埋め戻されている（1・2層）。遺物は堆積土から染付碗や陶器、確認面から瓦質土器火桶？（4）、陶器碗・播鉢、肥前産染付碗（5）・仏飯器（6）、瓦や砥石が出土している（図版196）。

【SK2294土坑】（図版140・195）

D区北東部で確認した。SD2291・2292溝跡より新しく、SK2295土坑より古い。平面形は2.3×2.0mの楕円形で、深さは0.2mある。断面形は逆台形で、底面は平坦である。底面の南壁際に土師質土器皿と陶器皿を入れ子状に重ねて置いたのち、埋め戻されている。遺物は底面から土師質土器皿（9）、瀬戸美濃産陶器鉄絵皿（8）、堆積土から染付皿、陶器鉢、確認面から陶器播鉢（10）や砥石（7）が出土している（図版196）。

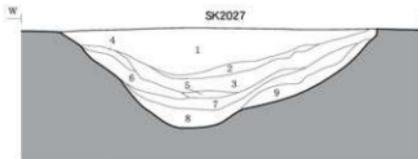
3類：径や長軸の長さが1.0m前後より小さな小型土坑（図版197～200）

55基検出した。調査区全体に分布するが、2類土坑と同じく中央より東側に多く認められる。平面



No.	出土遺構・層位	種別	器種	産地	物	
					名	登録
1	SK2190 埴埴土	私用瓦		定勝寺雲の破片を磁石に私用		04301
2	SK2190 埴埴土	陶器	変形皿	瀬戸美濃	【17c前半】	04303
3	SK2190 埴埴土	陶器	碗反足	厚	口径27.40 高台径12.2 器高7.9 残存：1/4 破断中	04302
4	SK2258 埴埴面	瓦質土器	火鉢?		高台径5.8 残存高3.0 残存：一部	04405
5	SK2258 埴埴面	染付	碗	駅前	口径10.4 高台径4.4 器高5.2 残存：1/3	04406
6	SK2258 埴埴面	磁器	仏舎鉢	駅前	口径4.2 残存高4.2 残存：1/4	04407
7	SK2294 埴埴面	石押品	瓶石		高4.99 幅4.3 厚4.0	04408
8	SK2294 埴埴面	陶器	煎茶盆	瀬戸美濃	口径11.4 高台径6.8 器高2.4 残存：完形 内西面に塗様付付着物 内面に鉄輪	04427
9	SK2294 埴埴面	土師質土器	皿		口径11.6 器高6.2 器高2.8 残存：ほぼ完形 内外面に油煙付付着物	04428
10	SK2294 埴埴面	陶器	磁鉢		口径部に施彩(鉄輪)	04316

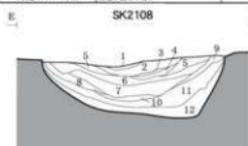
図版196 SK2190・2258・2294土坑出土遺物



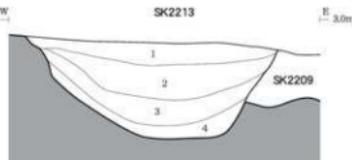
No.	土色・土性	侵入物など	備考
1	暗褐色 (0)YR3/4(1)シルト	樹皮/フナ/藪草/動物糞/腐植土層	人工堆積
2	暗褐色 (0)YR3/4(1)粘土	暗褐色土を多量に含む	
3	灰褐色 (0)YR5/2(1)シルト	粘土層を含む	
4	灰褐色 (0)YR5/2(砂質)シルト		
5	暗褐色 (0)YR3/4(1)粘土		自然堆積
6	上から暗褐色 (0)YR3/4(1)粘土	樹皮/腐植土を含む	
7	灰褐色 (0)YR5/2(1)粘土	しまりなし	
8	暗褐色 (0)YR3/4(1)粘土	しまりなし	
9	上から暗褐色 (0)YR3/4(1)粘土	腐植土を多量に含む	



SK2027断面写真 (南から)



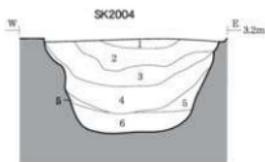
No.	土色・土性	侵入物など	備考
1	暗褐色 (0)YR3/4(1)シルト	腐植土を含む	
2	暗褐色 (0)YR3/4(1)シルト	腐植土を多量に含む	人工堆積
3	暗褐色 (0)YR3/4(1)粘土	腐植土を含む	
4	暗褐色 (0)YR3/4(1)シルト	粘土を多量に含む	
5	暗褐色 (0)YR3/4(1)粘土		
6	上から暗褐色 (0)YR3/4(1)シルト		
7	上から暗褐色 (0)YR3/4(1)シルト	樹皮/ブロックを多量に含む	自然堆積
8	暗褐色 (0)YR3/4(1)シルト		
9	暗褐色 (0)YR3/4(1)シルト		
10	暗褐色 (0)YR3/4(1)シルト		
11	暗褐色 (0)YR3/4(1)シルト		
12	上から暗褐色 (0)YR3/4(1)粘土		



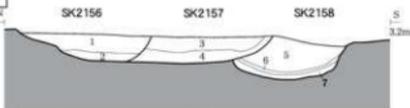
No.	土色・土性	侵入物など	備考
1	暗褐色 (0)YR3/4(1)シルト		
2	暗褐色 (0)YR3/4(1)粘土	植物遺体を含む腐植土を含む	自然堆積
3	暗褐色 (0)YR3/4(1)粘土	樹皮(樹)を含む	
4	暗褐色 (0)YR3/4(1)粘土	樹皮(樹)との腐植土層	



No.	土色・土性	侵入物など	備考
1	暗褐色 (0)YR3/4(1)シルト	樹皮/ブロックや腐植土を含む	人工堆積
2	暗褐色 (0)YR3/4(1)シルト	樹皮/ブロックを多量に含む	



No.	土色・土性	侵入物など	備考
1	暗褐色 (0)YR3/4(1)シルト		
2	暗褐色 (0)YR3/4(1)シルト	樹皮/ブロックを多量に含む	
3	オリーブ褐色 (0)YR5/2(砂質)シルト	樹皮/フナ/藪草/動物糞/腐植土層/樹皮(樹)	
4	暗褐色 (0)YR3/4(1)粘土	暗褐色土を多量に含む(腐植土含む)	
5	オリーブ褐色 (0)YR5/2(砂質)シルト	均質な層	
6	暗褐色 (0)YR3/4(1)シルト	樹皮/ブロックを多量に含む	

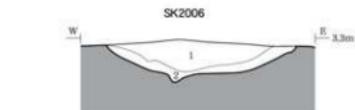


No.	土色・土性	侵入物など	備考
1	暗褐色 (0)YR3/4(1)シルト		
2	暗褐色 (0)YR3/4(1)シルト	樹皮/ブロックを含む	SK2156 暗褐色土
3	暗褐色 (0)YR3/4(1)シルト		SK2157 暗褐色土
4	暗褐色 (0)YR3/4(1)シルト	樹皮/ブロックを含む	
5	暗褐色 (0)YR3/4(1)シルト		SK2158 暗褐色土
6	暗褐色 (0)YR3/4(1)シルト		
7	暗褐色 (0)YR3/4(1)シルト	樹皮/フナ/藪草を含む	



SK2004断面写真 (南から)

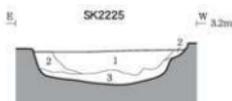
図版197 D区土壌 (1)



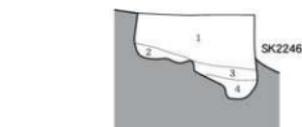
No.	土色・土性	掘人物など	備考
1	灰色系(1)YB4(2)シルト	掘り多量を含む	人跡不明
2	黒褐色(1)YR3(1)シルト	掘りブロックをわずかに含む	



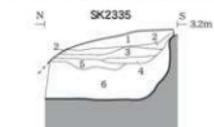
SK2006断面写真(南から)



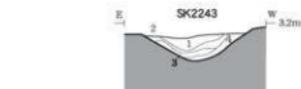
No.	土色・土性	掘人物など	備考
1	黒褐色(1)YR3(2)シルト	掘りブロックを多量に含む	人跡不明
2	黒褐色(1)YR4(1)粘土質シルト	掘りブロックを含む	
3	黒褐色(1)YR4(1)粘土質シルト		



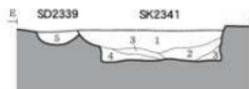
No.	土色・土性	掘人物など	備考
1	灰褐色(1)YB4(2)砂質シルト	掘りブロックを大量に含む	人跡不明
2	黒褐色(1)YR3(1)シルト		
3	黒褐色(1)YR4(2)シルト	掘りブロックを多量に含む	
4	黒褐色(1)YR3(1)粘土質シルト	掘り砂をわずかに含む	



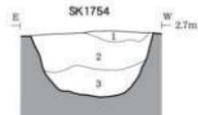
No.	土色・土性	掘人物など	備考
1	灰褐色(1)YB3(2)シルト		
2	黒褐色(1)YR3(1)シルト		
3	黒褐色(1)YR4(2)シルト		
4	灰褐色(1)YB4(2)シルト	掘り多量を含む	
5	黒褐色(1)YR3(1)シルト	掘り多量を含む	
6	C土(褐色)YR5(2)シルト	掘りシルトブロックを含む	



No.	土色・土性	掘人物など	備考
1	灰褐色(1)YB3(1)シルト		
2	黒褐色(1)YR3(2)シルト		
3	灰褐色(1)YB4(2)シルト	掘り多量を含む	
4	黒褐色(1)YR3(1)シルト		



No.	土色・土性	掘人物など	備考
1	黒褐色(1)YR3(2)砂質シルト	掘りブロックを多量に含む	
2	黒褐色(1)YR3(2)砂質シルト	掘りブロックを多量に含む	
3	黒褐色(1)YR3(1)シルト	中層土に多い	SK241 覆砂土
4	掘りブロック	中層土に多い	
5	黒褐色(1)YR4(4)砂質シルト	掘り多量を含む	SD239 覆砂土



No.	土色・土性	掘人物など	備考
1	灰褐色(1)YB4(2)シルト	掘り多量を含む	
2	黒褐色(1)YR4(1)シルト	掘り多量を含む	人跡不明
3	黒褐色(1)YR4(2)粘土質シルト		

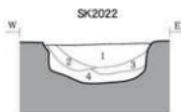


No.	土色・土性	掘人物など	備考
1	灰褐色(1)YB3(1)シルト	穴を含む	
2	黒褐色(1)YR3(2)シルト		

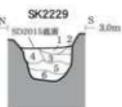


SK2335 産面銭貨「至道元寶」出土状況

図版198 D区土壌(2)



No.	土質・土性	埋人物など	備考
1	灰色土質(1)PYR3(1)硬質シルト	焼物類・土ワケ・遺物・フロックを多数含む	
2	灰褐色土(1)PYR3(2)シルト	焼物類・土ワケ・遺物・フロックを多数含む	人骨層
3	褐色土質(1)PYR3(2)硬質シルト	遺物・フロックを多数含む	
4	灰褐色土(1)PYR3(2)硬質シルト	焼物類・土ワケ・遺物・フロックを多数含む	自然層



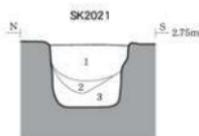
No.	土質・土性	埋人物など	備考
1	灰褐色土(1)PYR3(1)シルト	焼物・土ワケを含む	
2	灰褐色土(1)PYR3(2)シルト	焼物・土ワケを含む	
3	灰褐色土(1)PYR3(2)シルト	焼物・土ワケを含む	
4	灰褐色土(1)PYR3(1)シルト		
5	灰褐色土(1)PYR3(2)シルト		
6	灰褐色土(1)PYR3(1)硬質シルト		



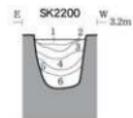
SK2022断面写真(南から)



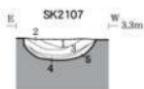
No.	土質・土性	埋人物など	備考
1	灰褐色土(1)PYR3(2)シルト	焼物・土ワケを含む	人骨層
2	灰色土質		
3	褐色土質(1)PYR3(1)シルト	焼物類・土ワケ・遺物・フロックを含む	自然層



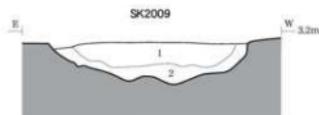
No.	土質・土性	埋人物など	備考
1	灰褐色土(1)PYR3(1)シルト	焼物類・土ワケ・遺物・フロックを多数含む	
2	褐色土質(1)PYR3(2)硬質シルト	焼物類・土ワケ・遺物・フロックを多数含む	自然層
3	灰褐色土(1)PYR3(1)硬質シルト	焼物類・土ワケ・遺物・フロックを多数含む	自然層



No.	土質・土性	埋人物など	備考
1	灰褐色土(1)PYR3(2)シルト	焼物・土ワケや炭化物を含む	
2	灰色土質	焼物・土ワケや炭化物を含む	人骨層
3	灰褐色土(1)PYR3(2)シルト	焼物・土ワケを含む	
4	灰色土・灰層		
5	焼物層・土ワケ	炭化物土を含む	埋物層
6	灰色土・灰層		人骨層



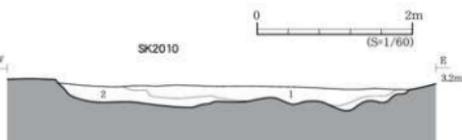
No.	土質・土性	埋人物など	備考
1	灰褐色土(1)PYR3(1)シルト	炭化物を多数、遺物・フロックを含む	人骨層
2	灰褐色土(1)PYR3(1)シルト	焼物・土ワケを含む	
3	灰褐色土(1)PYR3(1)硬質シルト	焼物・土ワケを多数、炭化物を含む	
4	灰色土質(1)PYR3(2)硬質シルト	焼物・土ワケを多く含む	
5	灰褐色土(1)PYR3(1)硬質シルト	炭化物を含む	自然層



No.	土質・土性	埋人物など	備考
1	灰褐色土(1)PYR3(1)シルト	炭化物を多数、焼物・フロックを含む	自然層
2	灰褐色土(1)PYR3(1)シルト	炭化物・焼物・フロックを多数含む	人骨層



SK2107断面写真(北から)

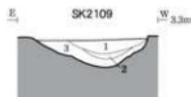


No.	土質・土性	埋人物など	備考
1	灰色土(1)PYR3(1)シルト	炭化物を多数、焼物・フロックを含む	
2	灰色土(1)PYR3(1)シルト	焼物・土ワケを多数含む	

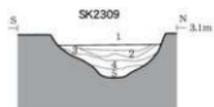
図版199 D区土壌(3)



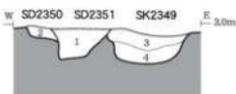
No.	土色・土性	埋人物など	備考
1	黒褐色(10YR3/2)シルト	焼土ブロックを多数に含む	
2	紅褐色(10YR3/3)粘壤土	炭化層ブロックを多く含む	人為堆積
3	黒褐色(10YR3/1)シルト		
4	焼土ブロック主体		焼土層上
5	褐色(10YR2/2)粘土質シルト	焼土ブロックを多数に含む	人為堆積
6	黒褐色(10YR3/2)シルト		自然堆積



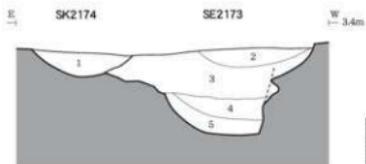
No.	土色・土性	埋人物など	備考
1	紅褐色(10YR3/3)粘壤土	炭化層ブロックや炭化物を含む	
2	紅褐色(10YR3/3)粘壤土	焼土ブロックを多数、炭化物を含む	自然堆積
3	黒褐色(10YR3/1)シルト	焼土ブロックや炭化物を含む	



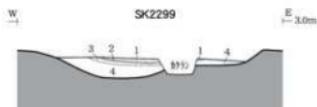
No.	土色・土性	埋人物など	備考
1	黒褐色(10YR3/2)シルト		自然堆積
2	黒褐色(10YR3/2)シルト		
3	黒褐色(10YR3/2)シルト		
4	黒褐色(10YR3/2)シルト	焼土ブロックを含む	
5	黒褐色(10YR3/2)シルト	焼土ブロックを多く含む	焼土層上



No.	土色・土性	埋人物など	備考
1	黒褐色(10YR3/2)シルト	炭化物を含む	SK2351粘壤土
2	黒褐色(10YR3/2)シルト	焼土ブロックを多数に含む	SK2350粘壤土
3	黒褐色(10YR3/2)シルト		SK2349粘壤土
4	褐色(10YR2/2)粘土質シルト	焼土ブロックを多数に含む	



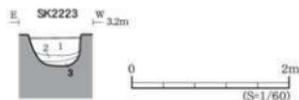
No.	土色・土性	埋人物など	備考
1	黒褐色(10YR3/1)シルト	炭化物を含む	SK2174 粘壤土
2	紅褐色(10YR3/3)粘壤土	炭化層ブロックを含む	
3	黒褐色(10YR3/1)シルト	焼土ブロックを多数に含む	SE2173 粘壤土
4	灰アレーン色(10YR6/2)砂	焼土ブロックを含む	
5	紅褐色(10YR3/3)粘壤土	焼土ブロックを含む	



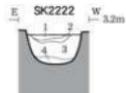
No.	土色・土性	埋人物など	備考
1	黒褐色(10YR3/2)砂質シルト		
2	赤化層		
3	黒褐色(10YR3/1)砂質シルト		
4	黒褐色(10YR3/1)粘土質シルト	黒褐色シルトを含む	



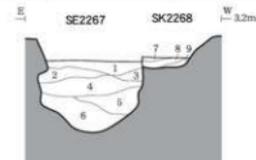
SK2299 堆積土土師出土状況



No.	土色・土性	埋人物など	備考
1	黒褐色(10YR3/1)シルト	焼土ブロックを多数に含む	人為堆積
2	黒褐色(10YR3/1)シルト	焼土層を若干含む	
3	黒褐色(10YR3/1)シルト		

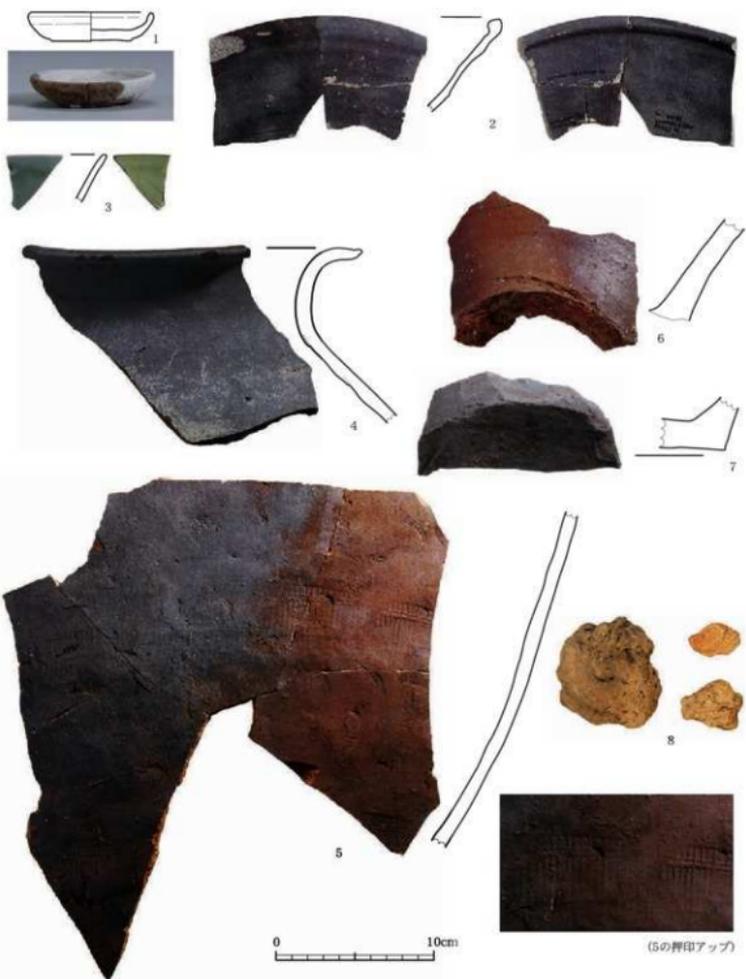


No.	土色・土性	埋人物など	備考
1	黒褐色(10YR3/1)シルト	焼土ブロックを含む	
2	赤化層・炭層	焼土ブロックを含む	人為堆積
3	黒褐色(10YR3/1)シルト		
4	赤化層・炭層		



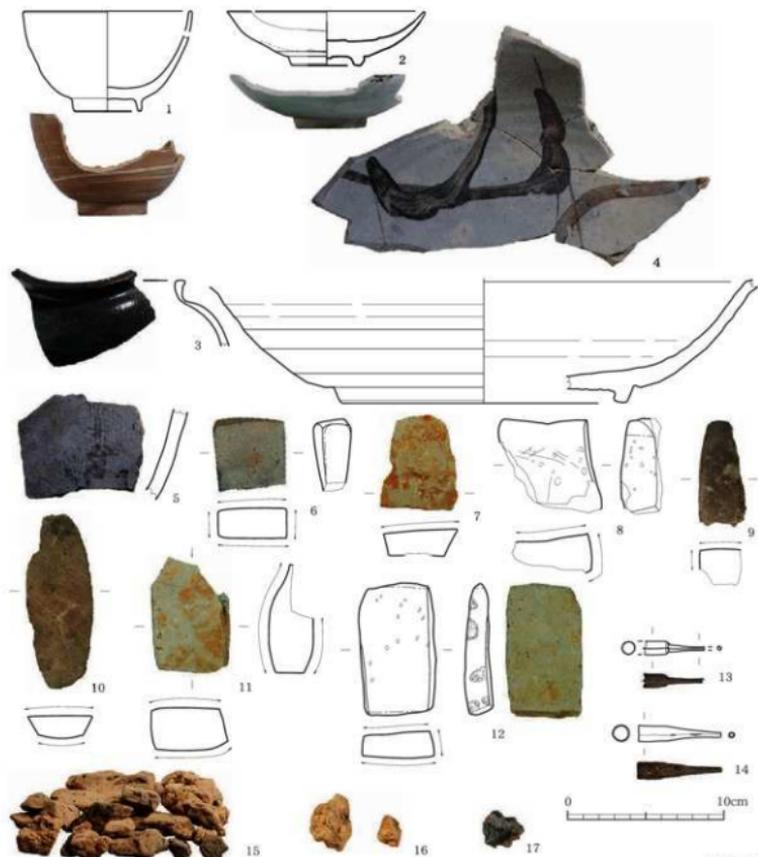
No.	土色・土性	埋人物など	備考
1	黒褐色(10YR3/2)シルト		
2	黒褐色(10YR3/2)シルト		
3	黒褐色(10YR3/1)シルト	焼土ブロックを多数に含む	SE2267 粘壤土
4	黒褐色(10YR3/2)シルト	焼土ブロックを含む	
5	黒褐色(10YR3/2)シルト		
6	オリーブ褐色(10Y3/2)シルト	焼土ブロックや中粒砂を多数に含む	
7	黒褐色(10YR3/2)シルト		
8	黒褐色(10YR3/2)シルト	焼土層を若干含む	SK2268 粘壤土
9	黒褐色(10YR3/1)シルト		

図版200 D区土壌 (4)



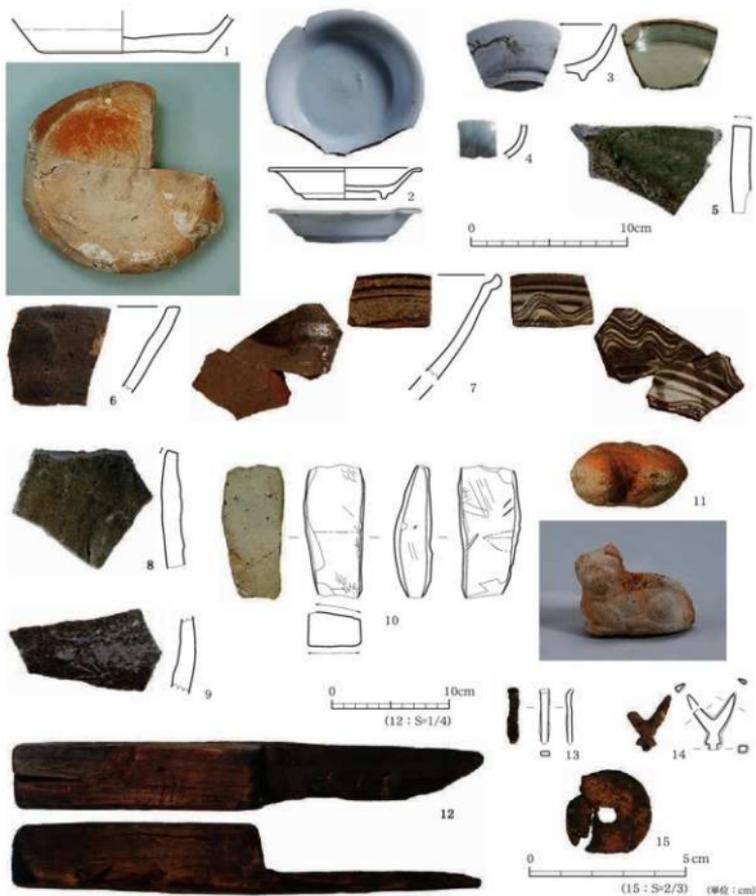
No.	出土遺物・層位	種別	器種	産地	特 徴	登録
1	SK2010 1層	ロクロかわらび	小皿		口縁(8.0) 底径(4.8) 器高1.8 残存2/5 ロクロナデ 底・回転糸切	03057
2	SK2230 産種土	陶器	腰鉢		脚目 SP2211と符合	04306
3	SK2112 1層	青磁	椀	瀬田産系	【大塚的分類1類c】	04325
4	SK2009 1層	陶器	甕	常陸	【定形2形式別】 5と同一器体	03054
5	SK2009 2層	陶器	甕	常陸	押区(裏面) 4と同一器体	03053
6	SK2001 1層	陶器	片口鉢	常陸		03049
7	SK2007 1層	陶器	甕	常陸		03052
8	SK2010 1層	埴土				03058

図版201 D区土壌出土遺物(1)



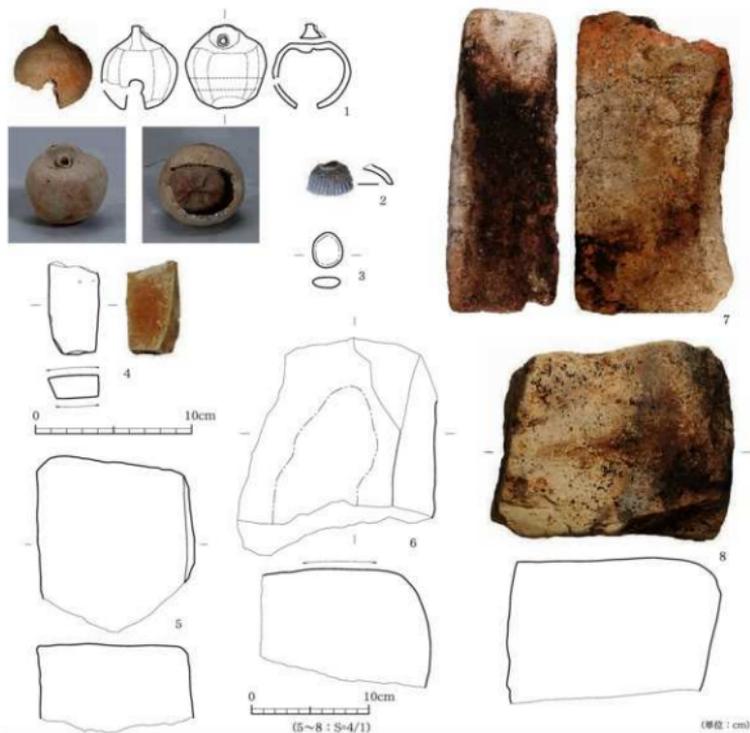
No.	出土遺構・層位	種別	材質	産地	特徴	数量	登録
1	SK2168 堆積土	陶器	陶	肥前	口径10.6 高台径4.2 器高6.4 残存1/3		04377
2	SK2168 堆積土	磁器	磁	肥前	【17cm~18cm前後】		04338
3	SK2157 堆積土	陶器	小甕	肥前	器?		04330
4	SK2153 堆積土	陶器	笠形鉢	瀬戸産	高台径18.0 【17cm後半】		04318
5	SK2111 堆積土	陶器	甕	阿蘇産	阿蘇産		04326
6	SK2257 堆積土	石製品	砥石		長4.4 幅4.4 厚1.9		04404
7	SK2156 堆積土	石製品	砥石		長(6.1) 幅(4.3) 厚(1.0)		04334
8	SK2111 堆積土	石製品	砥石		長(5.4) 幅(5.1) 厚(1.8)		04327
9	SK2174 堆積土	石製品	砥石		長6.6 幅2.6 厚2.2		04349
10	SK2156 堆積土	石製品	砥石		長11.1 幅4.2 厚1.4		04333
11	SK2157 堆積土	石製品	砥石		長(7.0) 幅(5.0) 厚(2.8)		04331
12	SK2188 堆積土	石製品	砥石		長8.5 幅4.7 厚1.6		04350
13	SK2157 堆積土	銅製品	半七尺(銀+17)		長(4.0) 口径0.3~8.5		04352
14	SK2257 堆積土	銅製品	半七尺(銀+13)		長(5.2) 口径0.3~1.0		04394
15	SK2004 土層	埴土					03056
16	SK2004 土層	埴土					03050
17	SK2004 土層	鉄滓					03051

図版202 D区土壌出土遺物(2)



No.	出土遺構・層位	種別	器種	産地	特 徴	登 録 号
1	SK2250 堆積土	陶器	煎鉢中皿	瀬戸	底径11.0 残存：一部 底：煎鉢形 底径：煎鉢形 【瀬戸中皿or中皿期】	04391
2	SK2240 堆積土	磁器	燗風呂	瀬戸	口径9.8 高台径5.1 器高2.0 残存：3/4 内部底に厚印【19c中皿】	04396
3	SK2271 堆積土	染付	皿		濃緑彩	04410
4	SK2213 堆積土	青白磁	小皿			04308
5	SK2308 堆積土	転用磁	転用磁		常滑産赤土磁石に転用	04433
6	SK2271 堆積土	陶器	井口鉢	在池?		04409
7	SK2271 堆積土	陶器	大皿	野洲	【17c末～18c前半】	04348
8	SK2290 築込付	転用磁	転用磁		常滑産赤土磁石に転用	04426
9	SK2311 堆積土	陶器	甕	宮内	押印（菊文様）	04435
10	SK2271 堆積土	石製品	砥石		径8.4 幅3.4 厚2.2	04411
11	SK2217 堆積土	土製人形	甕		径5.2 器高4.0 幅2.3	04581
12	SK2313 堆積土	木製品	匣材		径139.23 幅5.5	04617
13	SK2341 堆積土	鉄製品	釘		長3.6 幅0.5 厚0.3	04439
14	SK2309 堆積土	鉄製品	鉄鏝		残存長3.7	04434
15	SK2261 堆積土	鉄製品	鏝?			04422

図版203 D区土坑出土遺物(3)



No.	出土溝・層位	種別	量・備	数	登録
1	SK2299 堆積土	土製品	土鈿	径3.4 残存高3.6 残存:3/4	04479
2	SK2299 堆積土	白磁	合子蓋?		04431
3	SK2299 堆積土	石製品	碁石?	径1.2 厚0.5	04432
4	SK2299 堆積土	石製品	砥石	径5.7 幅2.2 厚1.5	04430
5	SK2225 堆積土	石製品	切石	径(1.6) 幅(1.4) 厚(1.5)	04558
6	SK2225 堆積土	石製品	砥石	径(15.9) 幅(14.9) 厚(9.5)	04559
7	SK2225 1層	石製品	切石	径(51.4) 幅(27.5) 厚(17.1)	04556
8	SK2225 堆積土	石製品	切石	径(14.8) 幅(8.1) 厚(11.8)	04557

図版204 D区土壌出土遺物(4)

形は隅丸方形の1基(SK2286)を除くと円形もしくは楕円形である。深さは0.1~0.7mあるが、0.5m未満のものがほとんどである。断面形は箱形が23基と多く、ほかは皿形が9基、逆台形12基、楕円形11基とほぼ同数認められる。堆積土は自然堆積が多いが、ほかに自然堆積ののち人為的に埋め戻されるもの(SK2021~2023・2197・2200・2222)や人為的に埋め戻されるもの(SK2223)がある。

遺物は堆積土から出土している(図版201~204)。SK2001の1層から在地産珪、SK2012・2114・2186の堆積土からロクロかわらけ、SK2160堆積土から白磁碗、SK2188堆積土から砥石(図版202-12)、SK2200堆積土から手づくねかわらけ皿、SK2240堆積土から瀬戸産磁器端反皿(図版2

遺構No.	平面形	断面形	規模(m)	高さ(m)	分類	堆積土の状況	出土遺物	備考	図No.
S K 1754	円形	逆台形	1.7×1.6	0.8	2	自然→人海			139
S K 2001	円形	箱形	4.0×0.3	0.2	3	自然	1層) 在地裏		144
S K 2004	円形	箱形	1.7×1.5	0.8	2	自然→人海	4層) 磁石、壘土 3層) 壘土、硬土 2層) ロクロ小皿 1層) ロクロ		144 197
S K 2005	楕円形	箱形	2.1×0.5	0.2	4	自然		S K 2005→S D 2020	144
S K 2006	円形	箱形	径1.7	0.2	2	自然	1層) ロクロ		144 198
S K 2007	円形	楕円形	径2.7	0.8	2	自然	2層) ロクロ皿状高台皿 1層) 在地裏		143 197
S K 2008	楕円形	箱形	1.8×0.5	0.2	4	自然	2層) ロクロ小皿 1層) ロクロ小皿		144
S K 2009	楕円形	箱形	1.7×0.7	0.4	4	自然	2層) 常滑焼、ロクロ小皿 1層) 常滑焼、ロクロ		144 199
S K 2010	楕円形	箱形	3.0×1.0	0.2	4	自然	1層) ロクロ小皿・皿、常滑焼、壘土	S K 2010→S K 2009	144 199
S K 2012	円形?	箱形	1.6×0.5以上	0.1	3	自然	1層) ロクロ	S K 2012→S E 2011	144 177
S K 2014	円形?	楕円形	1.2×0.5以上	0.8	2				40
S K 2015	楕円形	箱形	3.9以上×1.7	0.6	4	自然→人海	2層) 染付皿 1層) 陶器	遺物類	40
S K 2019	円形	箱形	0.4×0.5	0.1	3	自然?			144
S K 2021	円形	箱形	0.7×0.6	0.2	3	自然→人海			40 199
S K 2022	円形?	楕円形	0.9×0.2以上	0.4	3	自然→人海			40 199
S K 2023	円形	箱形	0.9×0.8	0.4	3	自然→人海			40
S K 2103	円形	箱形	1.8×1.7	0.4	2	自然		S K 2103→S X 1397	143
S K 2106	不整形円形	箱形	1.4×0.7	0.2	2	自然	境) ロクロ		143
S K 2107	円形?	箱形	0.9×0.7以上	0.2	3	自然			144 199
S K 2108	楕円形	逆台形	2.4×2.0	0.8	2	自然→人海			144 192
S K 2109	楕円形	楕円形	径1.6	0.4	2	自然	境) ロクロ		144 200
S K 2111	円形?	箱形	1.9×1.5以上	0.4	2	自然	境) ロクロ、常滑焼、磁石	S K 2111→S K 2112 遺物類	144 197
S K 2112	円形	楕円形	1.9×1.7	0.3	2	自然	1層) 染付皿、陶器類、青磁類	S K 2111→S K 2112	144
S K 2114	円形	逆台形	0.6	0.3	3	自然	境) ロクロ		143
S K 2115	楕円形	楕円形	径0.7	0.2	3	自然			143
S K 2122	楕円形?	楕円形?	1.5以上×1.4	0.2	2			S K 2122→S D 2020	143
S K 2124	円形	逆台形	径0.6	0.2	3				143
S K 2125	円形	逆台形	径0.6	0.2	3				143
S K 2145	楕円形	楕円形	1.1×0.8	0.3	3	自然		S D 2020→S K 2145	139
S K 2146	楕円形	逆台形	2.0×1.0	0.2	2	自然	境) 瀬戸焼・土人形	S E 2125→S K 2125 遺物類	141 178
S K 2155	楕円形	箱形	1.8×1.0	0.2	2	自然	境) 磁石	S K 2156→S K 2155→S K 2156 遺物類	141 197
S K 2156	楕円形	箱形	1.7×1.4	0.3	2	自然	境) 磁石		141 197
S K 2157	楕円形	箱形	1.6以上×1.4	0.3	2	自然	境) 磁石、陶器類、常滑三筋壺・片口鉢、漆器、キセル、磁石	S K 2156→S K 2157→S K 2156 遺物類	141 197
S K 2158	円形	逆台形	1.6×1.4	0.6	2	自然		S K 2158→S K 2157→S K 2156	141 197
S K 2160	円形	箱形	径1.9	0.2	3	自然	境) 白磁類		139
S K 2166	楕円形	箱形	2.5以上×1.5	0.2	2	自然	境) 肥前・海・陶 [18C]、肥前・海・皿 [17C末～18C前半]、染付皿・皿	S E 2167→S K 2167 遺物類	139
S K 2174	楕円形	楕円形	1.8×1.2	0.3	2	自然	境) 陶器類、染付皿、磁石	S E 2173→S K 2174 遺物類	139 200
S K 2175	楕円形	箱形	1.9×0.7	0.1	3	自然			139
S K 2176	楕円形	箱形	1.9×0.8	0.1	3	自然			139
S K 2177	円形	逆台形	径0.9	0.2	3	自然			139
S K 2181	楕円形	箱形	1.9×1.8	0.4	1	自然		S E 2180→S K 2181	139
S K 2182	楕円形	楕円形	1.9×1.8	0.5	2	自然			141
S K 2183	楕円形	逆台形	3.0×2.4	1.3	1	自然→人海	下層) ロクロ皿・小皿、在地片口鉢、常滑焼、転用磁、クワ上型壺 下層) 青磁類、白磁類、常滑焼、在地裏、稱物、高砂、磁石、磁石、モモ枝 中層) 在地片口鉢、ロクロ皿、磁物、磁石、モモ枝 上層) 瀬戸焼中鉢中皿、常滑焼、在地片口鉢・壺、ロクロ、釘、鉄敷、壺、磁石 境) 青磁類、在地片口鉢、常滑焼、ロクロ	S K 2183→S K 2182 遺物類	142 185
S K 2185	円形	楕円形	径1.0	1.0	1	自然→人海	3層) 等、稱物、手づくお小皿 1層) 手づくお小皿→皿、ロクロ小皿→皿、壘土、磁石	S K 2185→S K 2186・S E 2187 遺物類	144 185
S K 2186	円形	楕円形	1.8×1.4	0.5	2	自然	境) ロクロ	S K 2185→S K 2186・S E 2187	144 185
S K 2188	円形?	箱形	0.7×0.6以上	0.2	3	自然	境) 磁石	S K 2188→S E 2173	139
S K 2190	円形	箱形	2.6×2.4	1.5	2	自然	境) 海・陶・磁器類 [17C後半～18C初]、瀬戸焼・海・変形壺 [17C前半]、染付、常滑三筋壺、S02150→SK2190 遺物類		141 193
S K 2191	円形	逆台形	2.2×1.9	0.6	2	自然	境) 陶器類	S D 2190→S K 2191 遺物類	141
S K 2192	円形	箱形	0.8×0.7	0.2	3	自然			144
S K 2193	円形	箱形	径0.8	0.2	3	自然			144
S K 2194	長方形	箱形	3.0×1.2	0.2	4	自然	境) 常滑焼、ロクロ	S D 2207→S K 2194	142
S K 2196	円形	逆台形	3.1×3.0	0.6	1	人海	境) 陶器類・鉢、常滑焼、モモ枝	S D 2195→S K 2196 遺物類	141
S K 2197	円形	箱形	0.8×0.7	0.2	3	自然→人海			144 199
S K 2200	円形	箱形	0.7×0.6	0.2	3	自然→人海	境) 手づくお皿		144 199
S K 2201	円形	逆台形	0.9×0.8	0.5	3	人海			142
S K 2205	楕円形	箱形	1.8×1.7	0.3	2	自然			142
S K 2209	不整形円形	逆台形	9.0以上×6.9	1.3	1	自然	境) 漆類、ロクロ皿・小皿、在地片口鉢、常滑焼、転用磁、クワ上型壺 下層) 青磁類、白磁類、常滑焼、在地裏、稱物、高砂、磁石、磁石、モモ枝 中層) 在地片口鉢、ロクロ皿、磁物、磁石、モモ枝 上層) 瀬戸焼中鉢中皿、常滑焼、在地片口鉢・壺、ロクロ、釘、鉄敷、壺、磁石 境) 青磁類、在地片口鉢、常滑焼、ロクロ	S D 2208→S K 2209→S K 2213 遺物類	142 188
S K 2213	楕円形	逆台形	4.7×3.7	1.2	1	自然	下層) 常滑焼、肥前・陶 境) 青白磁類、常滑焼	S D 2208→S K 2209→S K 2213 遺物類	142 197
S K 2214	円形	逆台形	1.9×1.8	0.2	2	自然	境) 染付皿、陶器類・磁類、土人形(壺)、赤製品、モモ枝	遺物類	144
S K 2217	円形	箱形	2.3×2.1	0.2	2	自然			144
S K 2220	円形?	箱形	0.6以上×0.6	0.2	3	自然		S K 2220→S D 2215	144
S K 2221	円形	逆台形	径0.9	0.2	3	自然			144
S K 2222	円形	箱形	0.7×0.6	0.5	3	自然→人海			144 200
S K 2223	円形	箱形	0.8×0.7	0.4	3	人海			144 200

第9表 D区土壌属性表(1)

遺構No.	平面形	断面形	規模(m)	深さ(m)	分類	堆積土の状況	出土・産物	備考	面%	
									平面	断面
S-K2225	円形	圓形	径2.0	0.5	2	自然+人為	1層) 発付筒、切石、産物、灰石	遺構層	40	198
S-K2226	円形	圓形	0.8X0.7	0.5	3				40	
S-K2227	楕円形	圓形	1.2X0.9	0.3	2				142	
S-K2228	円形?	圓形	径0.57	0.2	3	自然			142	
S-K2229	円形	圓形	径1.3X1.6	0.6	3	自然		S-K2229→S-D2015	142	199
S-K2230	逆台形	圓形	径2.3X1.6	0.4	2	自然	壁) 土層-障鉢、障鉢鉢	遺構層	142	198
S-K2231	楕円形	逆台形	1.8X1.0	0.4	2	自然		S-K2230→S-D2232→S-K2231	142	
S-K2236	楕円形	逆台形	5.0X4.0	1.3	1	自然+人為	9層) 同定不能骨 7層) ログロ小皿 1~6層) ログロ小皿・皿、モモ核	遺構層	141	191
S-K2240	楕円形	圓形	1.0X0.7	0.4	3	自然	壁) 障戸・障反瓦【19C中頃】、発付筒、色陶、障蓋鉢、障鉢、敷瓦土器灰塔	S-K2242→S-K2240 遺構層	141	
S-K2242	楕丸方形	逆台形	1.8X1.1	0.2	2	自然	障) 障蓋鉢	S-K2242→S-K2240	141	
S-K2243	不整形楕円形	楕圓形	1.7X1.2	0.4	2	自然		S-K2246→S-K2250→S-K2243	141	198
S-K2246	楕円形	逆台形	10.1X7.2	1.3	1	自然	4層) 常滑三筋瓦・壁、在地片鉢・壁、碇石 3層) モモ核 2層) 在地差・壁、常滑片口鉢・瓦、モモ核 1層) 障戸障鉢鉢・瓦、在地差、常滑三筋瓦・壁、モモ核、動物遺体(障) 在地差	S-K2246→S-D2247→S-D2165 S-K2246→S-K2250→S-K2243	141	191
S-K2250	円形	楕圓形	2.0X1.5以上	0.6~1.1	2	自然+人為	障) 障戸瓦葺・障蓋鉢深皿、肥前-発付筒【18C】	S-K2246→S-K2250→S-K2243 北面の底が一段低い 遺構層	141	198
S-K2251	楕丸方形	圓形	1.4X1.1	0.2	2				142	
S-K2252	円形	逆台形	1.1X1.0	0.4	3	人為	障) 発付筒、紙石、ハマダ製瓦	遺構層	142	
S-K2253	楕円形	逆台形	5.4X3.7	1.0	1	自然+人為	4・5層) 常滑焼 1・2層) 肥前発付筒【17C末~18C初】、障蓋鉢・皿、モモ核(障) 出石、障蓋鉢、発付筒	北側に約4.0mの溝が取付く 遺構層	142	193
S-K2256	円形	逆台形	径1.8	0.5	2	自然+人為	障) モモ核	遺構層	139	
S-K2257	不整形楕円形	楕圓形	2.6X2.0	1.1	2	自然+人為	障) 発付筒、常滑焼、碇石	遺構層	139	200
S-K2258	楕円形	圓形	2.8X1.5	0.6	2	自然+人為	障) 発付筒、障蓋鉢(障)瓦器大鉢? 障蓋鉢・障鉢、肥前-発付筒【18C前半】・敷瓦器【17C末】、瓦、碇石	S-K2260→S-K2258 遺構層	139	195
S-K2260	円形?	楕圓形	1.3X0.8以上	0.2	2	自然			139	195
S-K2261	楕円形	圓形	1.6X1.3	0.3	2				139	
S-K2262	円形	逆台形	径0.8	0.4	3			S-D2262→S-K2263	139	
S-K2265	円形?	逆台形	径0.7以上X0.6	0.2	3			S-D2262→S-K2265→S-K2266	139	
S-K2266	円形	逆台形	1.0X0.8	0.4	3				139	
S-K2268	円形?	逆台形	径0.9以上X0.9	0.6	3	自然		S-K2268→S-E2267	139	200
S-K2271	不整形楕円形	楕圓形	8.4X6.4	1.0	1	自然	障) 肥前-障大皿【17C末~18C前半】、瓦器大鉢? 障蓋鉢(皿)小皿・大鉢、発付筒・皿、常滑焼、在地片鉢、転瓦鉢、碇石、モモ核	障) 肥前-障大皿【17C末~18C前半】、瓦器大鉢? 障蓋鉢(皿)小皿・大鉢、発付筒・皿、常滑焼、在地片鉢、転瓦鉢、碇石、モモ核	39	
S-K2274	円形	楕圓形	径1.0	0.3	3	自然			140	
S-K2278	円形?	圓形	径0.89	0.4	3	自然		S-K2278→S-E2279	140	179
S-K2281	不整形円形	圓形	径0.6	0.3	3				140	
S-K2286	楕丸方形	圓形	径1.0	0.3	3				140	
S-K2289	円形	圓形	径1.2X1.0	0.5	2				140	
S-K2290	不整形楕円形	逆台形	1.4X0.8	0.6	2	自然	底付遺) 転瓦鉢		140	
S-K2294	楕円形	逆台形	2.3X2.0	0.2	2	人為?	障) 障戸瓦葺・障蓋鉢組【17C後半】、土師瓦土器土器 障) 発付筒、障蓋鉢(障) 障蓋鉢鉢、碇石	障) 底面の壁は、土師瓦を下に2枚重ねて出土した。SD2291→SD2292→SK2294→SK2295 遺構層	140	195
S-K2296	楕円形	圓形	2.1X1.8	0.2	2	自然		S-D2291→S-D2292→S-K2294→S-K2295 遺構層	140	
S-K2297	楕円形	楕圓形	1.0X0.7	0.3	3				140	
S-K2298	楕円形	圓形	径2.7X1.7	0.2	2				142	
S-K2299	楕円形	圓形	2.4X2.1	0.2	2	自然+人為	障) 障蓋鉢子、障蓋鉢・鉢? 土師、碇石、碇石?		140	200
S-K2300	楕丸方形	逆台形	6.4X5.7	1.2	1	自然+人為	障) ウマ土器遺 障) 常滑三筋瓦・片口鉢、ログロ、切石、碇石、穴きり板、障(障) 常滑片口鉢・瓦	遺構・IV層	140	193
S-K2303	不整形楕円形	逆台形	8.3以上X3.3	1.2	1	自然+人為	4層) 障蓋鉢、障鉢、障鉢子 3層) 常滑遠赤土器、障鉢、障 2層) 常滑焼、障蓋鉢、常滑焼、障 1層) 元器遺(初編1078年)	S-K2342→S-K2303→S-D2338 遺構層	140	193
S-K2304	楕円形	楕圓形	1.1X0.7	0.3	3			S-K2304→S-K2323	140	
S-K2308	円形	圓形	径0.8	0.2	3				140	
S-K2309	楕円形	楕圓形	1.8X1.1	0.4	2	自然	障) 転瓦鉢		140	200
S-K2311	楕円形	逆台形	5.0以上X1.9	0.5	1	自然	障) 常滑焼、障蓋鉢	遺構層	39	
S-K2314	円形	楕圓形	径0.7	0.3	3	自然			141	
S-K2323	円形	逆台形	径1.7	0.5	2			S-K2304→S-K2323	140	
S-K2324	円形	圓形	径0.9X0.8	0.4	3	自然		S-K2324	140	
S-K2325	円形	圓形	径0.47	0.2	3			S-K2335→S-D2261	140	
S-K2326	楕円形	楕圓形	径0.6	0.2	3	自然			139	
S-K2327	楕円形	圓形	径0.9X0.6	0.2	3	自然			140	
S-K2330	円形?	円形	径1.1以上X1.0以上	0.9	2	自然			140	198
S-K2341	円形	圓形	径0.6X1.8	0.4	2	人為	障) 障戸・障反瓦、土師瓦土器鉢? 鉄製品	S-K2339→S-D2342→S-K2341 遺構層	140	198
S-K2345	楕円形	圓形	径1.2X0.8	0.3	2	自然		S-D2340→S-K2345	140	
S-K2346	楕円形	圓形	径0.7X0.5	0.1	3	自然		S-D2340→S-D2339→S-K2346	140	
S-K2347	円形	圓形	径0.8	0.3	3	自然		S-K2347→S-D2343	140	
S-K2349	円形	円形	径0.5以上	0.5以上	1	自然		SK2349→SD2343→SD2363→遺構層	140	
S-K2349	円形?	逆台形	径1.1以上X1.1	0.4	3	自然		S-D2358→S-K2349→S-D2351	140	200
S-K2358	楕円形	逆台形?	径0.6X2.4	0.8以上	4	人為		SD2363→2366→SK2358 近代以降	142	41
S-K2368	楕円形	逆台形	径0.9X0.3	0.2	3				141	

※ 出土産物のログロはログロかわらけ、手づくおは手づくおかわらけ、在地は宮城郡内の在地差で生産された中世陶器を指す

※ 出土産物の障蓋鉢は近世陶器を指す

第10表 D区土壌属性表(2)

03-2)、染付碗、色絵、陶器碗・播鉢や軟質施釉土器焙烙、SK2242堆積土から磁器碗、SK2252堆積土から染付碗、砥石やハマグリ殻、SK2308堆積土から転用砥(図版203-5)が出土している。

4類：長辺もしくは長径が1.7m以上、短辺はその1/2以下となる長方形や楕円形の土壇(図版199)

7基検出した。調査区の南端に5基(SK2005・2008~2010・2018)集中しており、他の2基は中央部(SK2194)と北部(SK2358)の東端に位置する。規模は長径が1.7~5.6m、短径は0.5~2.4mで、深さは6基が0.2~0.6m、1基は0.8m以上あり、断面形は南端の5基が皿形、ほかは箱形(SK2194)と逆台形(SK2358)である。堆積土は4基が自然堆積で、自然堆積ののち人為堆積と人為堆積が1基ずつ認められる。

遺物はSK2008の2層と1層からロクロかわらけ小皿、SK2009の2層からロクロかわらけ小皿や常滑産甕(図版201-5)、1層からロクロかわらけや2型式期の常滑産甕(図版201-4)、SK2010の1層からロクロかわらけ小皿(図版201-1)・皿、常滑産甕や壁土(図版201-8)、SK2018の2層から染付皿、1層から陶器、SK2194堆積土からロクロかわらけや常滑産甕が出土している。

d. 溝跡

47条検出した。このうちSD2015は区画溝跡の項で述べた。ここではSD2020・2113・2150・2165・2195について記述し、個々のデータは第11・12表にまとめた。

【SD2020A・B溝跡】(図版39・205)

D区西側で確認した南北溝跡で、SX1397遺物包含層の東岸に沿って南北に延びており、126.9m分を検出した。2時期(A→B)の変遷があり、5区のSD1495溝跡と一連の遺構と考えられる。SB2421建物跡、SD2104・2113・2150・2165溝跡より古い。B期は上幅0.7~1.6m、下幅0.3~0.4m、深さは0.6mある。方向はN-10°~18°-Wで、断面形は逆台形である。A期はB期とほぼ同じとみられる。堆積土は3層に分けられ、褐灰色シルトを主体とする。いずれも自然堆積とみられる。

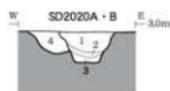
遺物はB期堆積土から出土している(図版206)。3層から龍泉窯系青磁銘蓮弁文碗(1)、常滑産甕やモモ核、2層から常滑産甕(6)、在地甕やロクロかわらけ、1層からロクロかわらけ、在地産片口鉢(3)、常滑産三筋壺(5)・甕(4・7・9)、土錘(12)やウマ下顎歯、堆積土から常滑産片口鉢・甕、渥美産甕(8)、在地産甕、龍泉窯系青磁碗(2)、ロクロかわらけ、砥石(11)やウマ下顎骨が出土している。

【SD2113溝跡】(図版40)

D区南部で確認した東西溝跡で、40.0m分を検出した。『Ⅲ』で報告したSD2248溝跡と一連の遺構である可能性がある。SB2440建物跡、SD2020溝跡より新しく、SE2199井戸跡、SD2015溝跡より古い。上幅1.0m、下幅0.5m、深さは0.3mある。方向はE-8°-N前後で、断面形は逆台形である。堆積土は2層に分けられ、黒褐色シルトを主体とする。いずれも自然堆積とみられる。確認面から常滑産甕(図版207-14)、在地産片口鉢(図版207-6)・甕やロクロかわらけが出土している

【SD2150溝跡】(図版40・205)

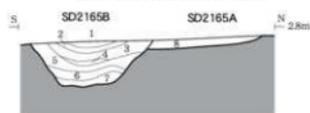
D区中央部で確認した東西溝跡で、46.0m分を検出した。北には2.0m前後の間隔で併行するSD2



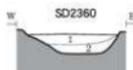
No.	土色・土性	掘入物など	備	考
1	褐色色 (DPYR4) シルト	掘出ブロックを含む		3階基礎
2	褐色色 (DPYR3) シルト			3階基礎
3	褐色色			3階基礎
4	褐色色 (DPYR4) シルト	掘出ブロックを含む		人工基礎土



SD2020A・B断面写真 (南から)



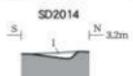
No.	土色・土性	掘入物など	備	考
1	褐色色 (DPYR4) シルト			
2	褐色色 (DPYR3) 粘土層シルト	掘出ブロックを含む		
3	褐色色 (DPYR2) 粘土層シルト			
4	褐色色 (DPYR2) 粘土層シルト		SD2165B 基礎土	
5	褐色色 (DPYR2) 粘土層シルト	掘出ブロックを含む		
6	褐色色 (DPYR2) 粘土層シルト			
7	褐色色 (DPYR2) 粘土層シルト			
8	褐色色 (DPYR4) 粘土層シルト		SD2165A 基礎土	



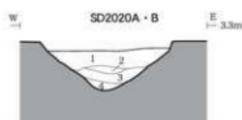
No.	土色・土性	掘入物など	備	考
1	褐色色 (DPYR3) シルト	掘出ブロックを含む		
2	褐色色 (DPYR2) 粘土層シルト	掘出ブロックを多数に含む		



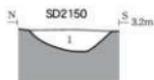
No.	土色・土性	掘入物など	備	考
1	褐色色 (DPYR3) シルト			
2	褐色色 (DPYR2) 粘土層シルト	掘出ブロックを含む		



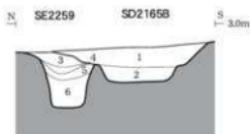
No.	土色・土性	掘入物など	備	考
1	褐色色 (DPYR4) シルト	掘出ブロック・掘出ブロックを多数含む		1.5階基礎



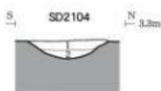
No.	土色・土性	掘入物など	備	考
1	褐色色 (DPYR6) シルト	掘出ブロックを含む		3階基礎
2	褐色色 (DPYR4) シルト	掘出ブロックを含む		3階基礎
3	褐色色 (DPYR4) シルト	掘出ブロックを多数に含む		3階基礎
4	褐色色 (DPYR4) 粘層シルト	掘出ブロックを含む		



No.	土色・土性	掘入物など	備	考
1	褐色色 (DPYR4) 粘土層シルト	掘出ブロックを多数含む		



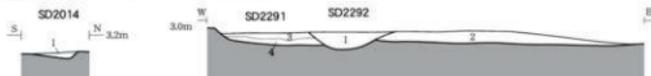
No.	土色・土性	掘入物など	備	考
1	褐色色 (DPYR4) シルト			SD2165B 基礎土
2	褐色色 (DPYR3) シルト	掘出ブロックを含む		
3	褐色色 (DPYR3) シルト	掘出ブロックを含む		
4	褐色色 (DPYR2) 粘土層シルト	掘出ブロックを含む		SE2259 基礎土
5	褐色色 (DPYR2) 粘土層シルト	掘出ブロックを含む		
6	褐色色 (DPYR2) 粘土層シルト	掘出ブロックを含む		



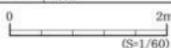
No.	土色・土性	掘入物など	備	考
1	褐色色 (DPYR5) シルト			自然降積
2	褐色色 (DPYR3) 粘土層シルト			



No.	土色・土性	掘入物など	備	考
1	褐色色 (DPYR3) シルト			
2	褐色色 (DPYR2) シルト	掘出ブロックを多数に含む		



No.	土色・土性	掘入物など	備	考
1	褐色色 (DPYR4) シルト			SD2292 基礎土
2	褐色色 (DPYR4) シルト	掘出ブロックを含む		
3	褐色色 (DPYR3) シルト			
4	褐色色 (DPYR4) シルト			SD2291 基礎土



図版205 D区溝跡



(7の押印アップ)

(単位: cm)

No.	出土層位	種別	器種	産地	特徴	登録番号
1	B期 3層	青磁	編織付文輪	瀬戸	【大卒府分館目録】	04452
2	B期 焼結土	青磁	焼	瀬戸	瀬戸系	04457
3	B期 1層	陶器	片口鉢	存地	斜め方向へのナデ	03060
4	B期 1層	陶器	甕	常陸	木口工具によるナデ(ハケム様)	04455
5	B期 1層	陶器	三筋壺	常陸	伎師(平瀬)	04447
6	B期 2層	陶器	甕	常陸	押印	04453
7	B期 1層	陶器	甕	常陸		04446
8	B期 焼結土	陶器	甕	瀬戸	押印(曇状)	04454
9	B期 1層	陶器	甕	常陸	押印(曇状)	04456
10	B期 焼結土	陶器	片口鉢	常陸	斜めナデ	04448
11	B期 焼結土	石製品	砥石		長さ1 幅0.5 厚0.8	04458
12	B期 1層	土製品	土師		長さ1 幅0.6 厚0.8 残存: 1825完布	03059

図版206 SD2020A・B溝跡出土遺物

195溝跡がある。SD2020溝跡より新しく、SK2190土壌より古い。上幅0.6~1.0m、下幅0.3~0.5m、深さは0.2~0.3mある。方向はE-15°-N前後で、断面形は皿形である。堆積土は褐灰色シルトで自然堆積と考えられる。確認面から陶器鉢が出土している

【SD2165溝跡】(図版40・205)

D区北部で確認した東西溝跡で、66.0m分を検出した。2時期(A→B)の変遷があり、SD2363区画溝跡、SE2255・2259井戸跡、SK2246土壌、SD2020・2247溝跡、SX1397遺物包含層より新しく、SD1633区画溝跡、SB2421建物跡、SE2161・2162・2244井戸跡、SD2366溝跡より古い。B期の幅は1.6~2.0m、下幅0.7m、深さは0.6mある。方向はE-10°~20°-Nで、断面形は逆台形である。A期は上幅や下幅はB期と同じとみられるが、深さは0.1mと浅い。堆積土は灰黄褐色シ



No.	出土遺物・部位	類別	器・種	常・地	特	備	登録
1	SD2165 埴原面	青磁	埴	常陸	【大守府分館坪倉4期】 騎龍押文		04477
2	SD2165 A層堆積土	青磁	埴	常陸			04471
3	SD2165 埴原面	陶器	甕	常陸	押印跡		04473
4	SD2338 埴原土	転用磁	転用	常前	須磨産甕を転石に転用		04492
5	SD2247 埴原土	陶器	瓶子	常前			04483
6	SD2113 埴原面	陶器	片口鉢	存地			04460
7	SD2165 埴原面	陶器	甕	常前	【常前5~6a型式票々】		04475
8	SD2165 埴原面	転用磁	転用	常前	常前屋片口鉢を転石に転用		04472
9	SD2165 埴原土	陶器	片口鉢	存地			04482
10	SD2165 B層堆積土	転用磁	転用	常前	須磨産甕を転石に転用		04469
11	SD2015 埴原土	転用磁	転用	常前	常前産甕を転石に転用		04459
12	SD2269 B層堆積土	陶器	甕	常前	(形状)		04484
13	SD2165 B層堆積土	陶器	甕	常前	押印(鳥格子+船格子) ハケム工具によるナデ		04470
14	SD2113 埴原面	陶器	甕	常前	2~3型式票々 押印(格子)		04459
15	SD2360 埴原面	陶器	甕	常前	(形状)		04500
16	SD2165 埴原面	石製品	砥石		長6.2 幅5.6 厚1.4		04479
17	SD2165 埴原面	銅製品	銭貨		「寛永通寶」(初鋳1630年)		04480
18	SD2015 埴原土	銅製品	銭貨		「照永通寶」(初鋳1068年)		04450

図版207 D区溝跡出土遺物

遺構No.	検出長(m)	断面形	規模 (m)			方向	埋没土	出土遺物	備考	埋 入		
			上幅	下幅	深さ					平面	断面	
S D1756	南北2.6	逆台形	2.8~3.0	1.2~1.4	0.7	南北(N10° W前後)	自然-入込	瓦溝溝 S D1494と一連の遺構 S X 1307→S D1756	39			
S D2014	東西12.4	扇形	0.3	0.2	0.1	東西(E 4° N)	自然?	S D2014→S D2015	143	205		
S D2015	十字:北辺 10.0, 南辺 27.5, 西辺 11.7	逆台形	0.7~0.9	0.4	0.3	南北: N 2° E前後, 東西: N 3° ~2° S	自然	埋) ロクロ, 転用紙, 磁器片, 鏡「唐 等元貨」(若狭1989年)	40	47		
S D2020 A・B	南北236.9	A: 逆台形 B: 逆台形	A: 0.4以上 B: 1.6~ 1.6	A: 0.4 B: 0.3~ 0.4	A: 0.4 B: 0.6	南北(N10°~18° W)	自然	B3層) 音筒陶, 常滑焼, モモ林 B2層) 常滑焼, 転用紙, ロクロ B 1層) ロクロ, クマ下遺物 B埋) 常 滑片口鉢・甕, 在地焼, 音筒陶, ロク ロ, 磁石, クマ下遺物 B埋) クマ下 遺物	29+40	205		
S D2024	南北5.1	逆台形?	1.0以上	0.3以上	0.4	南北(N10° W)	自然	埋) 在地遺物	40			
S D2104	東西12.3	扇形	1.0	0.5	0.2	東西(E 3° N前後)	自然	S D2020→S D2104	143	205		
S D2110	南北13.1	扇形	0.5	0.2	0.1	南北(N 1° E前後)	自然	1層) 常滑焼	143			
S D2113	東西40.0	逆台形	1.0	0.5	0.3	東西(E 6° N前後)	自然	埋) 常滑焼, 在地片口鉢・甕, ロクロ	40			
S D2148	東西65.0	扇形	0.6	0.2	0.2	東西(E 12° N前後)	自然	S D2020→S D2148 S D2195と一連 ?	40			
S D2150	東西60.0	扇形	0.6~1.0	0.3~0.5	0.2~0.3	東西(E 15° N前後)	自然	埋) 陶器鉢	40	180+205		
S D2165 A・B	東西66.0	A: 扇形 B: 逆台形	A: 1.4以上 B: 1.6~ 2.0	A: 1.2以上 B: 0.7	A: 0.1 B: 0.6	東西 (E10°~20° N)	自然	A埋) 音筒陶, 常滑焼 B埋) 常滑 焼, 在地焼, 転用紙, モモ林, クマ 下遺物 B埋) 常滑片口鉢・甕, 瀬戸瓶 子, 在地焼, 音筒陶, 陶器鉢・甕・ 甕, 染付陶, 甕, 軟質陶土器磁石, 磁石, 鏡「夏水鏡貨」	40	205		
S D2195	東西60.5	扇形	0.8	0.4	0.2	東西(E 15° N前後)	自然	埋) 陶器皿	40	205		
S D2206	十字:南北 1.0, 東西4.0	扇形	0.2~0.4	0.2	0.2	東西(E 15° N前後)	自然		142			
S D2207	南北2.3	逆台形	0.6~0.8	0.2	0.2	南北(N20° W前後)	自然	埋) ロクロ	142			
S D2208	南北2.4	逆台形	0.8	0.3	0.2	南北(N20° W前後)	自然	S D2208→S K2209→S K2213	142			
S D2215	南北2.4	扇形	1.3	1.0	0.2	南北(N 3° W前後)	自然	S K2220→S D2215	144	205		
S D2232	南北2.9	扇形	0.6	0.3	0.2	南北(N20° W前後)	自然	S D2195→S D2232→S K2231	142			
S D2233	東西5.7	扇形	0.5	0.2	0.2	東西(E 20° N前後)	自然	S D2235→S D2233 S D2232と同遺 構?	142			
S D2234	東西3.7	扇形	0.6	0.3	0.3	東西(E 20° N前後)	自然		142			
S D2235	南北20.3	扇形	0.6~0.8	0.2	0.2	南北(N20° W前後)	自然	S D2235→S D2195・2233・2234	142			
S D2239	東西6.9	扇形	0.5~0.6	0.2	0.2	東西(E 9° N)	自然		141			
S D2247	東西5.5	逆台形	0.7	0.5	0.3	東西(E 8° N前後)	自然	S K2246→S D2247→S D2165	141	191		
S D2262	十字:東西 15.0, 南北2.8	逆台形	0.5~0.7	0.2~0.4	0.2	南北(E 5° ~11° N) 南北(N20° E前後)	自然	S D2262→S K2263・2264・2265・ 2266	139			
S D2269	南北3.4	扇形	2.0	0.6	0.3	南北(N11° W前後)	自然	埋) 染付陶, 常滑焼	遺物	S D2301の埋没部分?	139	
S D2270	十字:南北 8.5, 東西4.1	扇形	1.0	0.4~0.6	0.2	東西(E 25° N) 南北 (N 1° ~5° E)	自然	S D2270→S E2276・2277・S K2271	140			
S D2291	南北12.8	扇形	3.8	5.0	0.2	南北(E 5° E~N22° W)	自然	埋) 陶器鉢?	S D2291→S D2292→S K2294→S K 2295 S D2291→S E2293 遺物	140	205	
S D2292	南北12.0	扇形	1.1	0.5	0.2	南北(N 0° ~10° W)	自然	埋) 常滑焼	S D2291→S D2292→S K2295→S K 2294 S D2292→S E2293 遺物	140	205	
S D2301	東西38.8	逆台形?	2.0以上	?	0.7以上	東西(E 1° ~7° S)	自然	下層) 漆棺, 漆封 上層) 切込? 磁 鏡「9C以降」、陶器鉢・鉢・甕・ ひょうそう, 釘, 磁石 埋) 陶器鉢・ 磁石, 染付磁器, 磁器「65a」 音筒陶, 常滑焼	瓦溝溝 音筒陶 S D1494と同遺構 現代の溝によって土層が壊される S D2303・2306・S E2306・S K2271→ S D2301	140		
S D2319	東西15.8	逆台形	0.6~0.8	0.3~0.4	0.2	東西(E 19° N前後)	自然	埋) 常滑焼	S D2340・2303→S D2319 S D2319 →S K2346	140		
S D2320	南北2.8	逆台形	0.4	0.2	0.2	南北(N 2° W前後)	自然		140			
S D2321	南北4.1	逆台形	0.4	0.2	0.2	南北(N 2° W前後)	自然		140			
S D2327	南北2.6	扇形	1.0	0.3	0.2	南北(N 9° W前後)	自然		142			
S D2338	南北10.6	逆台形	0.4	0.2	0.3	南北(N10° ~20° W)	自然	埋) 転用紙	S K2303→S D2338 S D2302と同遺 構?	140	193	
S D2339	南北21.8	扇形	0.6	0.3	0.2	南北(N 0° ~7° E)	自然		S D2339→S D2342→S D2341 S D 2339→S D2319・2343 5区S D1801 と同遺構?	140	198	
S D2340	南北11.2	扇形	0.6	0.5	0.1	南北(N 9° W前後)	自然		S D2340→S D2319→S K2346 S D 2340→S K2345	140		
S D2342	東西11.8	扇形	0.7	0.4	0.2	東西(E 15° N前後)	自然		S D2383→S D2342 S D2339→S D 2342→S K2341	140		
S D2343	東西11.8	扇形	3.1	1.2	0.3	東西(E 12° N前後)	自然		S K2348→S D2339→S D2343	140		
S D2350	南北2.7	逆台形	0.4	0.3	0.2	南北(N20° W前後)	自然		S D2350→S D2351	140	200	
S D2351	南北2.8	逆台形	0.8	0.3	0.4	南北(N10° W前後)	自然		S D2352→S K2349→S D2351	140	200	
S D2352	南北2.5	逆台形	0.6	0.4	0.3	南北(N 8° W前後)	自然		S D2352→S K2349→S D2361 S D 2338と同遺構?	140	205	
S D2360	南北10.7	扇形	1.5	0.6	0.3	南北(N10° ~20° W)	自然	埋) 常滑焼	S D2363→S D2360→S D2363	140	205	

第11表 D区清跡属性表(1)

遺構No.	検出長(m)	断面形	尺 寸 (m)			方 向	堆積土	出 土 遺 物	備 考	尺 寸	
			上幅	下幅	深さ					上面	断面
S D2362	南北38.2	逆台形	1.1以上	0.8	0.5	南北(N15° W前後)	自然		S D2362→S D2369→S D2363→S E 2361 S D2362→S K2358	140・142	41
S D2363	南北50.8	逆台形	2.5以上	1.0	0.8	南北(N15° W前後)	自然→人高	【遺】青磁磁碗、黄瀬片口鉢・甕・甕、 在焼片口鉢・甕・甕、ロタロ小甕・ 皿、転用砥、ウマ上顎歯、ウシ下顎歯	区画溝 溝IV遺 S D2362→S D2363 →S D2165→S D2361・2364・2366	39・40	41
S D2364	南北25.2	逆台形	5.9	3.5?	0.6	南北(N12° W前後)	自然	【遺】急付碗・皿・壺、陶磁器・漆・土 瓶・埴輪・甕、軟質施釉土器磁碗、 瓦、キセル、包丁、軟製品、磁石、モ ミ散	区画溝 溝IV遺 S D2361と連続? S D2363→S D2165→S D2364		40
S D2366	L字:東西 L字:東西1.4 東西1.4	皿形	0.3	0.1	0.2	L字(南北: N 9° 東西E12° S)	自然		S D2165→S D2366 S D2366→S K 2358	142	

※ 出土遺物のロタロはロタロかわらけ、手づくねは手づくねかわらけ、在焼は官製場内で生産された中世陶器を指す
※ 出土遺物の陶器は近世陶器を指す

第12表 D区溝跡属性表(2)

ルトを主体としており自然堆積と考えられる。

A期堆積土から常滑産甕や龍泉窯系青磁碗(2)、B期堆積土から常滑産甕(図版207-13)、在地産甕、転用砥(図版207-10)、モモ核やウマ上顎歯、確認面から常滑産片口鉢・甕(7)、瀧美産甕(3)、在地産甕、瀬戸産瓶子、龍泉窯系青磁碗(図版207-1)、陶器碗・皿・壺、染付碗・皿、軟質施釉陶器焙烙、砥石(図版207-16)、転用砥(図版207-8)や銭貨「寛永通寶」(図版207-17)が出土している

【S D2195溝跡】(図版40・205)

D区中央部で確認した東西溝跡で、40.5m分を検出した。南には2.0m前後の間隔で併行するS D2150溝跡がある。西延長線上にあるS D2148溝跡は一連の遺構と考えられ、その場合の東西長は59.0mほどとなる。S D2235溝跡より新しく、S K2191・2196・2231・2232土壌より古い。上幅0.8m、下幅0.4m、深さは0.2mある。方向はE-15° -N前後で、断面形は皿形である。堆積土は2層に分けられるが、いずれも黒褐色シルトを主体としており、自然堆積と考えられる。堆積土から陶器皿が出土している。

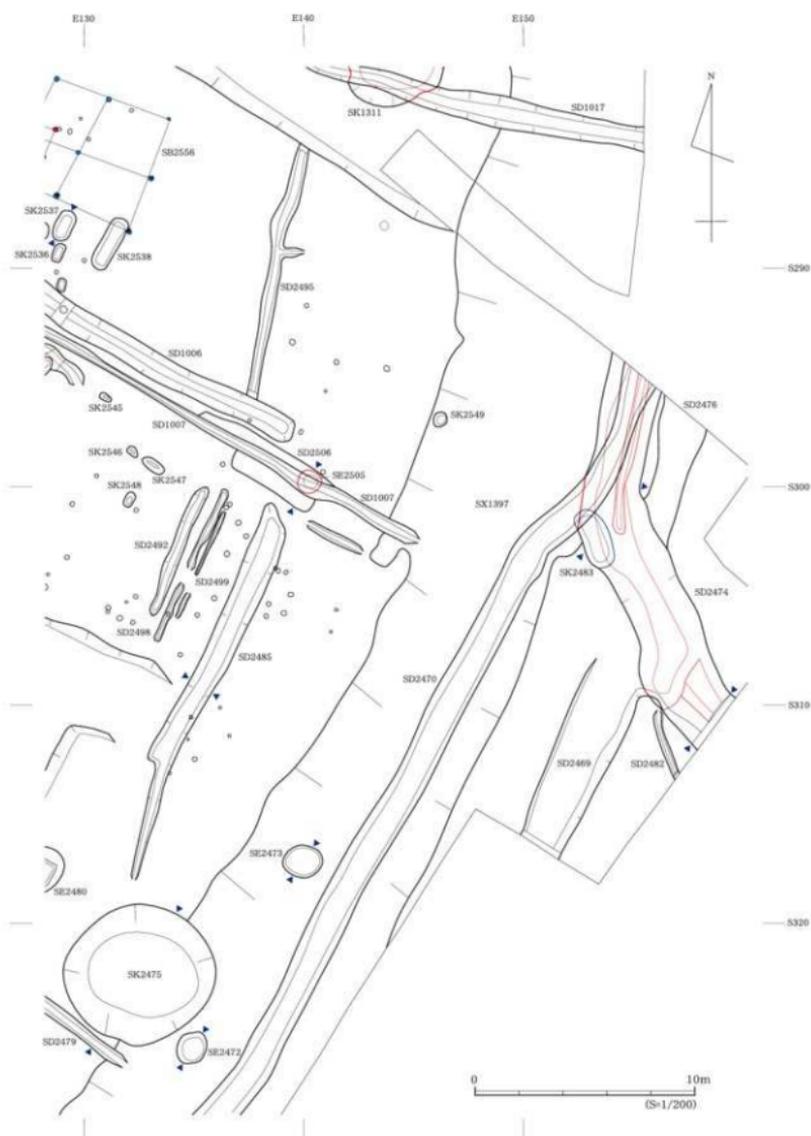
(5) B区

今回報告するのは、B2区南東部とB3区東半部である。双方とも東端はS X1397遺物包含層が形成された湿地跡に面する。B2区では、『II』で区画Gの副屋と考えられた建物群を検出し、個々の建物について規模が確定した。建物群とS X1397の間は、土壌・溝跡が分布する。B3区は、市教委第4次調査区の北と東に位置する。北部は近世とみられる墓域が確認され、S X1397との間は土壌や溝跡がまばらに分布する(図版208~210)。

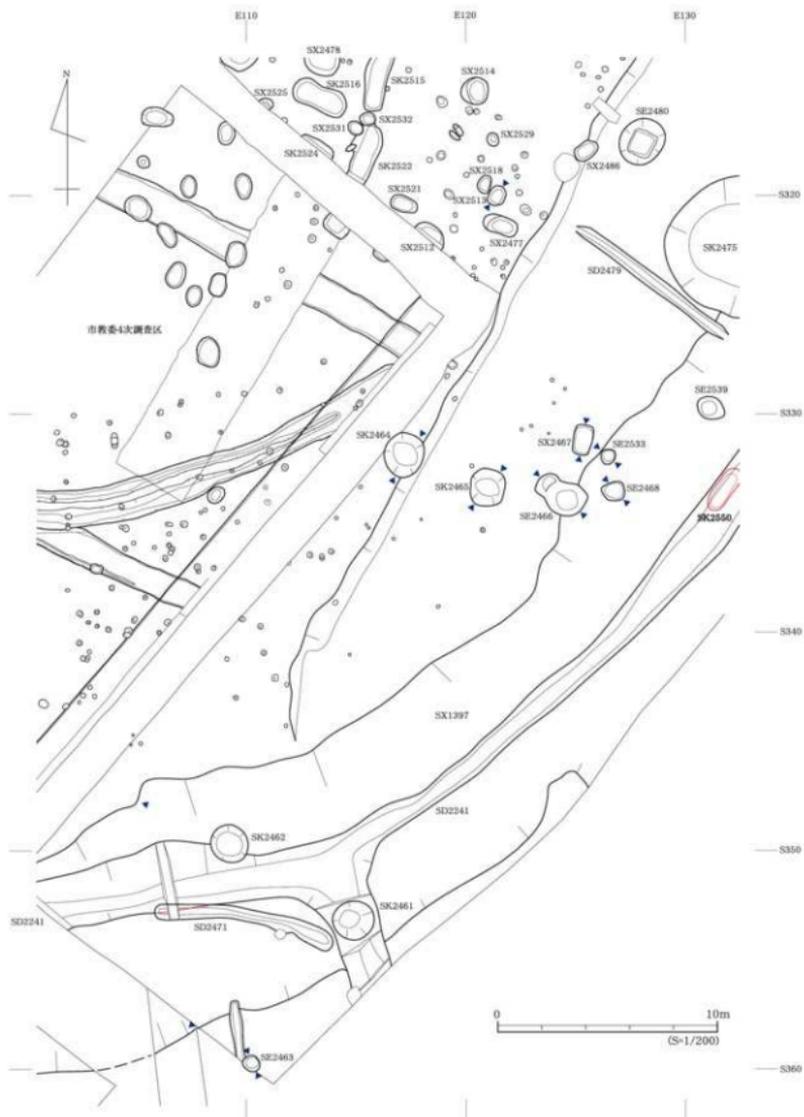
遺物は掘立柱建物跡の柱穴や井戸跡、土壌、溝跡から、土器・陶磁器・木製品・石製品・金属製品などが出土したが、『II』で報告したB区西半部に較べて出土量は少ない。



図版208 B区中央部の検出遺構



図版209 B区中央部東側の検出遺構



図版210 B区南東部の検出遺構



B区空中写真（南から）



B区空中写真（北から）



B区空中写真

左が北

図版211 B区の検出遺構（1）



B区の建物跡（北から）



B区北東部の遺構（東から）
手前がSX1397



B区北東部の遺構（東から）
手前がSK2475

図版212 B区の検出遺構（2）

a. 掘立柱建物跡

14棟の建物跡を検出した。このうちSD1007溝跡北側の11棟は、『II』で報告した区画Gの副屋である。それぞれの属性は、第13表にまとめた。

【SB1054建物跡】（図版213・214）

東西2間、南北3間の南北棟建物跡である。内部に柱穴（W2・S2）があることから、床張りの建物とみられる。SB2553建物跡、SK1012土壌より新しく、SB1058建物跡より古い。柱穴は10個検出しており、うち5ヶ所で径10～12cmの柱痕跡、1ヶ所で柱抜取穴を確認した。平面規模は桁行きが西側柱列で総長6.0m、柱間寸法は北から2.0m・1.8m・2.2m、梁行きは南妻で総長3.8m、柱間は西から1.6m・2.2mとみられる。方向は西側柱列で測るとN-21°-Eである。柱穴は径30～50cmの円形もしくは楕円形で、深さは20～30cmある。埋土は地山ブロックを含む黒褐色シルトである。

【SB1055建物跡】（図版213・214）

東西2間、南北3間の南北棟建物跡である。SK1012土壌より新しい。柱穴は10個すべて検出しており、うち5ヶ所で径15cm前後の柱痕跡、1ヶ所で柱抜取穴を確認した。平面規模は桁行きが東側柱列で総長5.6m、柱間寸法は北から1.9m・1.8m・2.0m、梁行きは南妻で総長3.5m、柱間は西から1.6m・1.9mとみられる。方向は東側柱列で測るとN-22°-Eである。柱穴は径20～30cmの円形・楕円形・隅丸方形で、深さは20～40cmある。埋土は地山ブロックを少し含む黒褐色シルトである。埋土よりかわらけが出土している。

【SB1056建物跡】（図版213・214）

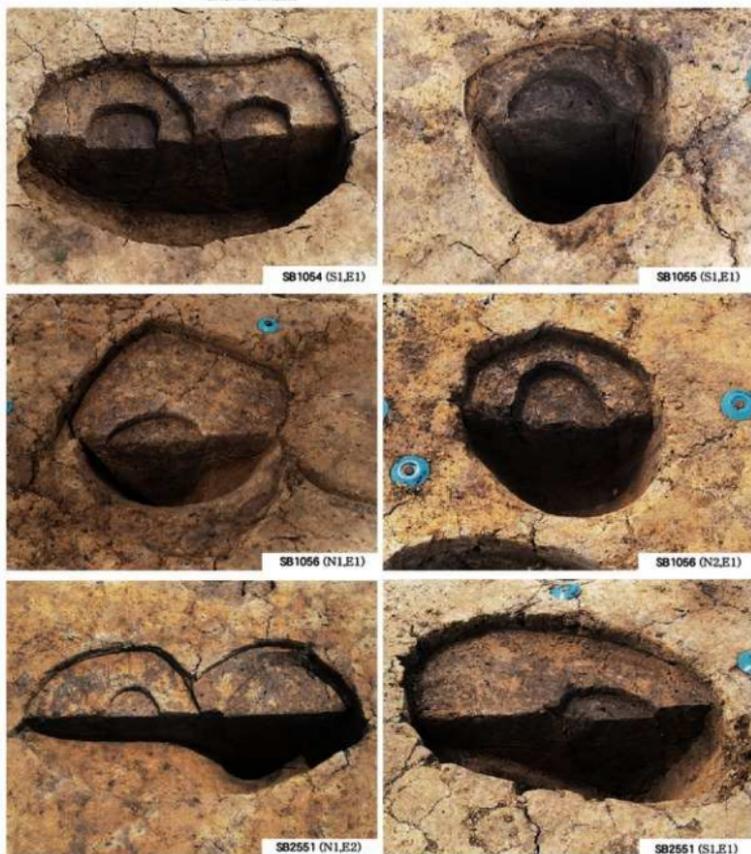
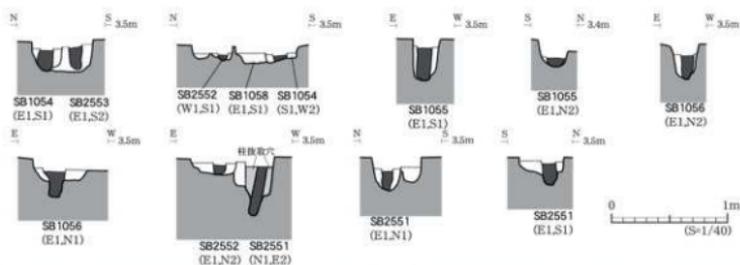
東西5間、南北2間の身舎の北側に縁もしくは廂が1間付く東西棟建物跡である。柱穴は身舎で7個、縁または廂で5個検出し、うち身舎1ヶ所で径12cmほどの柱痕跡、身舎と縁（または廂）の1ヶ所ずつで柱抜取穴を確認した。平面規模は桁行きが北側柱列で総長6.5m、柱間寸法は西から1.1m・1.2m・1.2m・3.1m（2間分）、梁行きは西妻で総長3.4m、柱間は身舎が南から1.4m・1.2mで、縁（または廂）の出は0.8mとみられる。方向は北側柱列で測るとE-14°-Sである。柱穴は身舎、縁（または廂）とも径20～40cmの楕円形で、深さは20～30cmある。埋土は炭化物や地山ブロックを含む黒褐色シルトである。

【SB1057建物跡】（図版213）

東西1間、南北4間の南北棟建物跡である。SB1053・2551・2552建物跡より古い。柱穴は8個検出しており、うち4ヶ所で径9～12cmの柱痕跡を確認した。平面規模は桁行きが東側柱列で総長7.4m、柱間寸法は北から2.0m・1.5m・2.2m・1.7mとみられ、梁行きは北妻で3.5mである。方向は東側柱列で測るとN-9°-Eである。柱穴は径30～50cmの円形もしくは楕円形で、深さは30cm前後ある。埋土は地山ブロックを主体とし、黒褐色シルトを含む。

【SB1058建物跡】（図版213・214）

東西3間、南北3間の南北棟建物跡である。SB1054・2553建物跡より新しい。柱穴は8個検出した。平面規模は桁行きが東側柱列で総長5.0m、柱間寸法は南から1.2m・3.0m（2間分）、梁行き



图版214 SB1052~1058·2551建物跡柱穴断面